

八王子市
新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査
調査報告書

令和5年3月

八 王 子 市



もくじ

I 調査概要	1
1 調査目的	3
2 調査設計	3
3 調査内容	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	4
II 調査結果概要	5
1 あなたご自身のことについて	7
2 地域での暮らしについて	7
3 地域活動への参加について	9
4 地域防災について	10
5 市の福祉施策や制度、サービスについて	10
III 調査結果	13
1 あなたご自身のことについて	15
(1)回答状況	15
(2)年齢	16
(3)居住年数	16
(4)居住地域	17
(5)同居者	20
(6)住まいの種類	21
(7)職業	22
(8)世帯年収	23
2 地域での暮らしについて	24
(1)暮らしの満足度	24
(2)生活状況	26
(3)日頃の隣近所とのつきあい方	28
(4)今後の隣近所とのつきあい方	31
(5)新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響	35
(6)毎日の暮らしの中での悩みや不安	36
(7)悩みや不安、困り事の相談先	38
(8)近所で悩みや不安、困り事がある場合の相談先	39
(9)住民相互の協力関係の必要性	40
(10)地域で協力して取り組む必要があること	42

(11)住民相互の協力関係が必要ない理由.....	45
(12)誰もが安心して暮らしていくために必要なこと	46
3 地域活動への参加について	48
(1)地域活動への参加の有無	48
(2)地域活動で参加した団体	51
(3)地域活動で参加した活動	54
(4)地域活動に参加していない理由	56
(5)地域活動に参加したいと思う条件や内容	59
(6)今後の地域活動への参加	62
4 地域防災について.....	63
(1)大規模災害等の発生時に頼りにしている人	63
(2)災害時の避難場所	66
(3)避難時の行動計画	67
(4)緊急時に支援が必要な近所の人.....	68
5 市の福祉施策や制度、サービスについて	70
(1)福祉にかかわる制度や言葉の認知度	70
(2)福祉サービスや制度の仕組みのわかりやすさ	72
(3)福祉に関する講習や説明会への参加希望	73
(4)希望する福祉の情報の入手手段.....	74
(5)地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係	76
(6)八王子まるとサポートセンターの利用意向	79
(7)生活自立支援課の相談窓口の認知度	81
(8)生活困窮者に対して重要な取組	83
6 自由記述	85
(1)生活環境について	85
(2)地域活動について.....	86
(3)地域福祉について.....	87
(4)福祉サービスについて	88
(5)行政全般について.....	89
(6)情報について	90
(7)まちづくりについて.....	91
(8)安全・安心について	92
(9)その他	92
IV 調査票	93

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、市民の「地域福祉」に関する考えや意見を把握し、令和6年度からの新たな計画「第4期八王子市地域福祉計画」策定の基礎資料にするとともに、本市の地域福祉推進に有効活用することを目的として実施しました。

2 調査設計

- (1)調査対象：市内在住の18歳以上の市民
- (2)標 本 数：3,000人
- (3)抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (4)調査方法：郵送配布・回収
- (5)調査期間：令和4年10月28日(金)～令和4年11月14日(月)

3 調査内容

- (1)あなたご自身のことについて
- (2)地域での暮らしについて
- (3)地域活動への参加について
- (4)地域防災について
- (5)市の福祉施策や制度、サービスについて

4 回収結果

- (1)配 布 数：3,000人
- (2)有効回収数：1,205人(回答方法 紙：965人 Web：240人)
- (3)有効回収率：40.2%

5 報告書の見方

■集計全般について

- ・回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示しています。
- ・小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・本文や図表中の選択肢表記は、実際の調査票で使用した語句を短縮または簡略化している場合があります。
- ・本文の「前回の調査」とは、平成28年度に実施した同様のアンケート調査のことです。また、「これまでの調査」との比較として、平成23年度に実施した同様のアンケート調査の結果を掲載している場合があります。

■クロス集計について

- ・クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・今回のクロス集計においては、表側(左)側の項目(選択肢)を選択した人を回答者数(n)とし、これを基数として表頭(上)側の項目(選択肢)の割合を百分率(%)で示してあります。表側側の選択肢が無回答またはその他などの場合は表示しないことがあります。
- ・回答の傾向が異なる場合でも、回答者数が少ない場合などは言及しないことがあります。

Ⅱ 調査結果概要

1 あなたご自身のことについて

調査内容	調査結果	頁
回答状況	これまでの調査用紙による回答に加え、Webでの回答ができるようにしました。 Webでの回答は19.9%で、年齢が低いほど回答が多く、30歳未満では半数がWebでの回答となっています。	15
年齢	「60歳以上」が52.9%を占めています。	16
居住年数	「20年以上」が69.0%を占めています。 年齢が高いほど居住年数が長くなっています。	16
同居者	「配偶者」が63.2%を占めており、次いで、「子ども」が39.8%となっています。「ひとり暮らし」との回答は15.9%でした。	20
住まいの種類	「持ち家」が73.9%を占めています。 30歳未満と30歳代では、「住まいを借りている」が約40%で他の年齢より多くなっています。	21

2 地域での暮らしについて

調査内容	調査結果	頁
暮らしの満足度	すべての項目で『満足』(かなり満足+まあ満足)との回答が『不満』(かなり不満+やや不満)を上回っています。 満足度(5段階評価した平均点)が高い順に、「総合的な暮らしやすさ」(3.56)、「隣近所などのおつきあい」(3.55)、「病院など医療機関の対応」(3.42)、「地域の防災体制」(3.31)などとなっています。	24
生活状況	「経済的に困窮している」と「移動手段が限られていて、外出が難しい」が7.6%となっています。 80歳以上では20.5%が「移動手段が限られていて、外出が難しい」と回答しています。	26
日頃の隣近所とのつきあい方	「会えばあいさつをかわす」が48.8%で最も多くなっています。 前回の調査と比較すると、「会えばあいさつをかわす」と「つきあいはほとんどない」が増加しています。 また、年齢が低いほど「つきあいはほとんどない」が多くなる傾向がみられます。	28

Ⅱ 調査結果概要

調査内容	調査結果	頁
今後の隣近所とのつきあい方	「会えばあいさつをかわしたい」が37.1%で最も多くなっています。前回の調査と比較すると、「会えばあいさつをかわしたい」と「つきあいはしたくない」が増加し、他の項目は減少しています。また、日頃の隣近所とのつきあい方と同様に、年齢が低いほど「つきあいはしたくない」が多くなる傾向がみられます。	31
新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響	過半数が何らかの影響を感じており、「他人との関係の希薄化」が25.7%で最も多く、次いで「自粛要請等による心身への影響」が22.9%となっています。特に30歳代では70%以上が何らかの影響を感じており、「他人との関係の希薄化」と「失業等による生活困窮」が他の年齢より多くなっています。	35
毎日の暮らしの中での悩みや不安	「自分や家族の老後のこと」が57.1%で最も多く、以下「自分や家族の健康に関すること」が55.1%、「収入や生活費に関すること」が39.8%などとなっています。「収入や生活費に関すること」は年齢が低いほど多くなっており、30歳未満では68.6%を占めています。	36
住民相互の協力関係の必要性	「まあ必要だと思う」が55.9%で最も多く、次いで「かなり必要だと思う」が15.8%となっています。これまでの調査(過去2回)と比較すると、すべての調査において過半数が「まあ必要だと思う」と回答しています。一方で、「かなり必要だと思う」は減少を続けています。	40
地域で協力して取り組む必要があること	「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が49.1%で最も多く、以下「地域の防犯体制づくり」が32.3%、「地域の防災体制づくり」が28.0%、「自治会・町内会やボランティアなどの地域活動」が25.3%などとなっています。年齢が高いほど「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が多く、年齢が低いほど「地域の防犯体制づくり」が多くなる傾向がみられます。また、30歳代では「子どもが安心して暮らせる環境づくり」が61.8%を占めています。	42
住民相互の協力関係が必要ない理由	「個々の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから」が45.0%で最も多く、以下「住民相互の協力関係にあまり期待していないから」が44.3%、「地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから」が32.1%などとなっています。前回の調査と比較すると、「地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから」が13.6ポイント増加しています。	45

3 地域活動への参加について

調査内容	調査結果	頁
地域活動への参加の有無	52.4%が地域活動に参加したことがあると回答しています。 居住年数が5年未満では17.5%の参加にとどまっています。	48
地域活動で参加した団体	「町会・自治会」が80.3%で最も多く、次いで「学校、PTA、子供会等」が46.8%となっています。 前回の調査と比較すると、「町会・自治会」が5.8ポイント増加しています。	51
地域活動に参加していない理由	30歳未満では、「時間がないから」が最も多くなっています。 30歳代と50歳代、60歳代では、「機会がないから」が最も多くなっています。 40歳代では、「仕事が忙しくて余裕がないから」が最も多くなっています。 70歳代と80歳以上では、「自分の生活で精一杯だから」が最も多くなっています。	56
地域活動に参加したいと思う条件や内容	30歳未満と40歳代では「自由な時間に参加できる」が最も多くなっています。 50歳代では、「自由な時間に参加できる」に加えて「精神的な負担が少ない」が同率で最も多くなっています。 60歳代では、「役員や当番などがいない」が最も多くなっています。 30歳代と70歳代、80歳以上では、「身近な場所で活動できる」が最も多くなっています。	59
今後の地域活動への参加	「機会があれば参加したい」が50.8%で最も多く、次いで「あまり参加したくない」が21.3%となっています。 30歳未満では、「参加したくない」が17.4%で他の年齢より多くなっています。 80歳以上では、30.3%が「参加することができない」と回答しています。	62

4 地域防災について

調査内容	調査結果	頁
大規模災害等の発生時に頼りにしている人	「家族」が84.5%で最も多く、以下「友人・知人」が31.5%、「近所の人」が30.4%、「親戚」が27.4%などとなっています。 前回の調査と比較すると、全体的に割合が低くなっています。 なお、「いない」は4.1%となっています。	63
災害時の避難場所	「決まっている」が57.9%、「決まっていない」が40.7%となっています。	66
避難時の行動計画	「立てている」が28.2%、「立てていない」が69.6%となっています。	67
緊急時に支援が必要な近所の人	「知っている」が14.3%、「知らない」が82.7%となっています。	68

5 市の福祉施策や制度、サービスについて

調査内容	調査結果	頁
福祉にかかわる制度や言葉の認知度	「民生委員・児童委員」が58.6%で最も多く、以下「社会福祉協議会」が42.7%、「高齢者あんしん相談センター」が36.9%、「成年後見制度」が33.4%などとなっています。 前回の調査と比較すると、全体的に認知度が低くなっています。	70
福祉サービスや制度の仕組みのわかりやすさ	「かなりわかりにくい」が32.6%で最も多く、次いで「ややわかりにくい」が31.9%となっています。 前回の調査と比較すると、依然として半数以上がわかりにくい(かなりわかりにくい+ややわかりにくい)と回答しています。	72
希望する福祉の情報の入手手段	「市の広報」が68.3%で最も多く、以下「市のホームページ」が39.4%、「回覧板」が25.1%、「新聞やテレビ、ラジオ」が19.2%などとなっています。 「市のホームページ」や「Twitter、Facebook、LINEなど」は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。 一方で、「回覧板」や「新聞やテレビ、ラジオ」、「社会福祉協議会だより」は、年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。	74
八王子まるごとサポートセンターの利用意向	「わからない」が60.0%を占めており、「利用したい」は31.1%、「利用したいと思わない」は6.0%となっています。 年齢が高いほど「利用したい」が多くなる傾向がみられ、80歳以上では43.2%となっています。	79

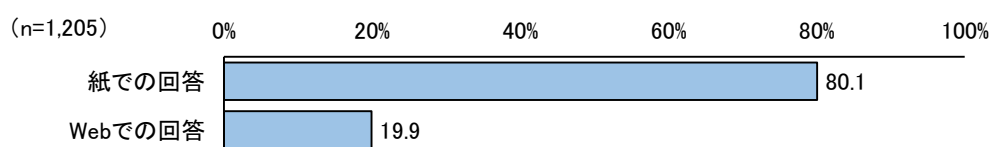
調査内容	調査結果	頁
生活自立支援課の 相談窓口の認知度	「知らなかった」が69.5%を占めており、次いで「知っているが、利用したことはない」が23.1%となっています。 前回の調査と比較すると、「知らなかった」が29.1ポイント増加しています。	81
生活困窮者に対し て重要な取組	「生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援」が71.4%を占めており、以下「世帯の子どもの学習面・生活面の支援」が37.8%、「住居の確保のための家賃額を有期で支給」が34.9%、「家計を立て直すためのアドバイス(計画)」が34.6%、「一般就労に向けた基礎能力を習得する就労準備支援」が33.1%となっています。	83

Ⅲ 調査結果

1 あなたご自身のことについて

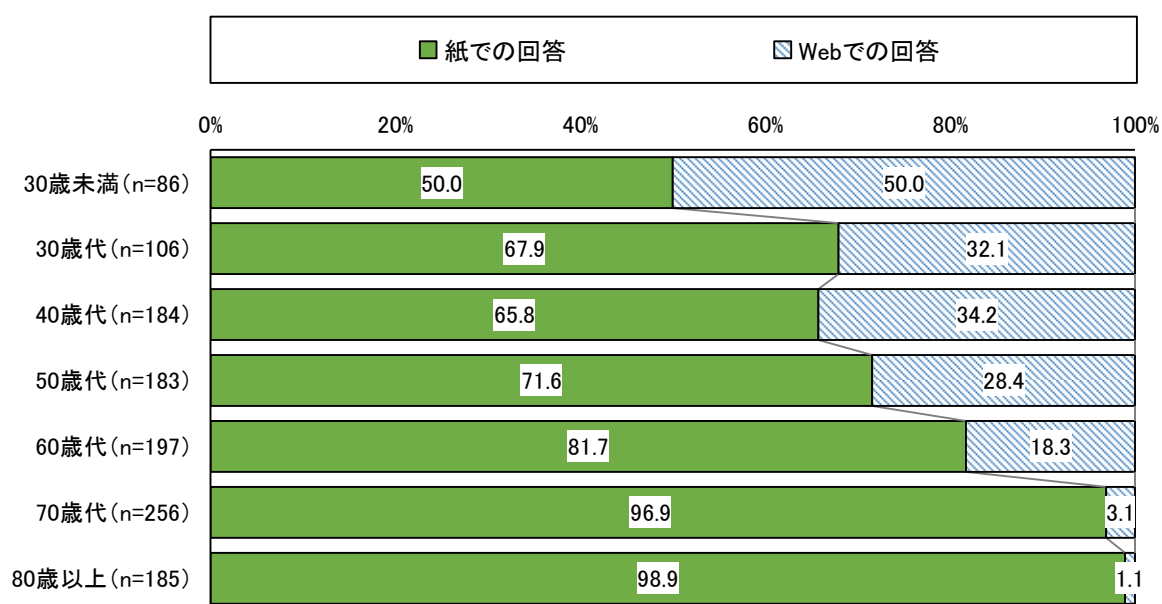
(1)回答状況

本調査は、「紙での回答」が80.1%、「Webでの回答」が19.9%となっています。



■年齢別＊回答状況

年齢別にみると、年齢が低いほど「Webでの回答」が多く、30歳未満では50.0%となっています。一方で、70歳代と80歳以上では90%以上が「紙での回答」となっています。

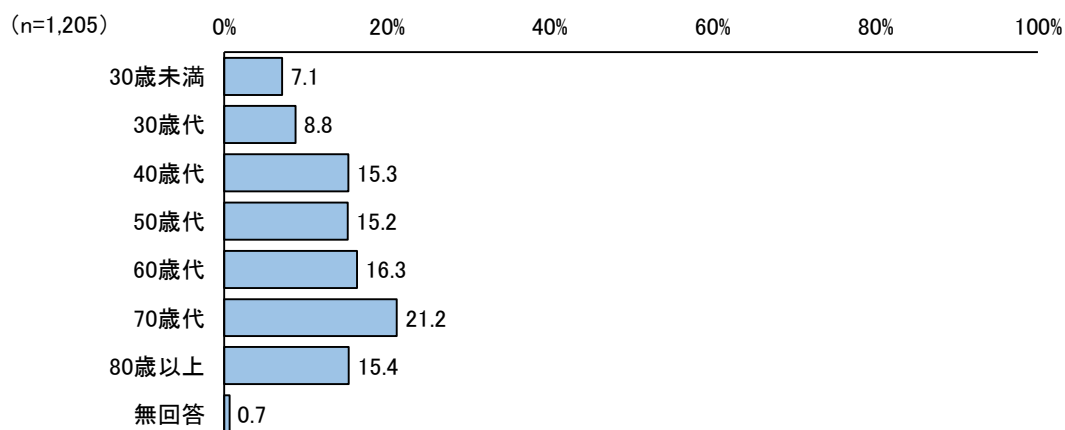


Ⅲ 調査結果

(2)年齢

問1 あなたの年齢はおいくつですか。(記入)

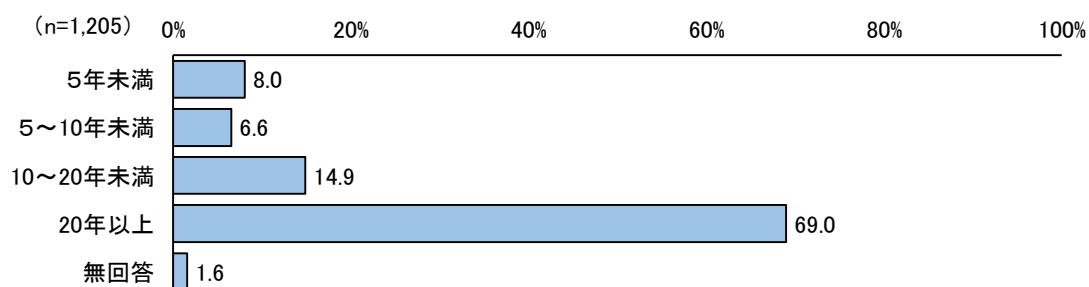
回答者の年齢は、「70歳代」が21.2%で最も多く、以下「60歳代」が16.3%、「80歳以上」が15.4%、「40歳代」が15.3%、「50歳代」が15.2%、「30歳代」が8.8%、「30歳未満」が7.1%となっています。



(3)居住年数

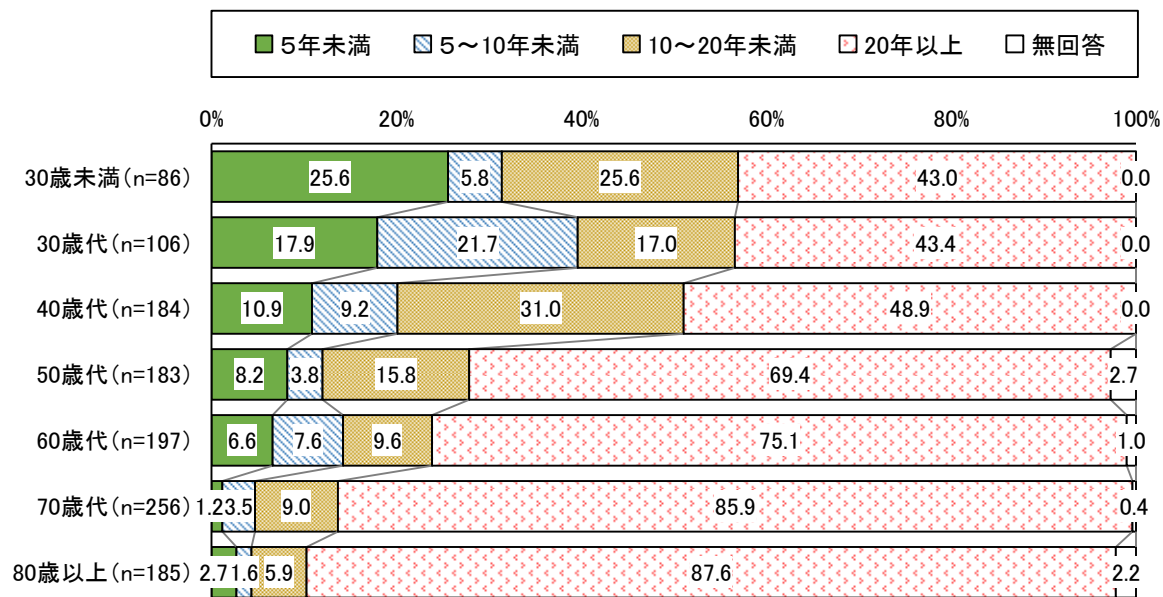
問2 あなたは八王子市に住まれて何年ですか。(記入)

回答者の居住年数は、「20年以上」が69.0%で最も多く、以下「10～20年未満」が14.9%、「5年未満」が8.0%、「5～10年未満」が6.6%となっています。



■年齢別＊居住年数

年齢別にみると、年齢が高いほど居住年数が長くなっていることがわかります。

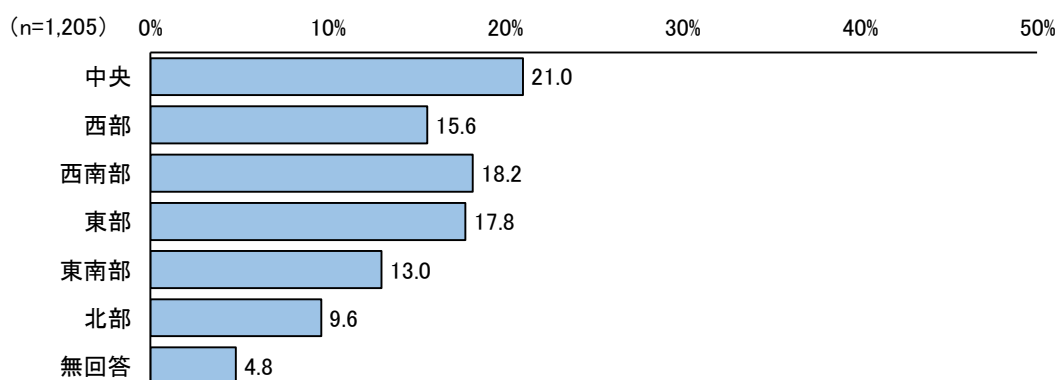


(4)居住地域

問3 あなたのお住まいの町(住所で「八王子市」の次に来るもの)はどちらですか。(記入)

■6圏域(「八王子ビジョン2022」(八王子市基本構想・基本計画等)による分類)

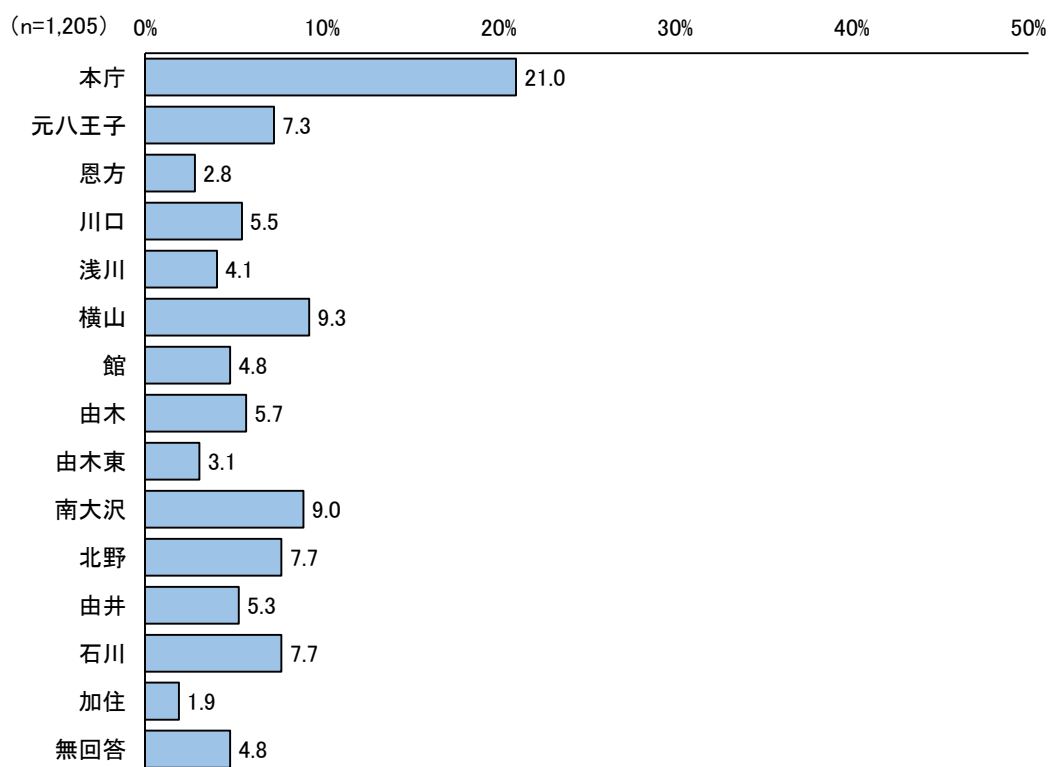
6圏域でみると、「中央」が21.0%で最も多く、以下「西南部」が18.2%、「東部」が17.8%、「西部」が15.6%、「東南部」が13.0%、「北部」が9.6%となっています。



Ⅲ 調査結果

■14 圏域(市民部の事務所の管轄区域による分類)

14圏域でみると、「本庁」が21.0%で最も多く、以下「横山」が9.3%、「南大沢」が9.0%、「北野」が7.7%、「石川」が7.7%、「元八王子」が7.3%などとなっています。



■圏域の区分

6圏域	14 圏域	町丁目
中央	本庁	横山町・八日町・八幡町・八木町・追分町・千人町(一丁目～四丁目)・日吉町・元本郷町(一丁目～四丁目)・平岡町・本郷町・大横町・本町・元横山町(一丁目～三丁目)・田町・新町・明神町(一丁目～四丁目)・子安町(一丁目～四丁目)・東町・旭町・三崎町・中町・南町・寺町・万町・上野町・天神町・南新町・小門町・台町(一丁目～四丁目)・中野町・暁町(一丁目～三丁目)・中野山王(一丁目～三丁目)・中野上町(一丁目～五丁目)・大和田町(一丁目～七丁目)・富士見町・緑町・清川町
西部	元八王子	大楽寺町・上壺分方町・諏訪町・四谷町・叶谷町・泉町・横川町・式分方町・川町・元八王子町(一丁目～三丁目)
	恩方	下恩方町・上恩方町・西寺方町・小津町
	川口	川口町・上川町・犬目町・檜原町・美山町
西南部	浅川	東浅川町・初沢町・高尾町・南浅川町・西浅川町・裏高尾町・廿里町
	横山	並木町・散田町(一丁目～五丁目)・山田町・めじろ台(一丁目～四丁目)・長房町・城山手(一丁目・二丁目)・狭間町
	館	櫛田町・館町・寺田町・大船町
東部	由木	下柚木・下柚木(二丁目・三丁目)・上柚木・上柚木(二丁目・三丁目)・中山・越野・南陽台(一丁目～三丁目)・堀之内・堀之内(二丁目・三丁目)
	由木東	東中野・大塚・鹿島・松が谷
	南大沢	鍵水・鍵水二丁目・南大沢(一丁目～五丁目)・松木・別所(一丁目・二丁目)
東南部	北野	北野町・打越町・北野台(一丁目～五丁目)・長沼町・絹ヶ丘(一丁目～三丁目)
	由井	小比企町・片倉町・西片倉(一丁目～三丁目)・宇津貫町・みなみ野(一丁目～六丁目)・兵衛(一丁目・二丁目)・七国(一丁目～六丁目)
北部	石川	高倉町・石川町・宇津木町・平町・小宮町・久保山町(一丁目・二丁目)・大谷町・丸山町
	加住	尾崎町・左入町・滝山町(一丁目・二丁目)・梅坪町・谷野町・みつ台(一丁目・二丁目)・丹木町(一丁目～三丁目)・加住町(一丁目・二丁目)・宮下町・戸吹町・高月町

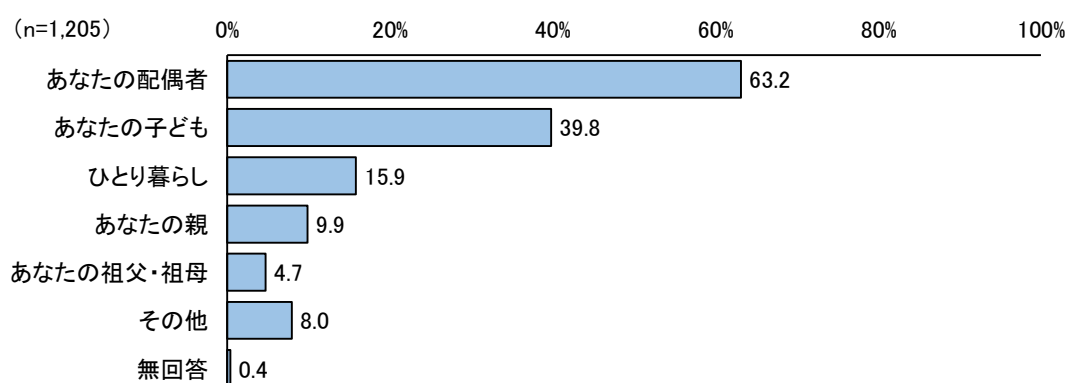
※地域を細分化することに伴い誤差が大きくなる恐れがあるため、主に6圏域による分析を行います。

(5)同居者

問4 あなたと一緒に住んでいるのはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

■一緒に住んでいる人

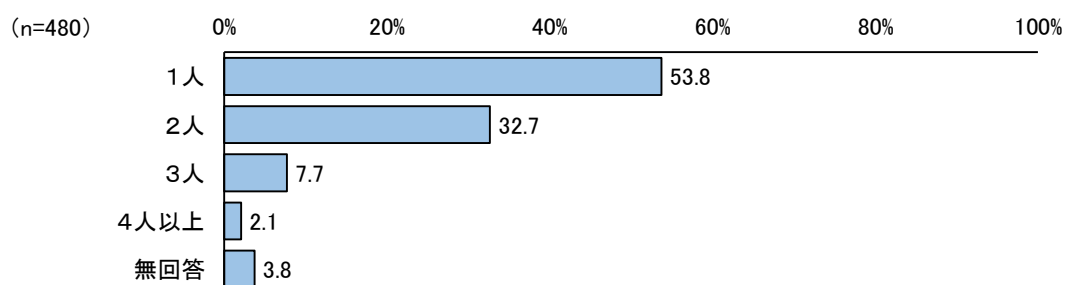
一緒に住んでいる人は、「あなたの配偶者」が63.2%で最も多く、以下「あなたの子ども」が39.8%、「ひとり暮らし」が15.9%、「あなたの親」が9.9%、「あなたの祖父・祖母」が4.7%となっています。



■子どもの人数

「あなたの子ども」と回答した人の子どもの人数は、「1人」が53.8%で最も多く、以下「2人」が32.7%、「3人」が7.7%、「4人以上」が2.1%となっています。

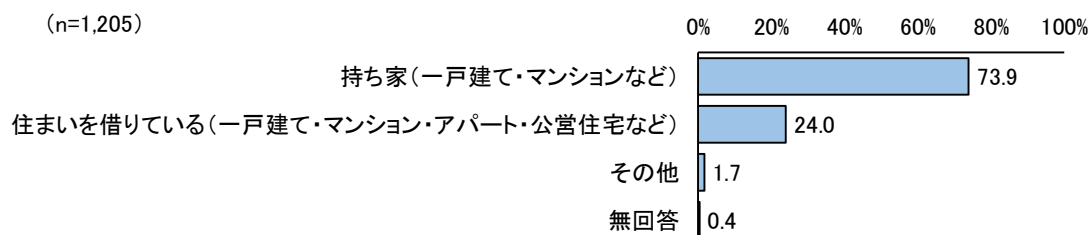
「4人以上」を4人とカウントした場合の平均値は1.57人となっています。



(6)住まいの種類

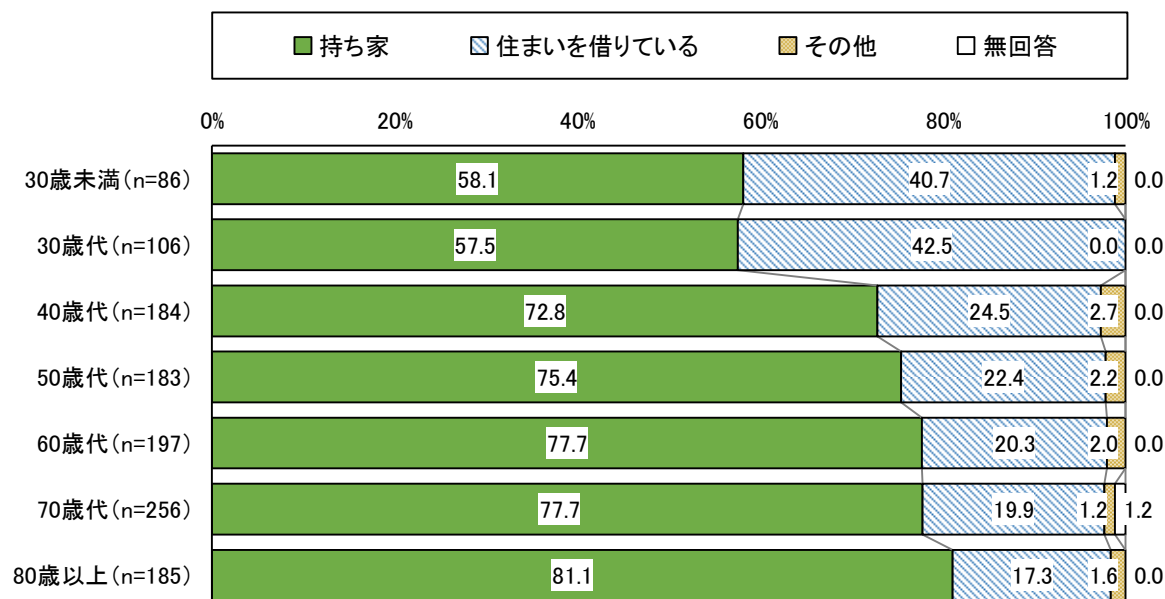
問5 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(○は1つ)

住まいの種類は、「持ち家(一戸建て・マンションなど)」が73.9%、「住まいを借りている(一戸建て・マンション・アパート・公営住宅など)」が24.0%となっています。



■年齢別＊住まいの種類

年齢別にみると、年齢が高いほど「持ち家」が多くなる傾向がみられます。

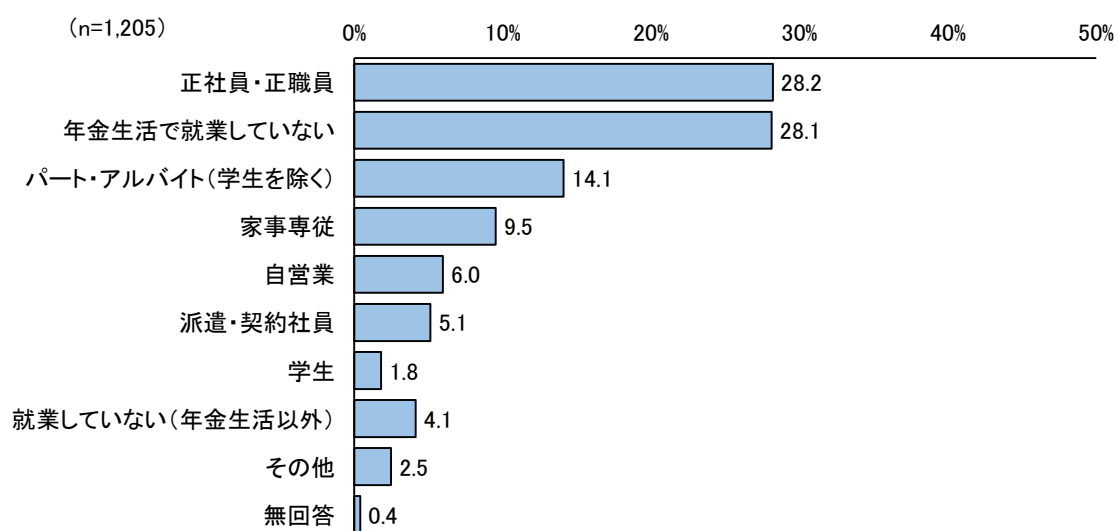


Ⅲ 調査結果

(7)職業

問6 あなたの職業は次のうちどれですか。(○は1つ)

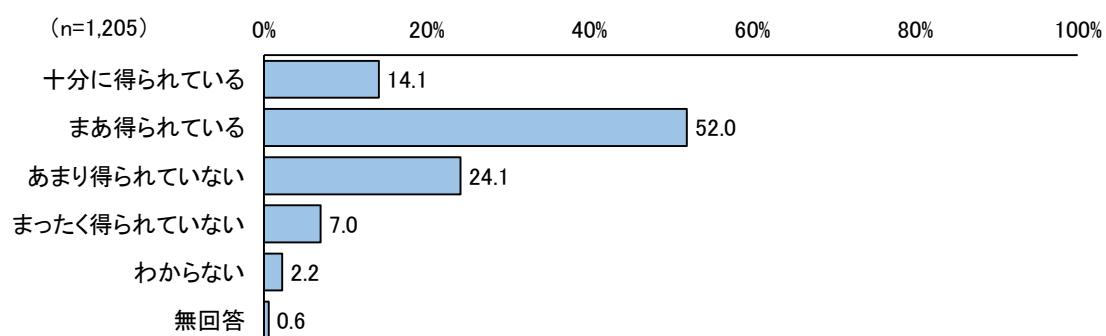
職業は、「正社員・正職員」が28.2%で最も多く、以下「年金生活で就業していない」が28.1%、「パート・アルバイト(学生を除く)」が14.1%、「家事専従」が9.5%、「自営業」が6.0%、「派遣・契約社員」が5.1%などとなっています。



(8)世帯年収

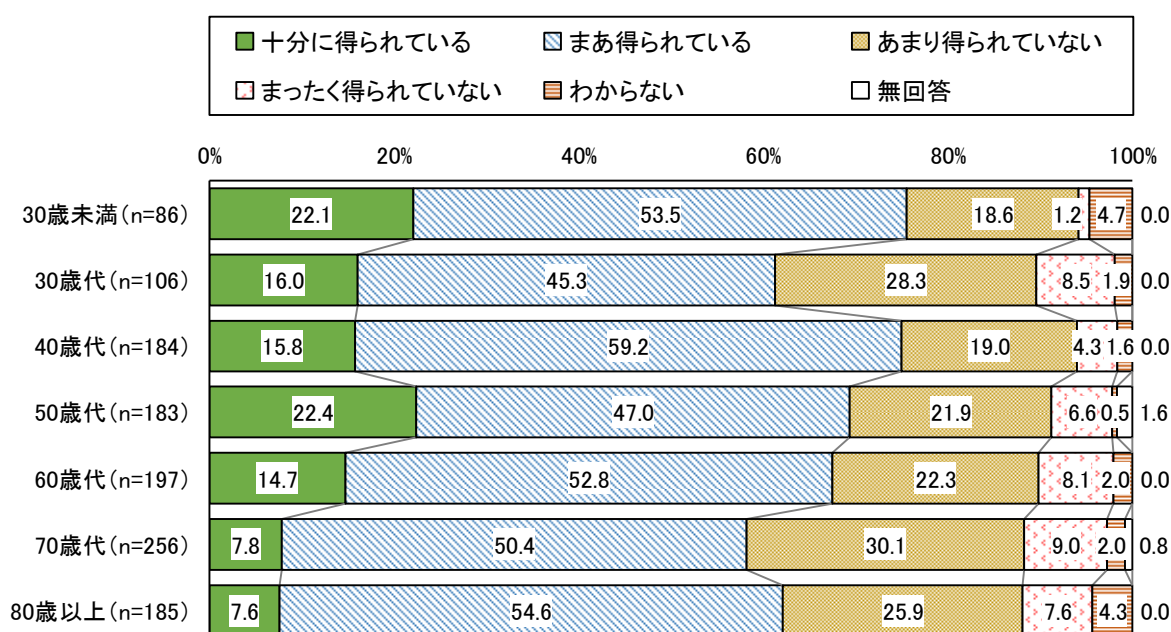
問7 あなたの世帯の収入について、生活するのに十分な収入を得られていますか。(○は1つ)

世帯収入は、「まあ得られている」が52.0%で最も多く、以下「あまり得られていない」が24.1%、「十分に得られている」が14.1%、「まったく得られていない」が7.0%、「わからない」が2.2%となっています。



■年齢別*世帯年収

年齢別にみると、70歳代と80歳以上では、「十分に得られている」との回答が少なくなっています。



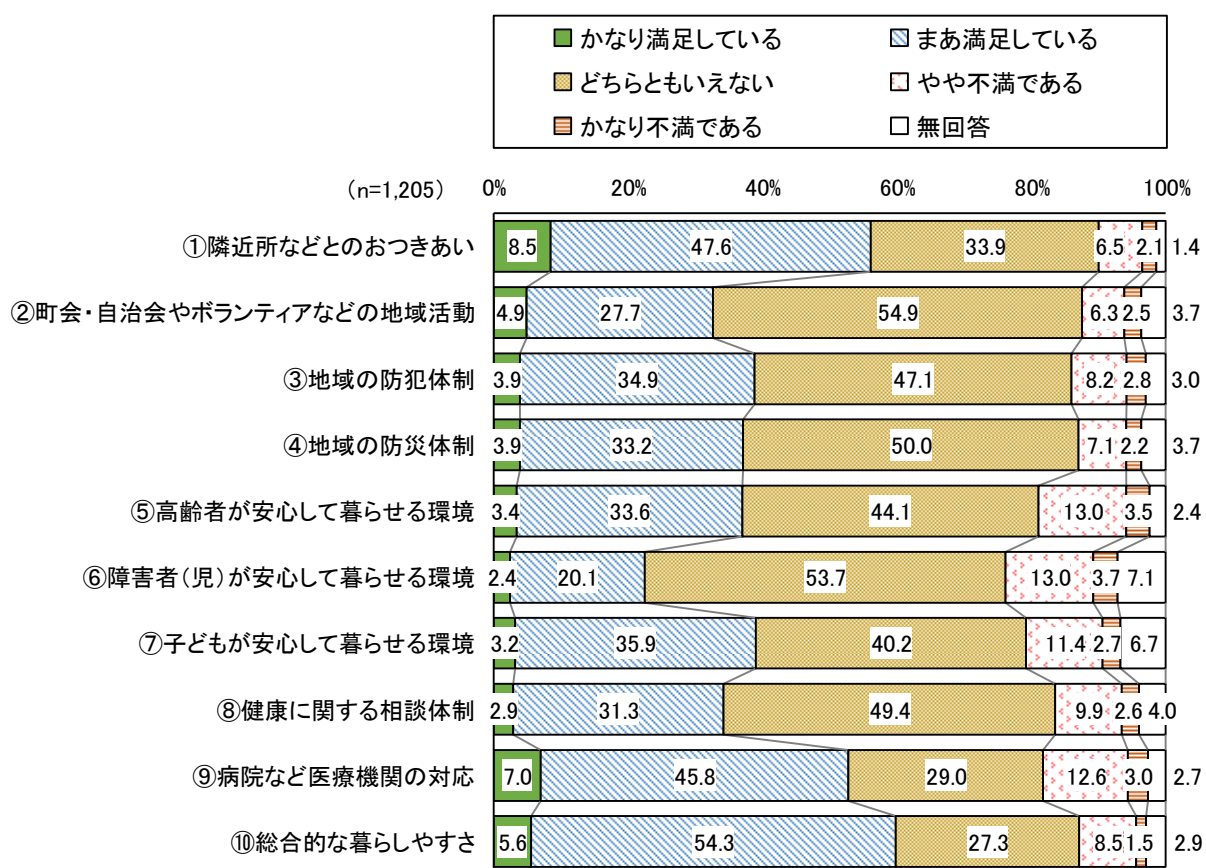
2 地域での暮らしについて

(1)暮らしの満足度

問8 現在の暮らしやすさについて、どの程度満足していますか。(項目ごとに○は1つ)

現在の暮らしやすさについて、①～⑩すべての項目において、満足(かなり満足している+まあ満足している)との回答が不満(かなり不満である+やや不満である)との回答より多くなっています。

次頁の平均点をみると、「⑩総合的な暮らしやすさ」が3.56で最も高くなっています。以下「①隣近所などのおつきあい」が3.55、「⑨病院など医療機関の対応」が3.42、「④地域の防災体制」が3.31などとなっています。



■平均点・前回調査との比較

前回調査から平均点が増加した項目は、差が大きい順に「⑧健康に関する相談体制」(+0.1)、「⑨病院など医療機関の対応」(+0.08)、「⑤高齢者が安心して暮らせる環境」(+0.04)、「⑥障害者(児)が安心して暮らせる環境」(+0.02)となっています。

一方で、平均点が減少した項目は、差が大きい順に「②町会・自治会やボランティアなどの地域活動」(-0.08)、「①隣近所などのおつきあい」(-0.04)などとなっています。

単位：％、位、点

	階級値	かなり満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	かなり不満である	無回答	順位	平均点		
		5	4	3	2	1	0		今回 n=1,205	前回 n=1,266	差
①隣近所などのおつきあい		8.5	47.6	33.9	6.5	2.1	1.4	2	3.55	3.59	-0.04
②町会・自治会やボランティアなどの地域活動		4.9	27.7	54.9	6.3	2.5	3.7	7	3.27	3.35	-0.08
③地域の防犯体制		3.9	34.9	47.1	8.2	2.8	3.0	5	3.30	3.32	-0.02
④地域の防災体制		3.9	33.2	50.0	7.1	2.2	3.7	4	3.31	3.33	-0.02
⑤高齢者が安心して暮らせる環境		3.4	33.6	44.1	13.0	3.5	2.4	9	3.21	3.17	0.04
⑥障害者(児)が安心して暮らせる環境		2.4	20.1	53.7	13.0	3.7	7.1	10	3.05	3.03	0.02
⑦子どもが安心して暮らせる環境		3.2	35.9	40.2	11.4	2.7	6.7	6	3.27	3.29	-0.02
⑧健康に関する相談体制		2.9	31.3	49.4	9.9	2.6	4.0	8	3.23	3.13	0.10
⑨病院など医療機関の対応		7.0	45.8	29.0	12.6	3.0	2.7	3	3.42	3.34	0.08
⑩総合的な暮らしやすさ		5.6	54.3	27.3	8.5	1.5	2.9	1	3.56	3.57	-0.01

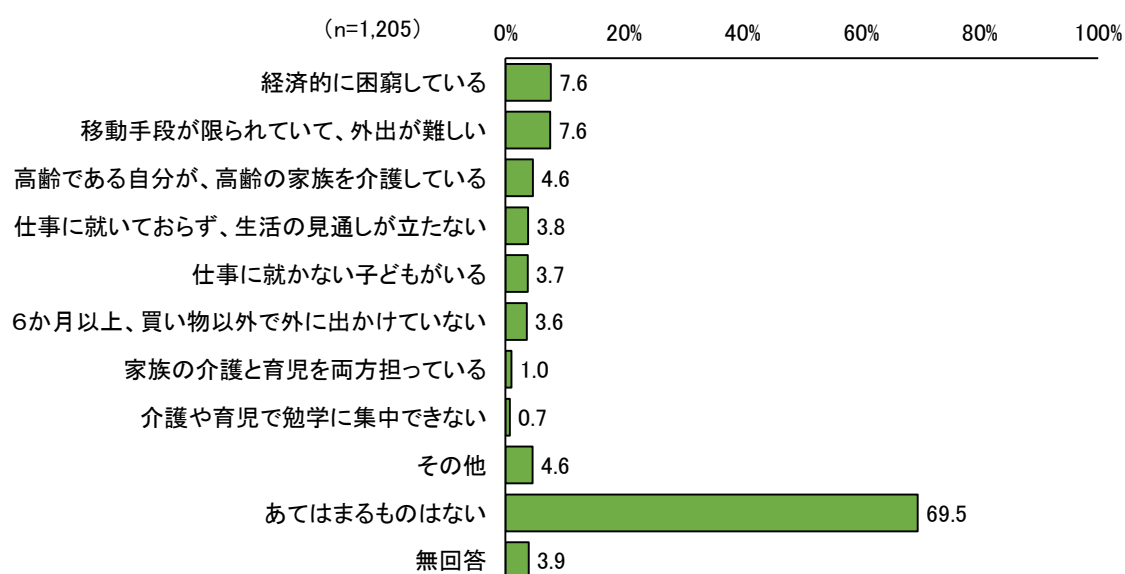
Ⅲ 調査結果

(2)生活状況

問9 あなたの生活において、次の中であてはまるものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

生活状況について、「経済的に困窮している」と「移動手段が限られていて、外出が難しい」が7.6%で最も多く、以下「高齢である自分が、高齢の家族を介護している」が4.6%、「仕事に就いておらず、生活の見通しが立たない」が3.8%、「仕事に就かない子どもがいる」が3.7%などとなっています。

なお、「あてはまるものはない」は69.5%となっています。



■年齢別＊生活状況

年齢別にみると、70歳代と80歳以上では「移動手段が限られていて、外出が難しい」が最も多くなっています。

また、80歳以上では「高齢である自分が、高齢の家族を介護している」が10.8%となっています。

単位：％

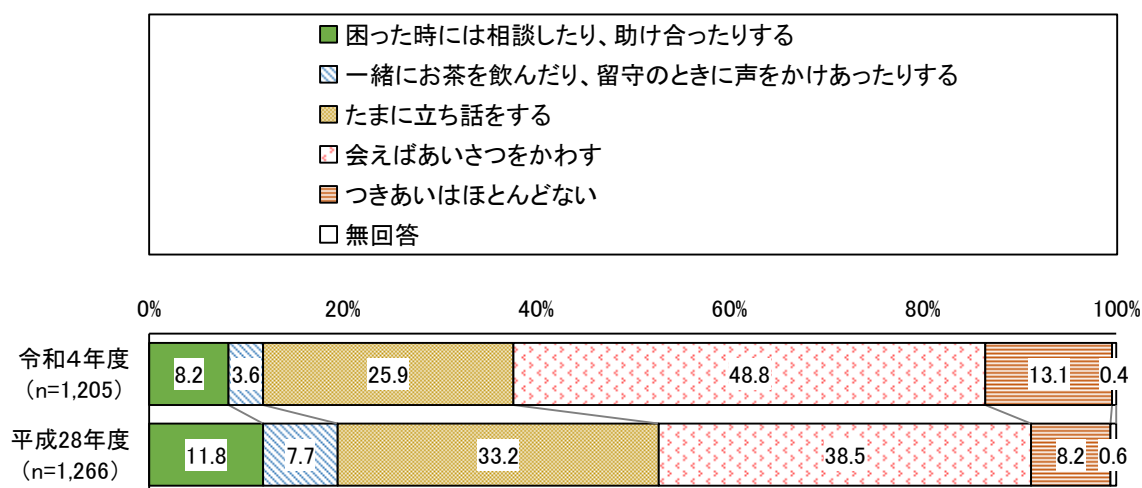
	経済的に困窮している	移動手段が限られていて、外出が難しい	高齢である自分が、高齢の家族を介護している	仕事に就いておらず、生活の見通しが立たない	仕事に就かない子どもがいる	6か月以上、買い物以外で外に出かけていない	家族の介護と育児を両方担っている	介護や育児で勉学に集中できない	その他	あてはまるものはない	無回答
全体 (n=1,205)	7.6	7.6	4.6	3.8	3.7	3.6	1.0	0.7	4.6	69.5	3.9
30歳未満 (n=86)	9.3	4.7	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	3.5	4.7	76.7	3.5
30歳代 (n=106)	13.2	4.7	0.0	3.8	2.8	2.8	1.9	1.9	3.8	73.6	4.7
40歳代 (n=184)	8.7	1.1	0.5	2.7	2.2	1.1	1.1	1.6	3.3	78.3	4.9
50歳代 (n=183)	7.1	3.8	1.6	2.7	3.3	3.8	2.2	0.5	6.0	77.0	2.2
60歳代 (n=197)	7.1	4.1	7.1	4.6	6.1	2.0	0.5	0.0	5.1	71.6	2.5
70歳代 (n=256)	7.0	9.8	7.0	4.7	4.3	5.9	1.2	0.0	5.5	64.1	3.5
80歳以上 (n=185)	3.2	20.5	10.8	4.3	3.8	6.5	0.0	0.0	3.2	55.1	5.9

(3)日頃の隣近所とのつきあい方

問10 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(○は1つ)

日頃の隣近所とのつきあい方は、「会えばあいさつをかわす」が48.8%で最も多く、以下「たまに立ち話をする」が25.9%、「つきあいほとんどない」が13.1%、「困った時には相談したり、助け合ったりする」が8.2%、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりする」が3.6%となっています。

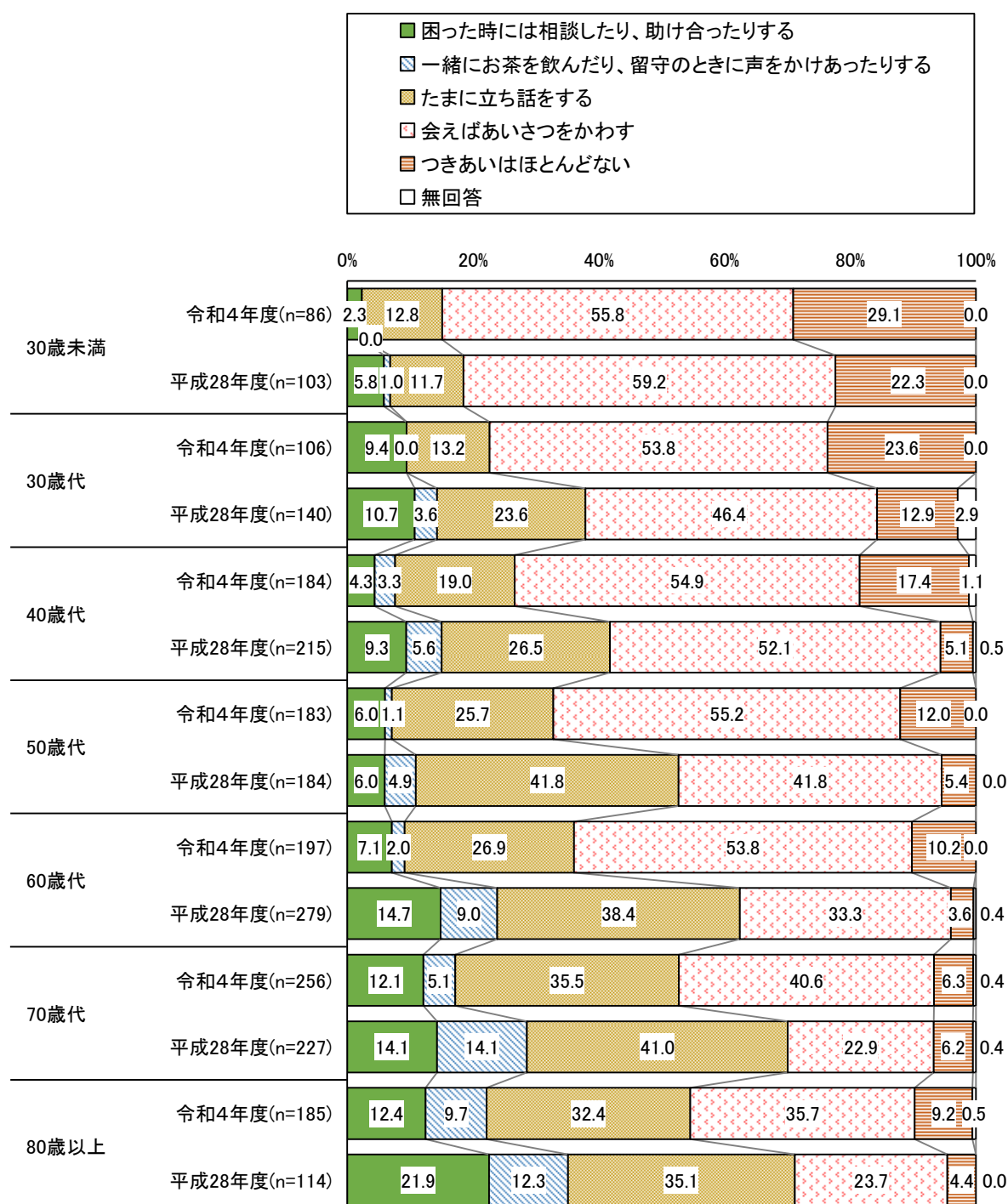
前回の調査と比較すると、「会えばあいさつをかわす」と「つきあいほとんどない」が増加し、他の項目は減少しています。



■年齢別＊経年比較＊日頃の隣近所とのつきあい方

年齢別にみると、すべての年齢で「会えばあいさつをかわす」が最も多く、60歳代より下の年齢では過半数を占めています。また、年齢が高いほど立ち話以上のつきあい方が多くなり、年齢が低いほど「つきあいはほとんどない」が多くなる傾向がみられます。

経年比較をみると、すべての年齢で「つきあいはほとんどない」が増加しています。一方で、30歳代と40歳代、60歳代より上の年齢では、「困った時には相談したり、助け合ったりする」、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりする」、「たまに立ち話をする」が減少しています。

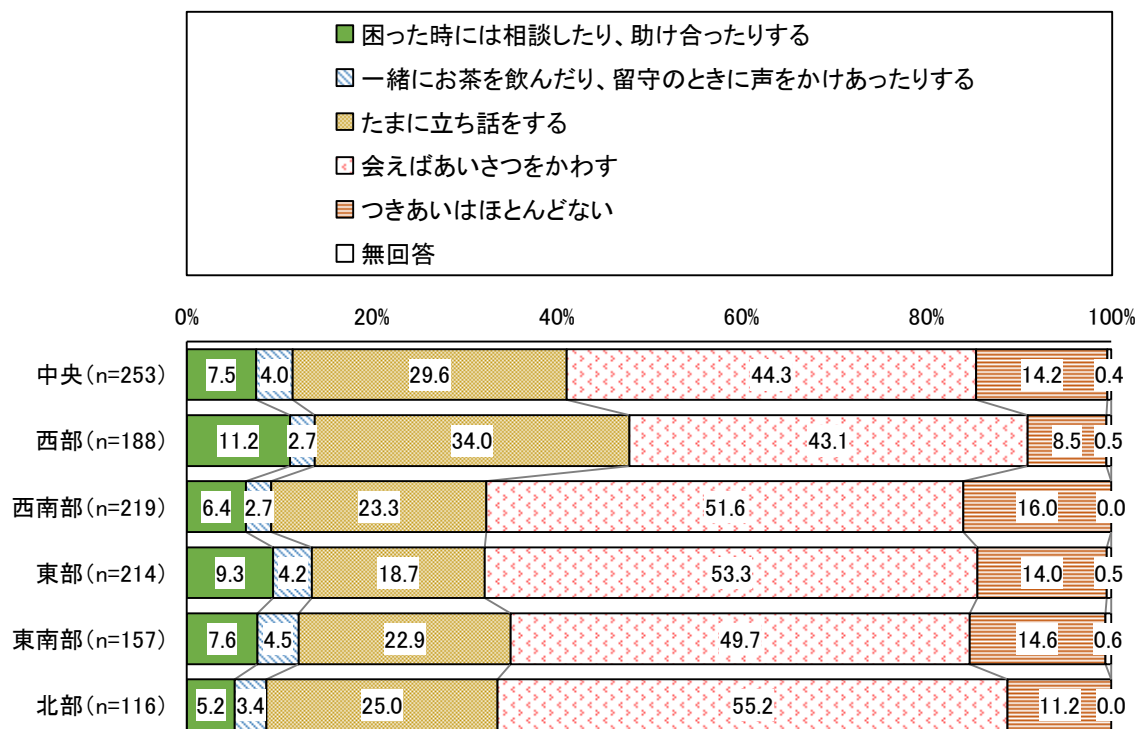


Ⅲ 調査結果

■居住地域別＊日頃の隣近所とのつきあい方

居住地域別にみると、すべての地域で「会えばあいさつをかわす」が最も多く、次いで「たまに立ち話をする」との回答が多くなっています。

西部では、「困った時には相談したり、助け合ったりする」が11.2%、「たまに立ち話をする」が34.0%で他の地域より多く、逆に「つきあいはほとんどない」は8.5%で他の地域より少なくなっており、つきあいの程度がやや強くなっています。

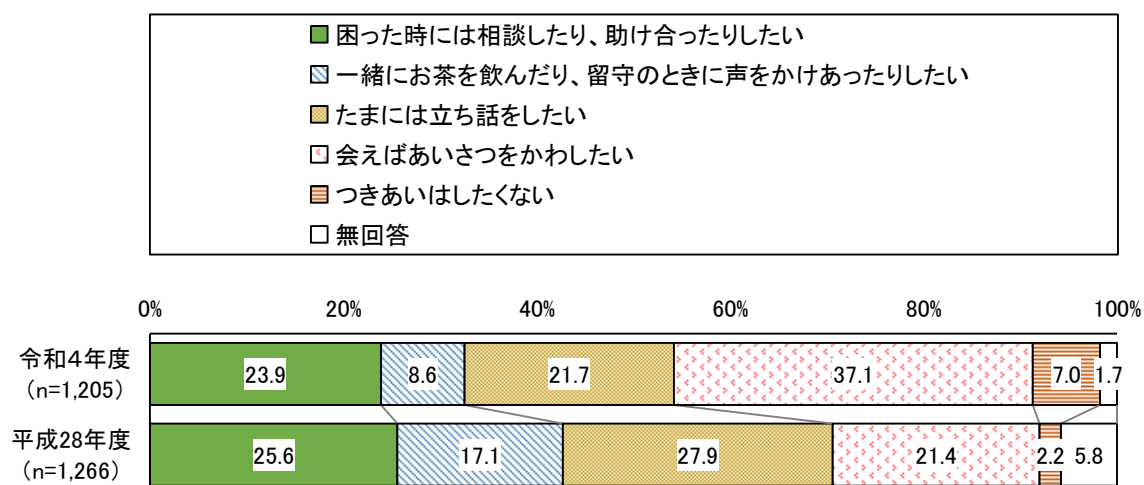


(4) 今後の隣近所とのつきあい方

問11 あなたは今後、隣近所とはどのようなつきあい方を望みますか。(○は1つ)

今後の隣近所とのつきあい方は、「会えばあいさつをかわしたい」が37.1%で最も多く、以下「困った時には相談したり、助け合ったりしたい」が23.9%、「たまには立ち話をしたい」が21.7%、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりしたい」が8.6%、「つきあいのはしたくない」が7.0%となっています。

前回の調査と比較すると、「会えばあいさつをかわしたい」と「つきあいのはしたくない」が増加し、他の項目は減少しています。

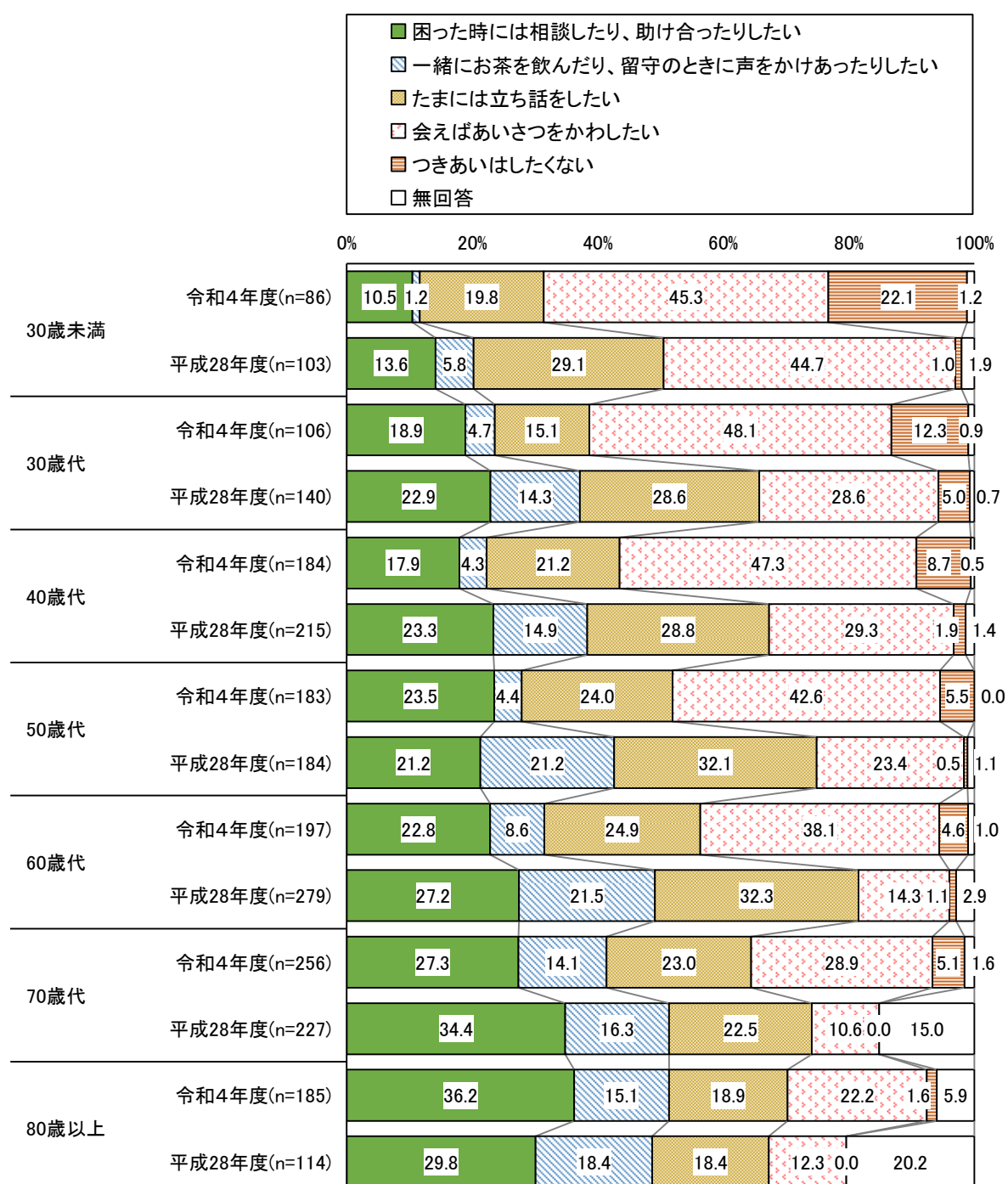


Ⅲ 調査結果

■年齢別＊経年比較＊今後の隣近所とのつきあい方

年齢別にみると、70歳代より下の年齢では、「会えばあいさつをかわしたい」が最も多く、80歳以上では「困った時には相談したり、助け合ったりしたい」が最も多くなっています。年齢が高いほど立ち話以上のつきあい方の希望が多くなり、年齢が低いほど「つきあいはいしたくない」が多くなる傾向がみられます。

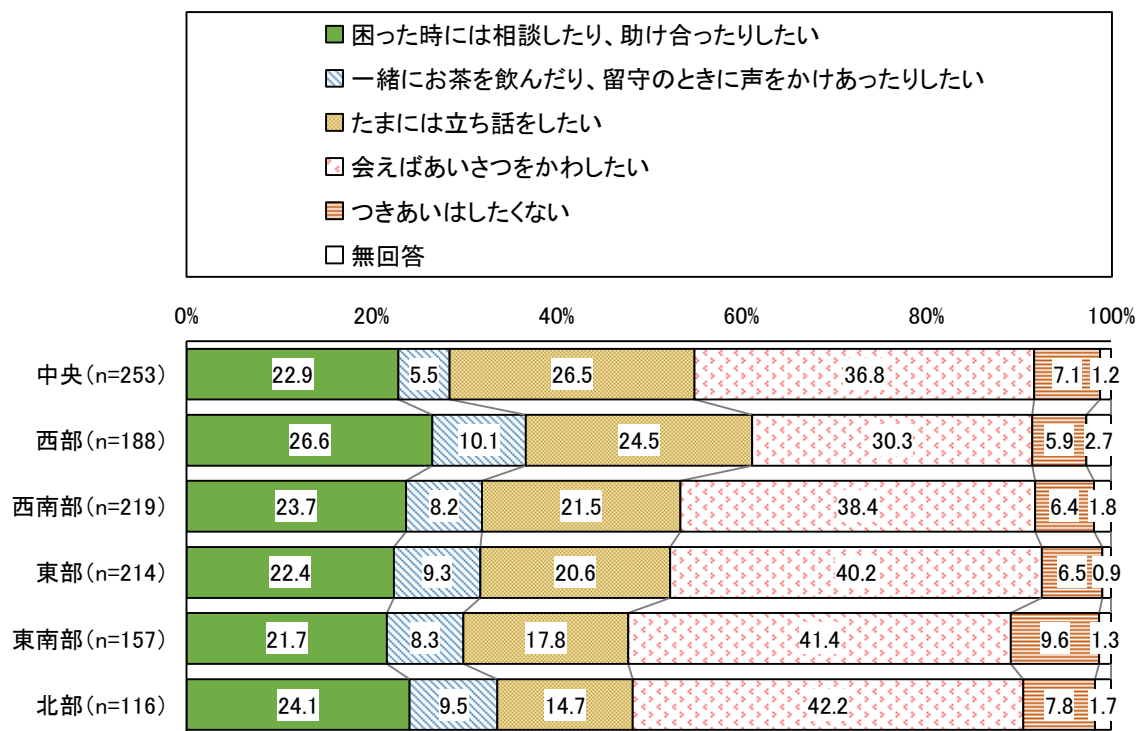
経年比較をみると、すべての年齢で「会えばあいさつをかわしたい」と「つきあいはいしたくない」が増加しています。一方で、40歳代より下の年齢と60歳代では、「困った時には相談したり、助け合ったりしたい」、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりしたい」、「たまには立ち話をしたい」が減少しています。



■居住地域別＊今後の隣近所とのつきあい方

居住地域別にみると、すべての地域で「会えばあいさつをかわしたい」が最も多く、次いで「困った時には相談したり、助け合ったりしたい」との回答が多くなっています。

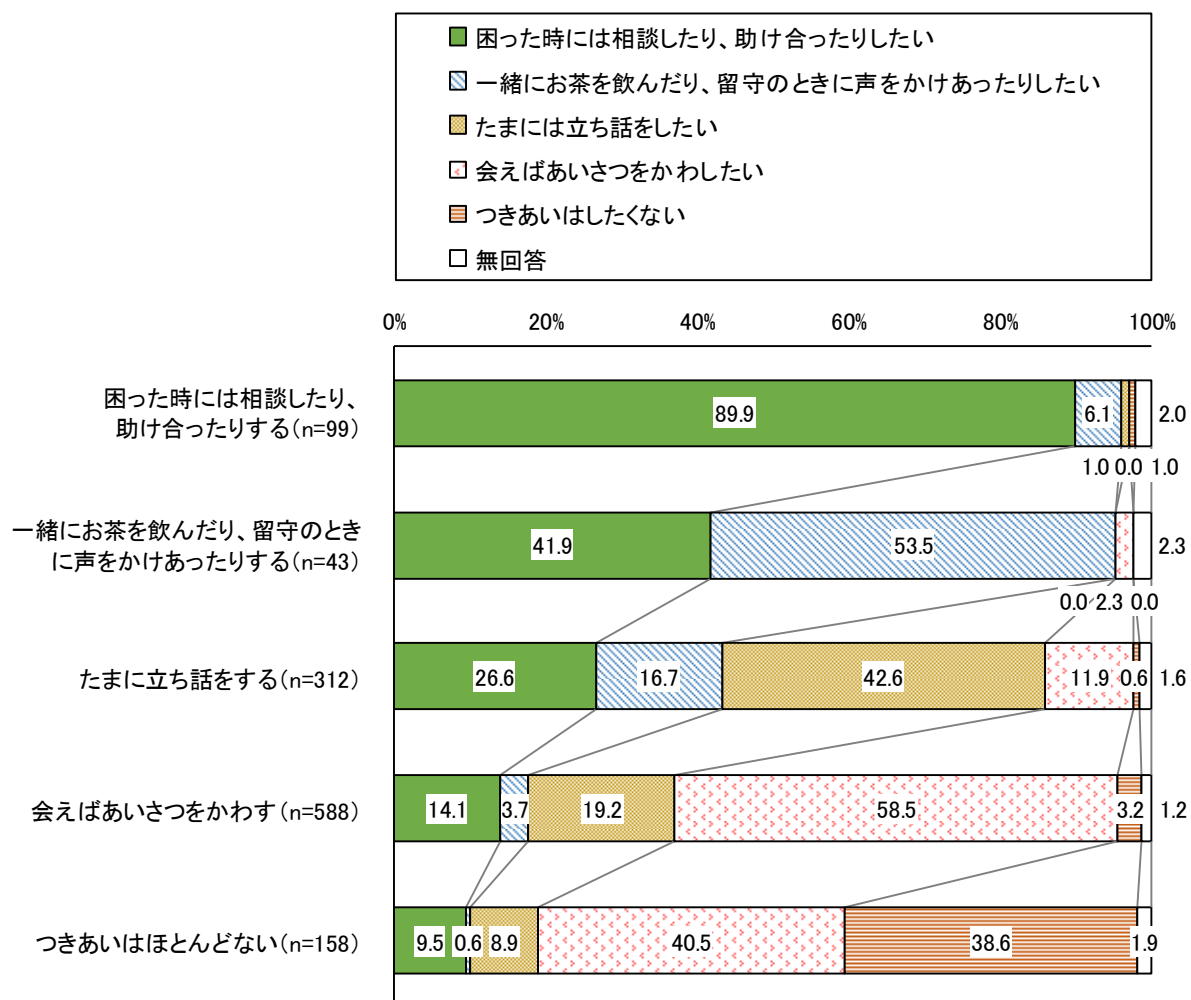
一方で、「つきあいはしたくない」との回答はすべての地域で10%未満となっています。



Ⅲ 調査結果

■日頃の隣近所とのつきあい方(問10)×今後の隣近所とのつきあい方(問11)

問10との関係をみると、現状のつきあい方を続ける人の割合が比較的高くなっていますが、「つきあいはほとんどない」と回答した人では、過半数が今以上のつきあい方を望んでいます。

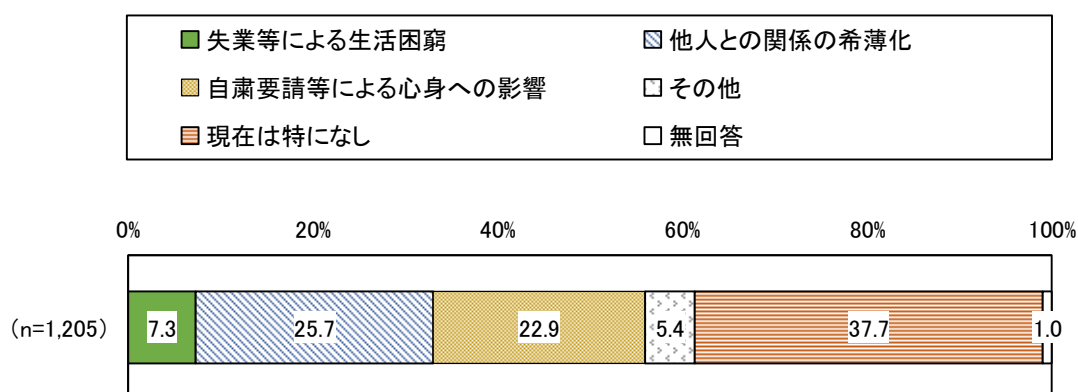


(5)新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響

問12 新型コロナウイルスによりあなたがもっとも強く感じる影響はどれですか。(○は1つ)

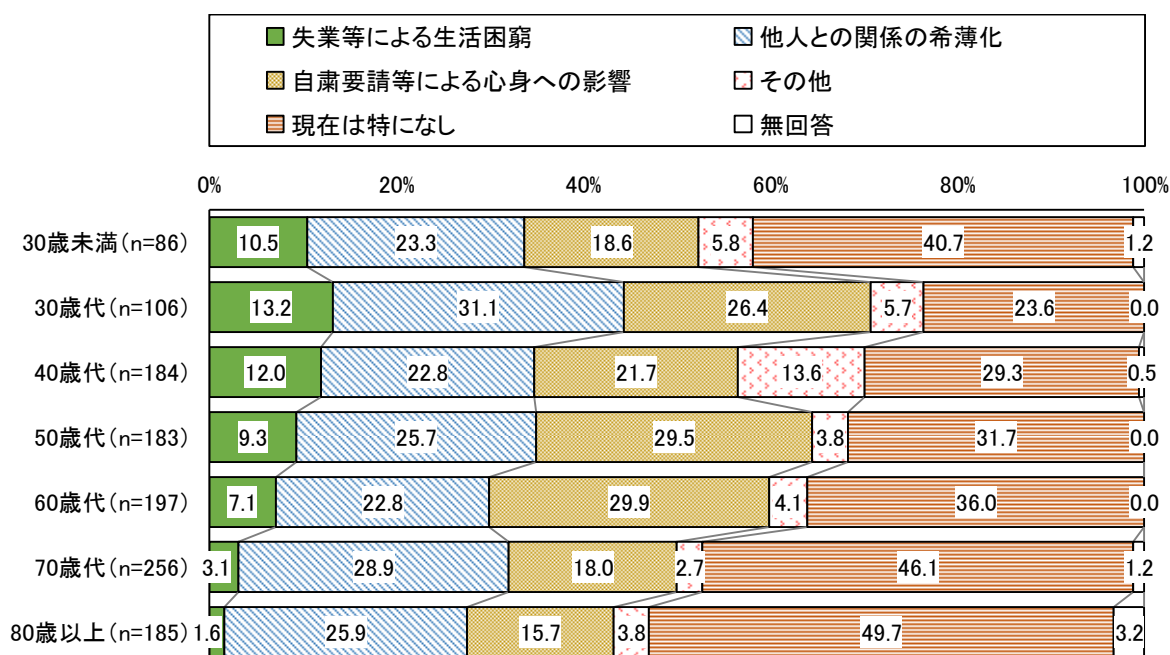
新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響は、「他人との関係の希薄化」が25.7%で最も多く、以下「自粛要請等による心身への影響」が22.9%、「失業等による生活困窮」が7.3%となっています。一方で、「現在は特になし」は37.7%となっています。

なお、「その他」の内容としては、行動制限や社会の変化に関することなどが多く挙げられています。



■年齢別*新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響

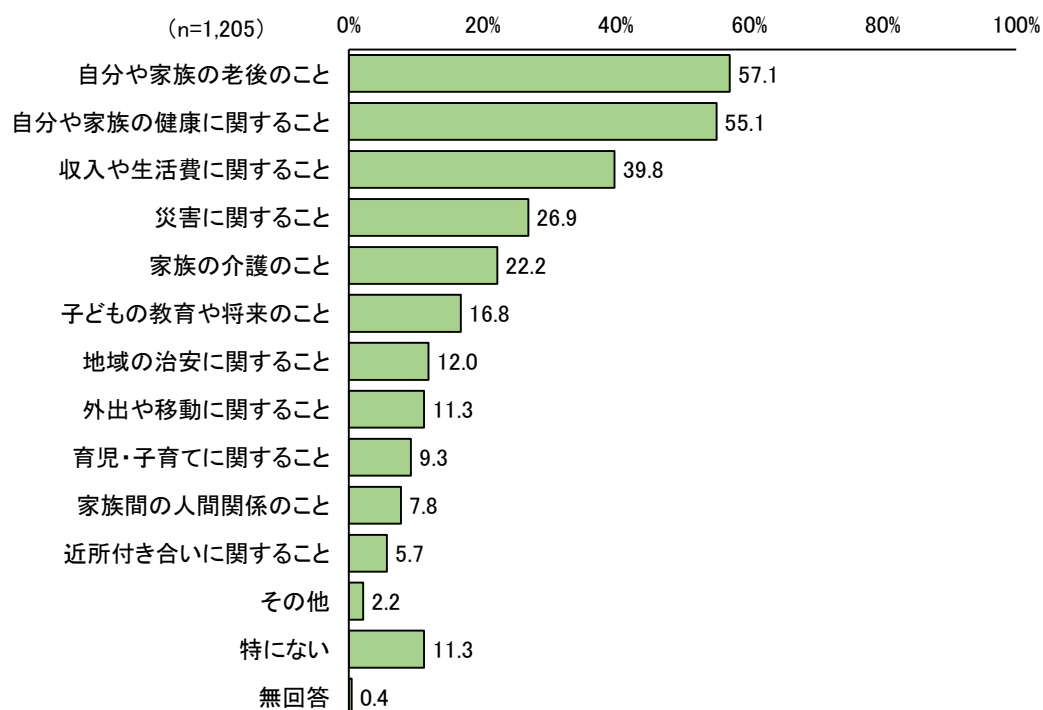
年齢別にみると、現在何らかの影響を感じている人は30歳代で最も多く、他の年齢と比較すると「他人との関係の希薄化」と「失業等による生活困窮」の割合が高くなっています。



(6)毎日の暮らしの中での悩みや不安

問13 あなたは、毎日の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

毎日の暮らしの中での悩みや不安は、「自分や家族の老後のこと」が57.1%で最も多く、以下「自分や家族の健康に関すること」が55.1%、「収入や生活費に関すること」が39.8%、「災害に関すること」が26.9%、「家族の介護のこと」が22.2%、「子どもの教育や将来のこと」が16.8%などとなっています。



■年齢別＊毎日の暮らしの中での悩みや不安

年齢別にみると、30歳代から70歳代では、「自分や家族の老後のこと」が最も多くなっています。

30歳未満では、「収入や生活費に関すること」が68.6%で最も多く、年齢が低いほど割合が高くなっています。

30歳代以上では、「自分や家族の健康に関すること」が過半数を占めており、特に80歳以上では、最も多い項目として選択されています。

また、30歳代と40歳代では、「子どもの教育や将来のこと」と「育児・子育てに関すること」が他の年齢より多くなっています。

単位：％

	自分や家族の老後のこと	自分や家族の健康に関すること	収入や生活費に関すること	災害に関すること	家族の介護のこと	子どもの教育や将来のこと	地域の治安に関すること	外出や移動に関すること	育児・子育てに関すること	家族間の人間関係のこと	近所付き合いに関すること	その他	特にない	無回答
全体 (n=1,205)	57.1	55.1	39.8	26.9	22.2	16.8	12.0	11.3	9.3	7.8	5.7	2.2	11.3	0.4
30歳未満 (n=86)	34.9	37.2	68.6	19.8	9.3	10.5	14.0	11.6	15.1	11.6	2.3	2.3	18.6	1.2
30歳代 (n=106)	62.3	55.7	60.4	23.6	17.0	44.3	21.7	9.4	38.7	9.4	6.6	1.9	2.8	0.0
40歳代 (n=184)	57.1	54.3	49.5	25.0	23.9	44.0	14.7	4.9	20.7	8.2	2.7	4.9	6.5	0.5
50歳代 (n=183)	65.6	52.5	45.9	31.1	37.2	18.6	12.0	8.2	7.1	12.0	9.3	0.5	8.7	0.0
60歳代 (n=197)	67.0	62.9	38.1	28.9	24.9	7.6	13.7	7.6	2.5	4.6	7.1	2.0	8.1	0.0
70歳代 (n=256)	58.2	57.0	27.0	26.6	18.4	3.9	5.5	13.7	0.0	4.7	5.1	0.8	14.8	0.4
80歳以上 (n=185)	43.8	56.8	19.5	27.0	18.4	2.7	9.7	21.6	1.1	8.1	5.9	2.7	18.4	1.1

Ⅲ 調査結果

(7) 悩みや不安、困り事の相談先

問14 あなたに悩みや不安、困り事があるときには、誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

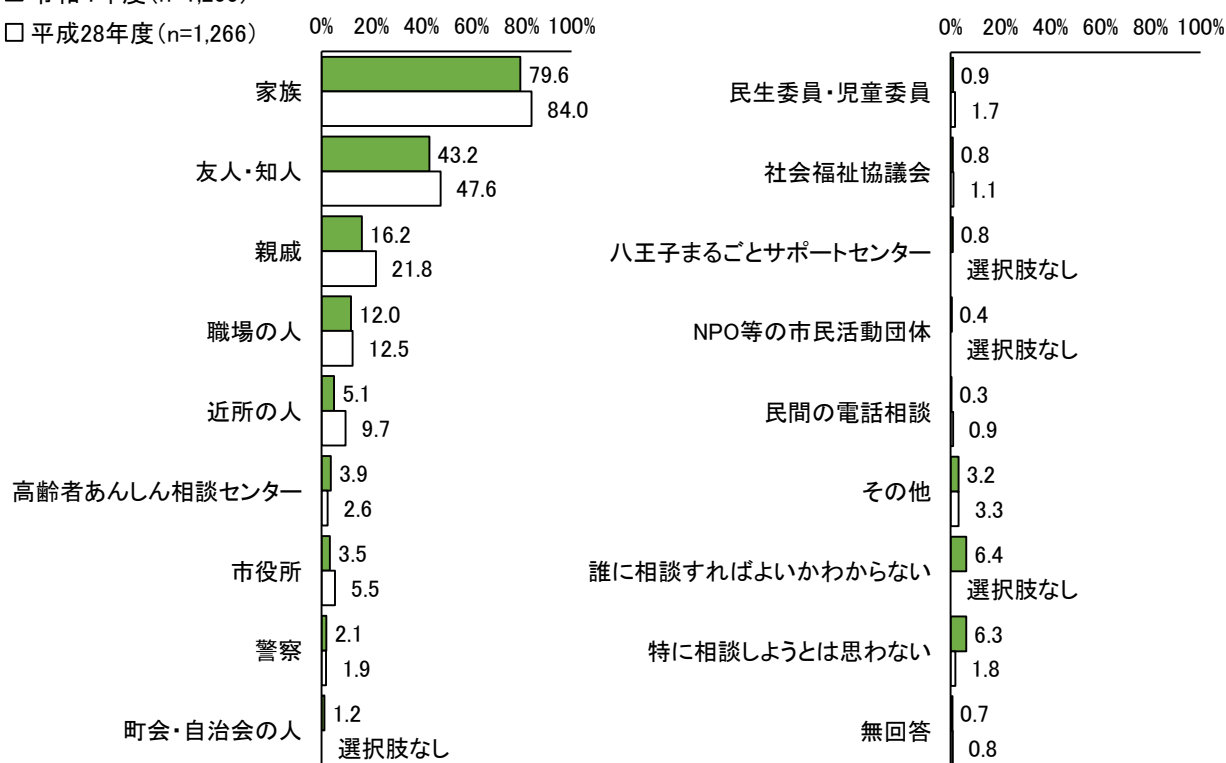
悩みや不安、困り事の相談先は、「家族」が79.6%で最も多く、以下「友人・知人」が43.2%、「親戚」が16.2%、「職場の人」が12.0%などとなっています。

前回の調査と比較すると、全体的に割合がやや減少していますが、概ね同様の傾向がみられます。

なお、「誰に相談すればよいかわからない」は6.4%、「特に相談しようとは思わない」は6.3%となっています。

■ 令和4年度 (n=1,205)

□ 平成28年度 (n=1,266)



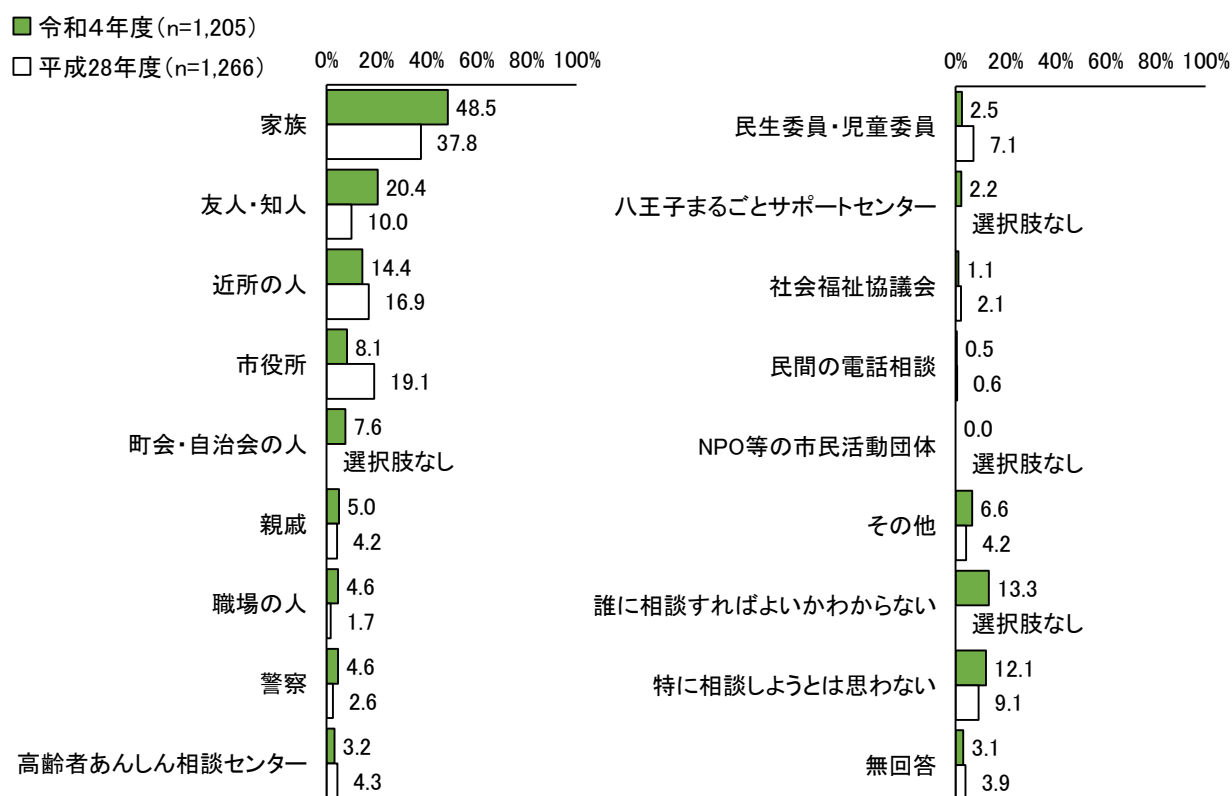
(8)近所で悩みや不安、困り事がある場合の相談先

問15 近所で悩みや不安、困り事がある世帯があった場合、あなたは誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

近所で悩みや不安、困り事がある場合の相談先は、「家族」が48.5%で最も多く、以下「友人・知人」が20.4%、「近所の人」が14.4%、「市役所」が8.1%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「家族」と「友人」がともに約10ポイント増加しており、一方で「市役所」は11ポイント減少しています。

なお、「誰に相談すればよいかわからない」は13.3%、「特に相談しようとは思わない」は12.1%となっています。

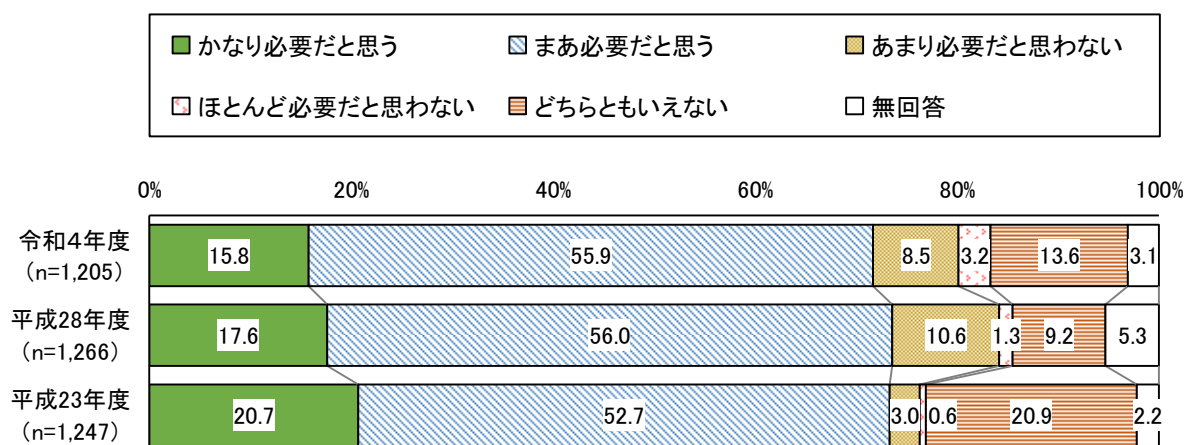


(9)住民相互の協力関係の必要性

問16 あなたは、地域でおきる生活上の問題に対して、住民相互の協力関係が必要だと思いますか。(〇は1つ)

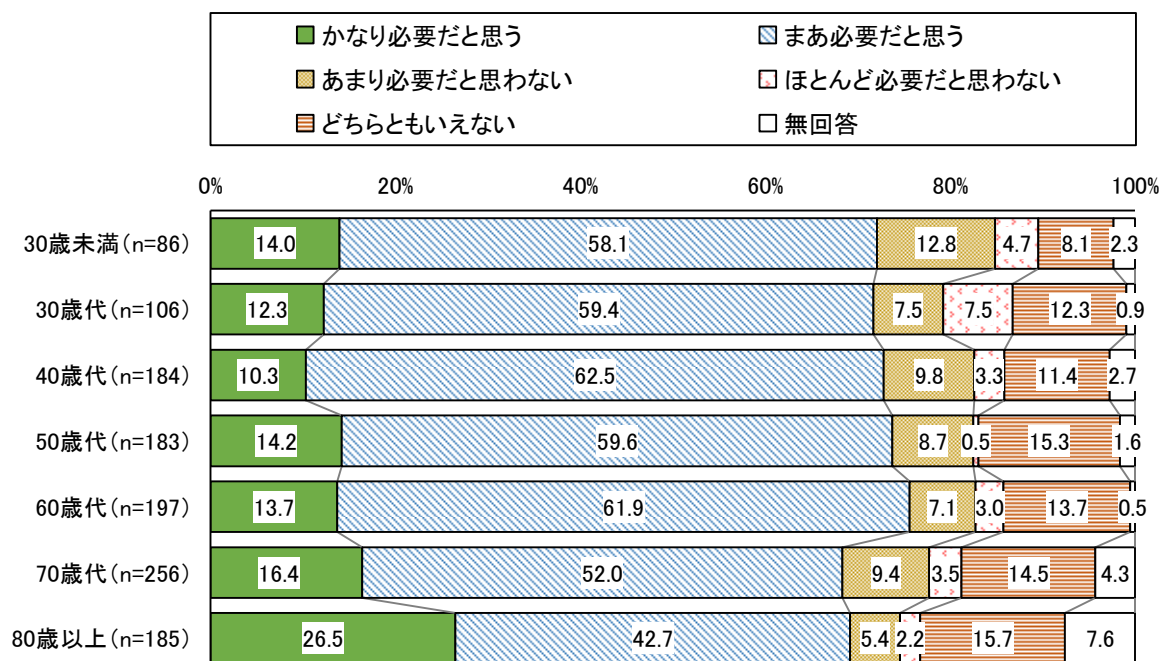
地域における住民相互の協力関係は、「まあ必要だと思う」が55.9%で最も多く、以下「かなり必要だと思う」が15.8%、「どちらともいえない」が13.6%、「あまり必要だと思わない」が8.5%、「ほとんど必要だと思わない」が3.2%となっています。

これまでの調査と比較すると、すべての調査において過半数が「まあ必要だと思う」と回答しています。一方で、「かなり必要だと思う」は減少を続けています。



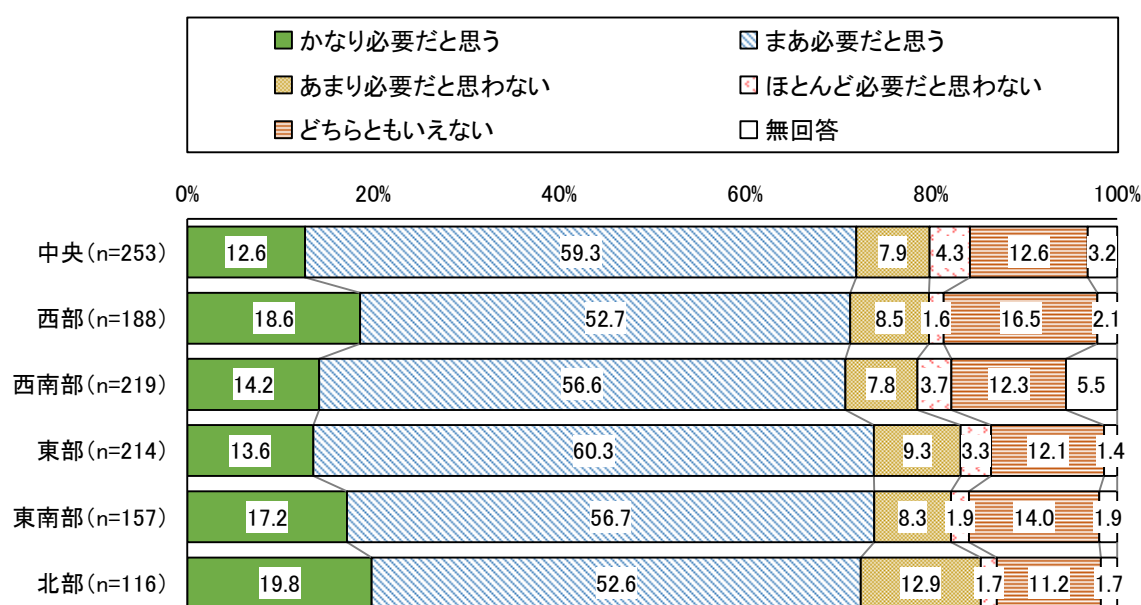
■年齢別*住民相互の協力関係の必要性

年齢別にみると、年齢が高いほど「かなり必要だと思う」が多くなる傾向がみられます。



■居住地域別*住民相互の協力関係の必要性

居住地域別にみると、すべての地域で「まあ必要だと思う」が過半数を占めており、地域による大きな差はみられません。



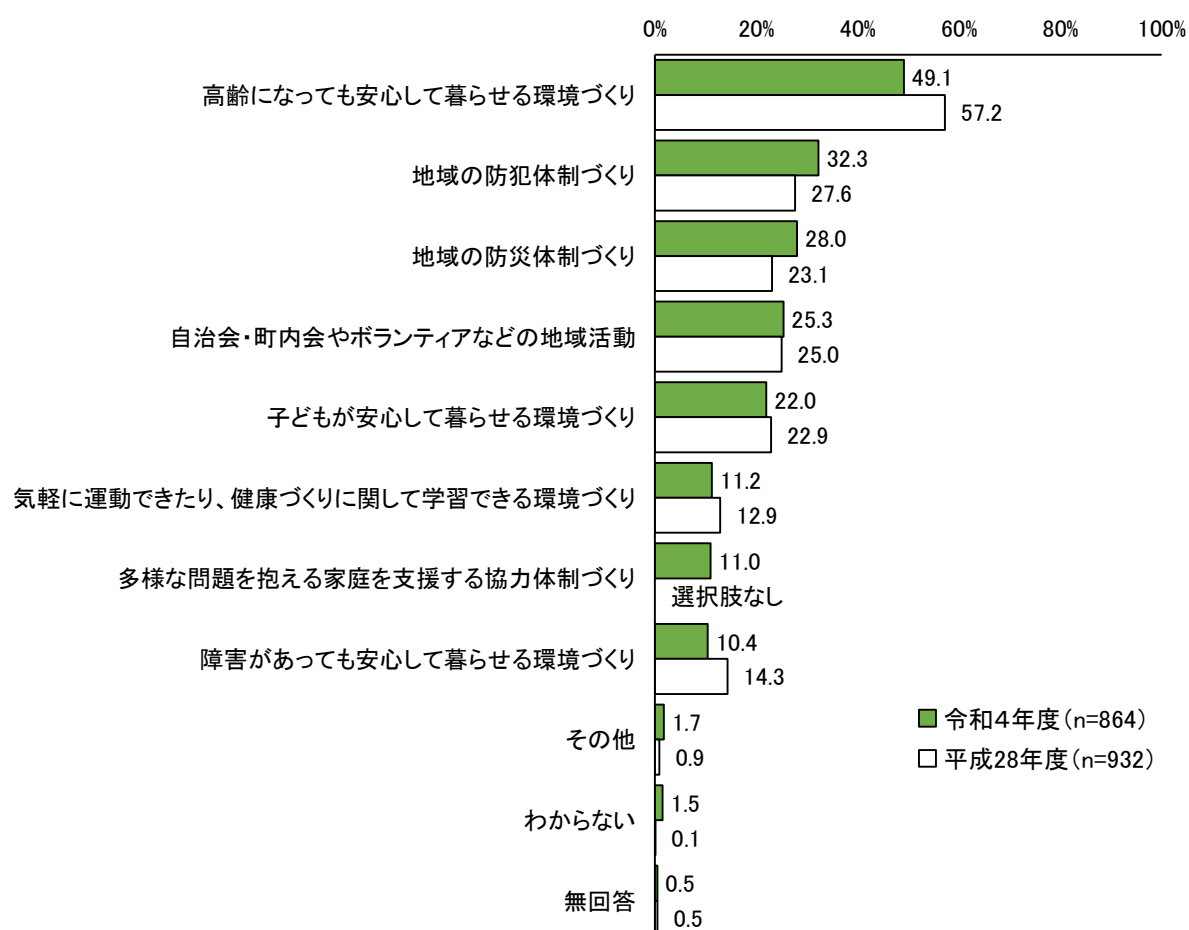
(10)地域で協力して取り組む必要があること

問16で「1. かなり必要だと思う」「2. まあ必要だと思う」に○をつけた方

問16－1 地域の人たちが協力して、取り組んでいくことが特に必要なことは、どのようなことだと思いますか。(○は2つまで)

地域で協力して取り組む必要があることは、「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が49.1%で最も多く、以下「地域の防犯体制づくり」が32.3%、「地域の防災体制づくり」が28.0%、「自治会・町内会やボランティアなどの地域活動」が25.3%、「子どもが安心して暮らせる環境づくり」が22.0%、「気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり」が11.2%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「地域の防災体制づくり」は4.9ポイント増加、「地域の防犯体制づくり」は4.7ポイント増加しています。



■年齢別＊地域で協力して取り組む必要があること

年齢別にみると、年齢が高いほど「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が多く、50歳代以上では第1位の項目となっており、80歳以上では67.2%を占めています。

一方で、年齢が低いほど「地域の防犯体制づくり」が多くなる傾向がみられ、30歳未満と40歳代では、第1位の項目となっています。

また、30歳代では、「子どもが安心して暮らせる環境づくり」が61.8%で最も多くなっています。

単位：％

	高齢になっても安心して暮らせる環境づくり	地域の防犯体制づくり	地域の防災体制づくり	自治会・町内会やボランティアなどの地域活動	子どもが安心して暮らせる環境づくり	気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり	多様な問題を抱える家庭を支援する協力体制づくり	障害があっても安心して暮らせる環境づくり	その他	わからない	無回答
全体 (n=864)	49.1	32.3	28.0	25.3	22.0	11.2	11.0	10.4	1.7	1.5	0.5
30歳未満 (n=62)	17.7	45.2	25.8	17.7	30.6	14.5	12.9	12.9	4.8	3.2	0.0
30歳代 (n=76)	25.0	44.7	27.6	11.8	61.8	10.5	9.2	3.9	3.9	0.0	0.0
40歳代 (n=134)	33.6	41.8	32.8	16.4	38.8	6.7	9.7	6.7	1.5	5.2	0.7
50歳代 (n=135)	49.6	34.8	28.9	27.4	15.6	6.7	13.3	14.1	1.5	0.7	0.0
60歳代 (n=149)	54.4	30.9	40.9	22.8	16.1	8.7	12.8	10.7	0.7	0.7	0.7
70歳代 (n=175)	65.1	20.0	22.9	30.3	11.4	17.7	12.0	10.3	1.1	0.6	1.1
80歳以上 (n=128)	67.2	22.7	15.6	39.8	4.7	14.1	7.0	13.3	1.6	0.8	0.0

Ⅲ 調査結果

■居住地域別＊地域で協力して取り組む必要があること

居住地域別にみると、すべての地域で「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が最も多くなっています。

東部では、「地域の防犯体制づくり」が40.5%、「地域の防災体制づくり」が30.4%で、いずれも地域別では最も多くなっています。

単位：％

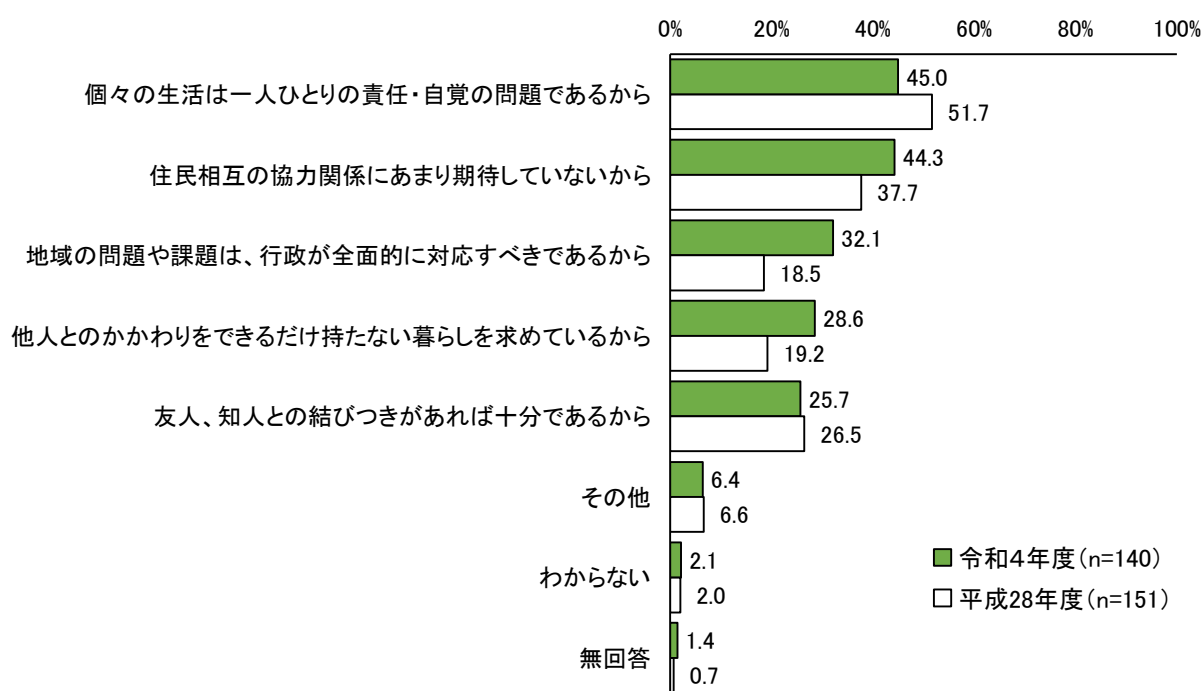
	高齢になっても安心して暮らせる環境づくり	地域の防犯体制づくり	地域の防災体制づくり	自治会・町内会やボランティアなどの地域活動	子どもが安心して暮らせる環境づくり	気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり	多様な問題を抱える家庭を支援する協力体制づくり	障害があっても安心して暮らせる環境づくり	その他	わからない	無回答
全体 (n=864)	49.1	32.3	28.0	25.3	22.0	11.2	11.0	10.4	1.7	1.5	0.5
中央 (n=182)	48.4	34.6	29.1	22.0	24.2	7.1	12.6	13.2	2.2	1.6	0.5
西部 (n=134)	55.2	25.4	25.4	28.4	21.6	9.0	12.7	7.5	1.5	3.0	0.7
西南部 (n=155)	52.9	21.9	25.2	23.2	23.2	14.8	14.8	12.3	1.9	0.6	0.0
東部 (n=158)	44.9	40.5	30.4	25.9	17.1	14.6	7.0	11.4	0.6	0.6	0.6
東南部 (n=116)	42.2	37.9	26.7	27.6	28.4	10.3	8.6	8.6	2.6	0.9	0.0
北部 (n=84)	51.2	34.5	29.8	23.8	20.2	15.5	11.9	6.0	2.4	3.6	0.0

(11)住民相互の協力関係が必要ない理由

問16で「3. あまり必要だと思わない」「4. ほとんど必要だと思わない」に○をつけた方
問16-2 必要ないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域における住民相互の協力関係が必要ないと思う理由は、「個々の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから」が45.0%で最も多く、以下「住民相互の協力関係にあまり期待していないから」が44.3%、「地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから」が32.1%、「他人とのかかわりをできるだけ持たない暮らしを求めているから」が28.6%、「友人、知人との結びつきがあれば十分であるから」が25.7%となっています。

前回の調査と比較すると、「地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから」が13.6ポイント増加、「他人とのかかわりをできるだけ持たない暮らしを求めているから」が9.4ポイント増加しています。

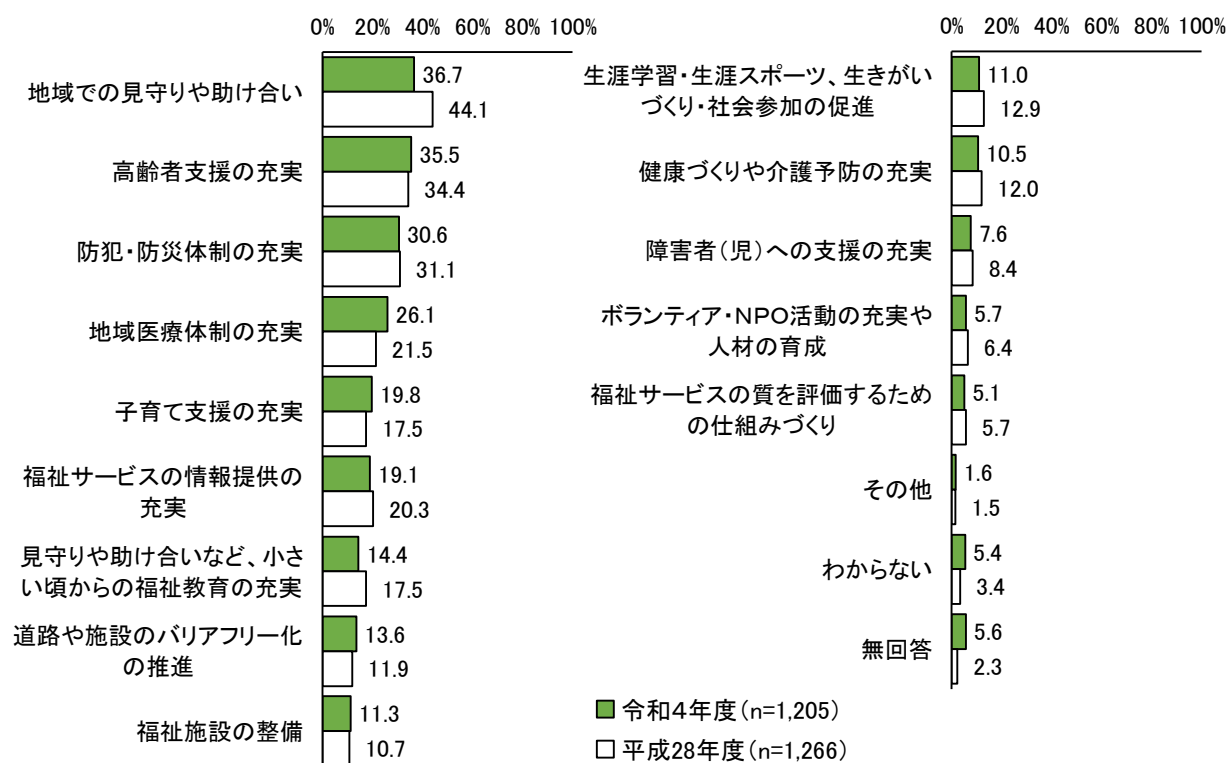


(12)誰もが安心して暮らしていくために必要なこと

問17 あなたの地域で誰もが安心して暮らしていくために、必要なことは何だと思われますか。
(〇は3つまで)

誰もが安心して暮らしていくために必要なことは、「地域での見守りや助け合い」が36.7%で最も多く、以下「高齢者支援の充実」が35.5%、「防犯・防災体制の充実」が30.6%、「地域医療体制の充実」が26.1%、「子育て支援の充実」が19.8%、「福祉サービスの情報提供の充実」が19.1%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「地域での見守りや助け合い」が7.4ポイント減少していますが、最重要である位置づけは変わらず、他の項目は概ね同様の傾向がみられます。



■年齢別*経年比較*誰もが安心して暮らしていくために必要なこと

年齢別にみると、30歳未満と30歳代では、「子育て支援の充実」が最も多く、特に30歳代では56.6%を占めています。また、40歳代では、「防犯・防災体制の充実」が最も多く、「地域での見守りや助け合い」、「子育て支援の充実」も同程度の割合となっています。50歳代より上の年齢では、「高齢者支援の充実」が最も多くなっています。

経年比較をみると、30歳未満から40歳代にかけて「子育て支援の充実」が大きく増加しており、特に30歳未満では15.4ポイント、30歳代では10.2ポイントの増加となっています。また、30歳代から50歳代にかけては「地域医療体制の充実」が大きく増加しており、特に30歳代では12.1ポイントの増加となっています。

単位：%

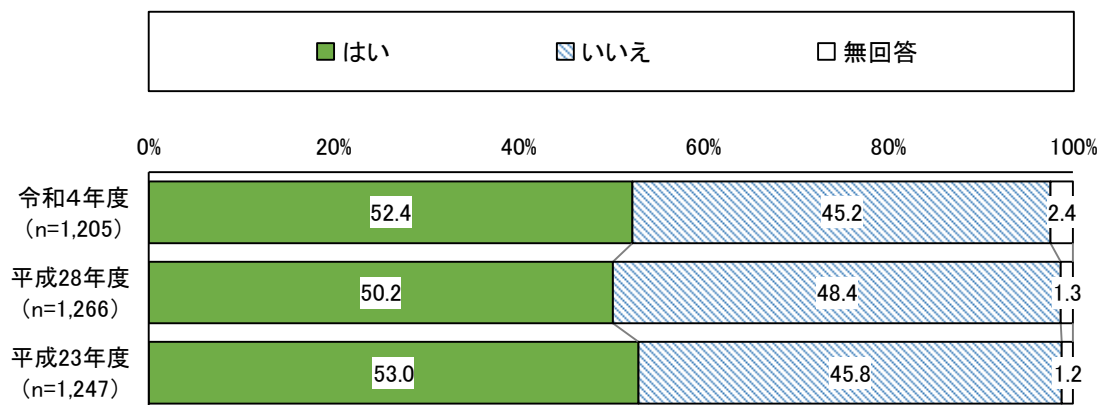
		地域での見守りや助け合い	高齢者支援の充実	防犯・防災体制の充実	地域医療体制の充実	子育て支援の充実	福祉サービスの情報提供の充実	小さい頃からの福祉教育の充実	見守りや助け合いなど、 小さい頃からの福祉教育の充実	道路や施設のバリアフリー化の推進	福祉施設の整備	生涯学習・生涯スポーツ、 生きがいつくり・社会参加の促進	健康づくりや介護予防の充実	障害者（児）への支援の充実	人材の育成	ボランティア・NPO活動の充実や 仕組みづくり	福祉サービスの質を評価するための 仕組みづくり	その他	わからない	無回答
全体	令和４年度 (n=1,205)	36.7	35.5	30.6	26.1	19.8	19.1	14.4	13.6	11.3	11.0	10.5	7.6	5.7	5.1	1.6	5.4	5.6		
	平成28年度 (n=1,266)	44.1	34.4	31.1	21.5	17.5	20.3	17.5	11.9	10.7	12.9	12.0	8.4	6.4	5.7	1.5	3.4	2.3		
30歳未満	令和４年度 (n=86)	26.7	8.1	34.9	20.9	46.5	11.6	17.4	24.4	4.7	10.5	5.8	7.0	7.0	1.2	2.3	8.1	4.7		
	平成28年度 (n=103)	42.7	25.2	48.5	19.4	31.1	9.7	20.4	18.4	5.8	10.7	9.7	8.7	5.8	3.9	1.9	3.9	1.0		
30歳代	令和４年度 (n=106)	38.7	20.8	36.8	29.2	56.6	8.5	17.0	12.3	9.4	7.5	6.6	8.5	4.7	2.8	0.9	5.7	5.7		
	平成28年度 (n=140)	32.9	27.1	41.4	17.1	46.4	12.9	14.3	15.0	9.3	7.1	7.9	14.3	4.3	4.3	1.4	5.7	0.7		
40歳代	令和４年度 (n=184)	33.7	26.6	34.8	26.1	33.2	13.6	16.3	16.3	9.2	7.6	6.5	9.2	7.6	5.4	2.7	7.1	3.8		
	平成28年度 (n=215)	48.8	25.6	35.8	19.1	27.0	16.7	25.6	15.8	10.2	14.0	6.5	9.8	6.5	6.5	1.9	1.9	0.5		
50歳代	令和４年度 (n=183)	30.1	35.0	34.4	34.4	14.8	23.0	14.2	13.7	14.8	10.9	9.3	7.7	5.5	7.1	1.6	4.9	4.9		
	平成28年度 (n=184)	43.5	37.0	37.0	26.6	11.4	22.3	18.5	13.0	9.2	9.8	13.6	8.2	6.0	4.9	1.6	3.8	1.1		
60歳代	令和４年度 (n=197)	38.6	41.1	35.0	27.9	10.7	27.9	8.6	12.7	11.7	12.2	8.6	7.6	6.6	7.1	2.5	3.0	5.6		
	平成28年度 (n=279)	44.8	34.8	27.2	22.6	10.0	28.0	16.5	8.2	11.8	16.5	12.5	9.0	7.5	6.5	1.4	3.2	1.4		
70歳代	令和４年度 (n=256)	42.6	48.4	24.6	18.0	9.4	19.5	16.0	10.9	11.3	14.1	14.5	8.6	6.6	5.1	0.8	4.3	6.6		
	平成28年度 (n=227)	43.6	41.9	20.7	21.6	6.6	22.5	15.0	8.8	11.9	15.9	16.7	4.0	7.5	7.0	1.8	3.1	4.8		
80歳以上	令和４年度 (n=185)	40.0	43.2	19.5	27.0	2.7	20.5	13.5	11.4	13.5	11.4	17.3	4.9	2.2	3.2	0.5	5.9	7.6		
	平成28年度 (n=114)	51.8	50.0	14.9	21.9	2.6	20.2	10.5	8.8	14.9	10.5	16.7	5.3	5.3	4.4	0.0	3.5	6.1		

3 地域活動への参加について

(1)地域活動への参加の有無

問18 あなたは、これまでに地域での活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

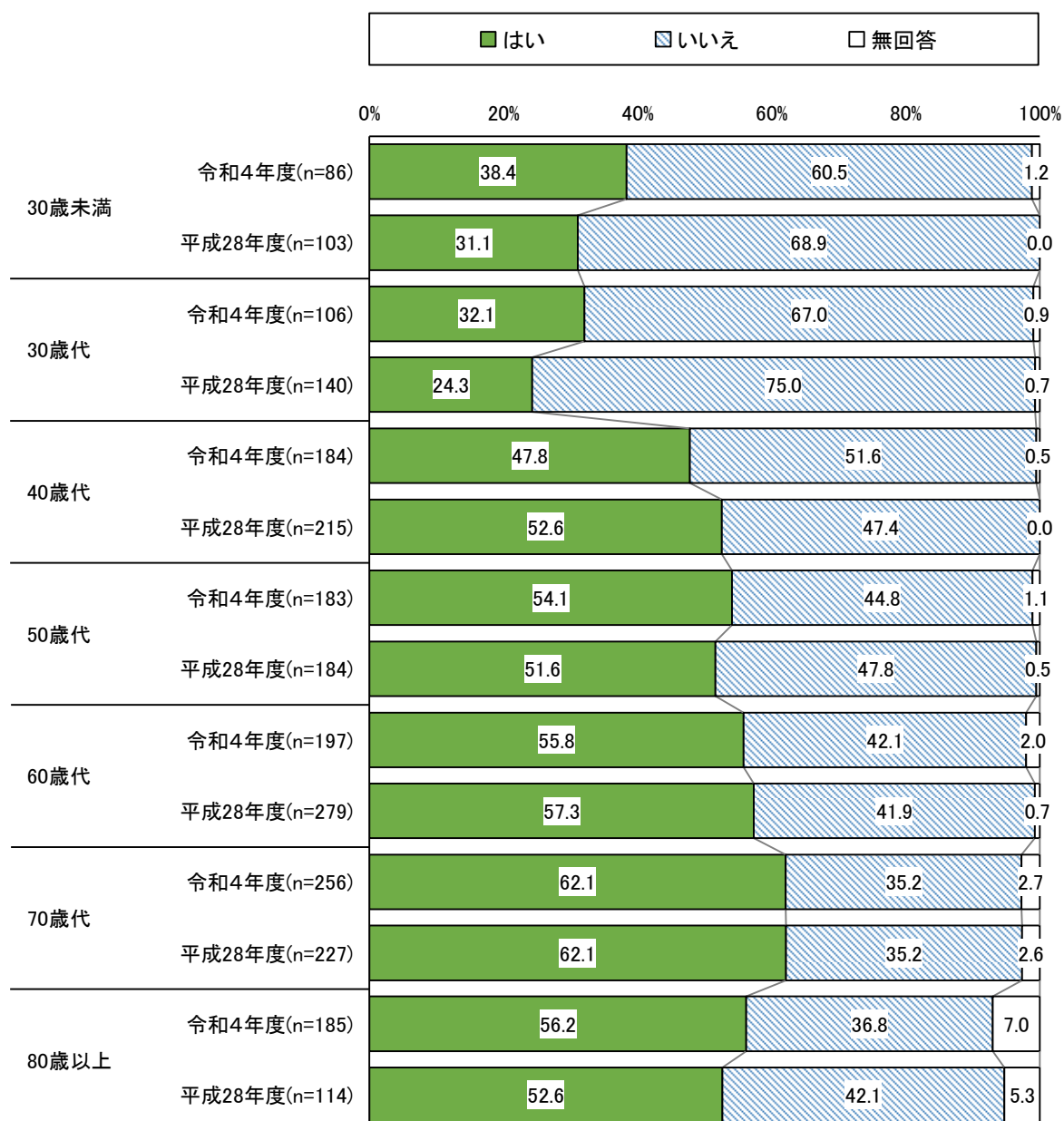
地域活動への参加について、「はい」が52.4%、「いいえ」が45.2%となっています。
これまでの調査から、大きな変化は見られません。



■年齢別＊経年比較＊地域活動への参加の有無

年齢別にみると、50歳代以上では過半数が「はい」と回答しており、70歳代では62.1%を占めています。

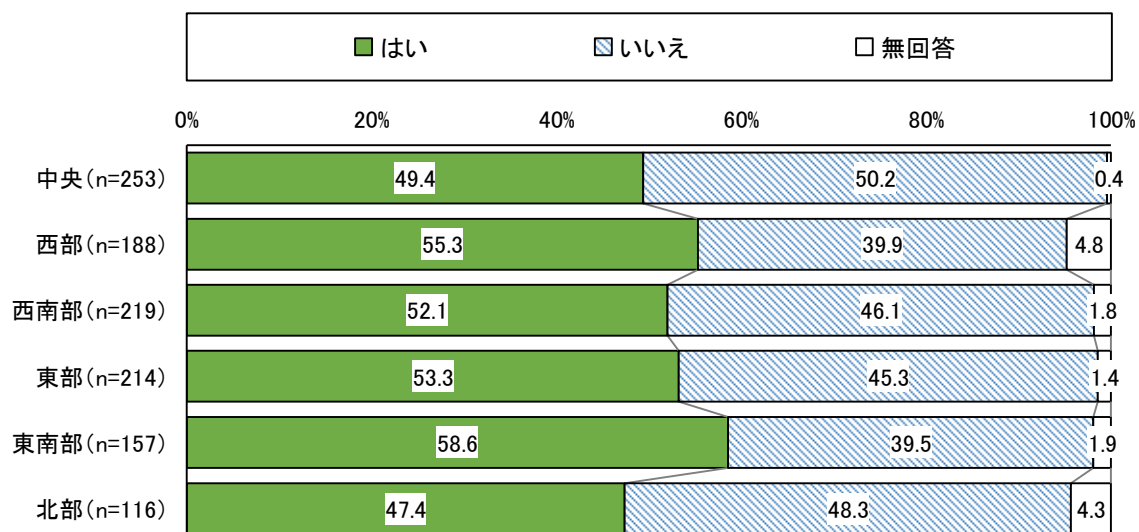
経年比較をみると、30歳未満と30歳代では、「はい」と回答した割合は他の年齢より低いものの、30歳未満では7.3ポイント、30歳代では7.8ポイント増加しています。



Ⅲ 調査結果

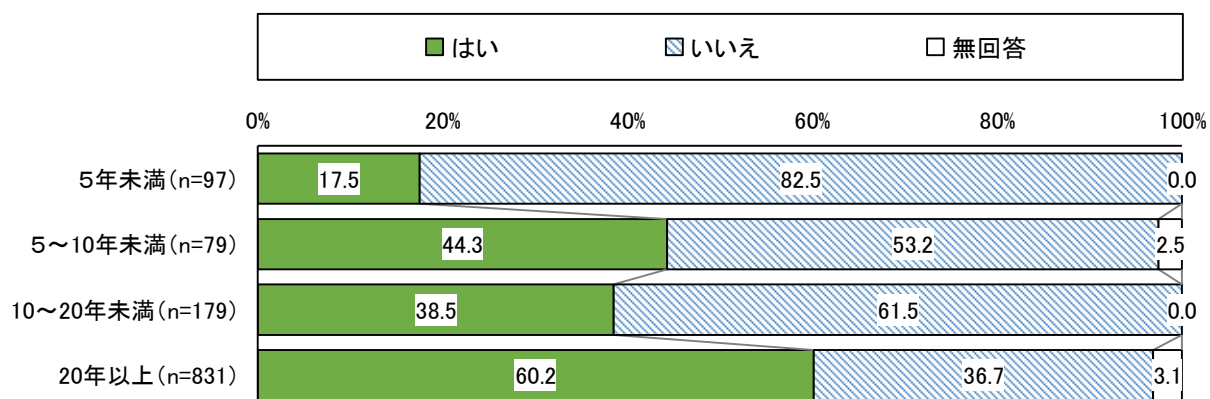
■居住地域別＊地域活動への参加の有無

居住地域別にみると、東南部では「はい」が58.6%で最も多くなっています。西部、西南部、東部においても「はい」が過半数を占めています。



■居住年数別＊地域活動への参加の有無

居住年数別にみると、20年以上では「はい」が60.2%を占めているのに対し、5年未満では17.5%にとどまっています。



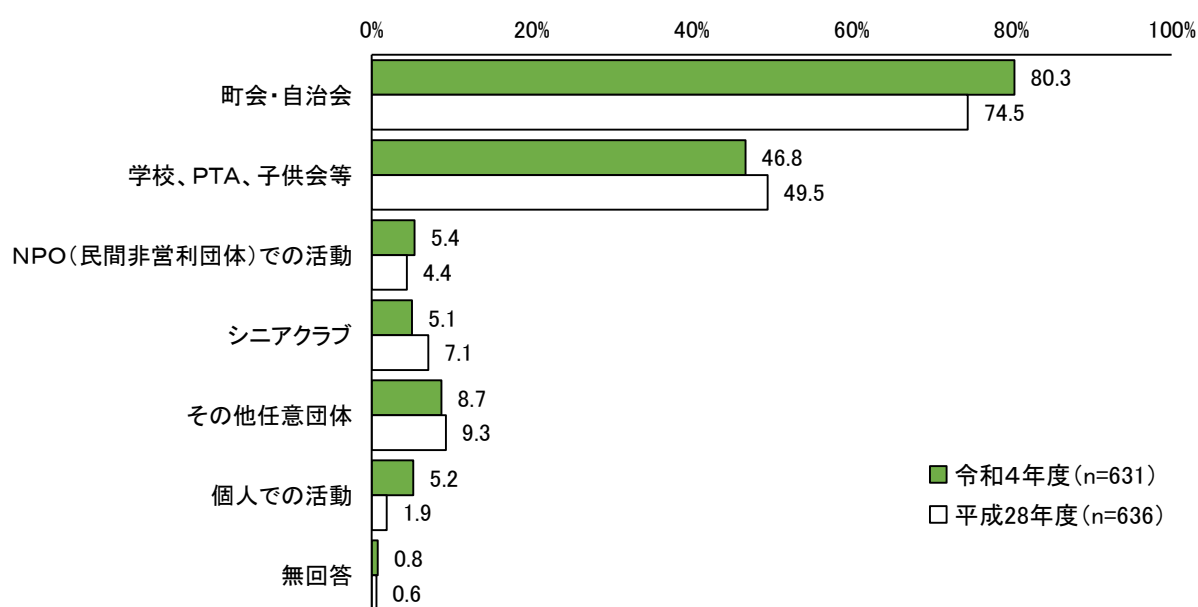
(2)地域活動で参加した団体

問18で「1. はい」に○をつけた方

問18-1 どういった団体に活動されましたか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動として参加した団体は、「町会・自治会」が80.3%で最も多く、以下「学校、PTA、子供会等」が46.8%、「その他任意団体」が8.7%、「NPO(民間非営利団体)での活動」が5.4%、「個人での活動」が5.2%、「シニアクラブ」が5.1%となっています。

前回の調査と比較すると、「町会・自治会」が5.8ポイント増加しています。



Ⅲ 調査結果

■年齢別＊経年比較＊地域活動で参加した団体

年齢別にみると、「町会・自治会」は年齢が高いほど多くなる傾向がみられ、80歳以上では91.3%を占めています。「学校、PTA、子供会等」は40歳代で72.7%を占めています。

経年比較をみると、50歳代を除くすべての年齢で「町会・自治会」が増加しており、特に30歳未満では20.1ポイント、30歳代では14.7ポイントの増加となっています。

単位：％

		町会・自治会	学校、PTA、子供会等	NPO（民間非営利団体）での活動	シニアクラブ	その他任意団体	個人での活動	無回答
全体	令和4年度 (n=631)	80.3	46.8	5.4	5.1	8.7	5.2	0.8
	平成28年度 (n=636)	74.5	49.5	4.4	7.1	9.3	1.9	0.6
30歳未満	令和4年度 (n=33)	57.6	69.7	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0
	平成28年度 (n=32)	37.5	59.4	9.4	0.0	6.3	9.4	3.1
30歳代	令和4年度 (n=34)	73.5	41.2	0.0	0.0	5.9	8.8	0.0
	平成28年度 (n=34)	58.8	55.9	5.9	2.9	17.6	2.9	0.0
40歳代	令和4年度 (n=88)	68.2	72.7	3.4	0.0	5.7	3.4	2.3
	平成28年度 (n=113)	57.5	73.5	3.5	0.9	6.2	0.9	0.0
50歳代	令和4年度 (n=99)	75.8	62.6	10.1	1.0	6.1	4.0	0.0
	平成28年度 (n=95)	84.2	64.2	1.1	0.0	6.3	0.0	0.0
60歳代	令和4年度 (n=110)	87.3	45.5	5.5	0.9	8.2	4.5	0.9
	平成28年度 (n=160)	83.1	42.5	3.8	6.3	11.9	1.9	0.6
70歳代	令和4年度 (n=159)	84.3	32.7	6.9	7.5	11.3	6.9	1.3
	平成28年度 (n=141)	81.6	35.5	7.1	14.9	11.3	1.4	1.4
80歳以上	令和4年度 (n=104)	91.3	26.9	2.9	17.3	13.5	6.7	0.0
	平成28年度 (n=60)	80.0	23.3	3.3	20.0	5.0	3.3	0.0

■居住地域別＊地域活動で参加した団体

居住地域別にみると、すべての地域で「町会・自治会」が最も多くなっています。東部は71.1%で他の地域よりやや少なくなっています。

単位：％

	町会・自治会	学校、PTA、子供会等	NPO（民間非営利団体）での活動	シニアクラブ	その他任意団体	個人での活動	無回答
全体（n=631）	80.3	46.8	5.4	5.1	8.7	5.2	0.8
中央（n=125）	82.4	39.2	4.8	2.4	15.2	6.4	1.6
西部（n=104）	86.5	53.8	7.7	9.6	7.7	3.8	0.0
西南部（n=114）	81.6	47.4	6.1	4.4	6.1	7.0	0.0
東部（n=114）	71.1	46.5	9.6	5.3	7.9	5.3	0.0
東南部（n=92）	81.5	53.3	1.1	3.3	4.3	3.3	1.1
北部（n=55）	78.2	41.8	0.0	1.8	7.3	3.6	3.6

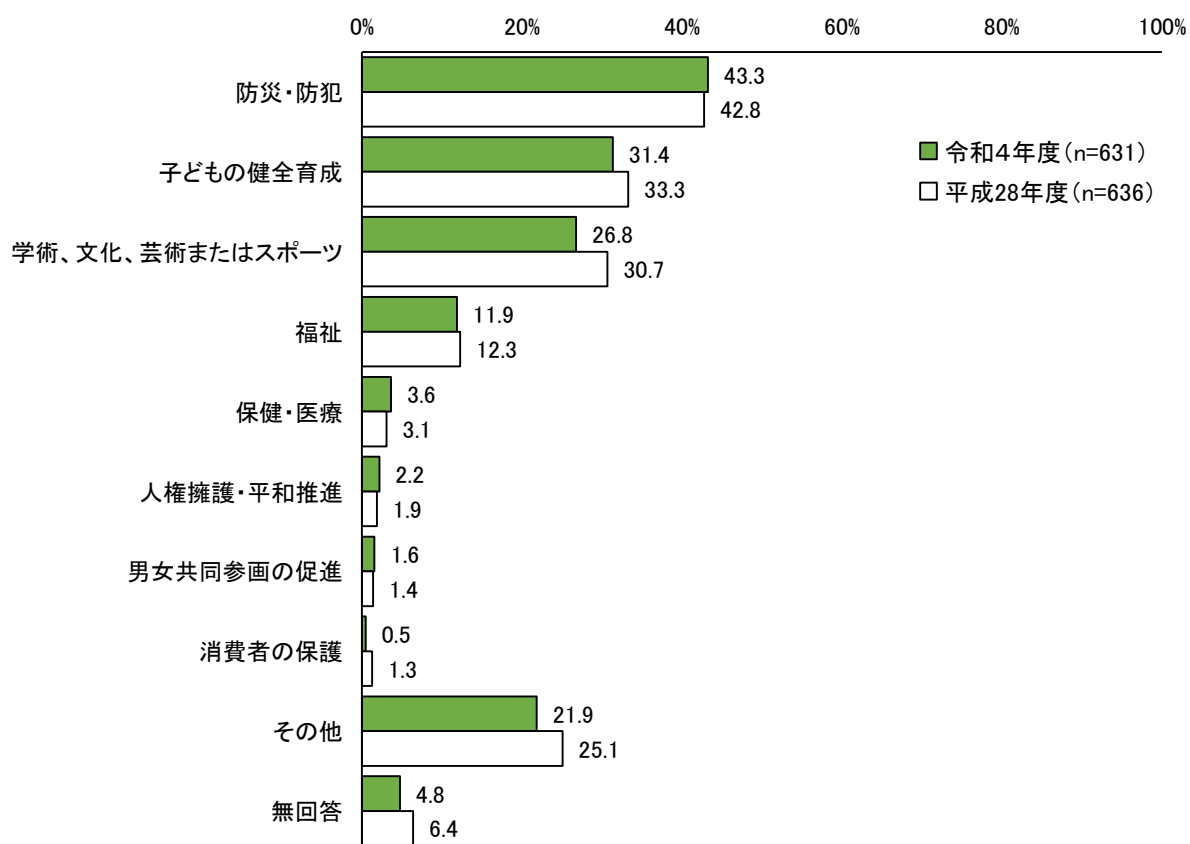
(3)地域活動で参加した活動

問18で「1. はい」に○をつけた方

問18-2 それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動で参加した活動は、「防災・防犯」が43.3%で最も多く、以下「子どもの健全育成」が31.4%、「学術、文化、芸術またはスポーツ」が26.8%、「福祉」が11.9%などとなっています。

前回の調査から大きな変化は見られません。



■年齢別＊地域活動で参加した活動

年齢別にみると、30歳未満と30歳代では、「学術、文化、芸術またはスポーツ」が最も多くなっています。40歳代では、「子どもの健全育成」が最も多く、次いで「防災・防犯」となっています。50歳代より上の年齢では、いずれも「防災・防犯」が最も多くなっています。

単位：％

	防災・防犯	子どもの健全育成	学術、文化、芸術またはスポーツ	福祉	保健・医療	人権擁護・平和推進	男女共同参画の促進	消費者の保護	その他	無回答
全体 (n=631)	43.3	31.4	26.8	11.9	3.6	2.2	1.6	0.5	21.9	4.8
30歳未満 (n=33)	27.3	18.2	42.4	12.1	3.0	0.0	0.0	0.0	21.2	3.0
30歳代 (n=34)	17.6	23.5	41.2	11.8	2.9	5.9	2.9	0.0	32.4	2.9
40歳代 (n=88)	42.0	48.9	25.0	9.1	3.4	3.4	0.0	1.1	15.9	1.1
50歳代 (n=99)	48.5	44.4	23.2	13.1	4.0	2.0	0.0	0.0	19.2	1.0
60歳代 (n=110)	44.5	33.6	27.3	8.2	2.7	1.8	0.9	0.9	23.6	5.5
70歳代 (n=159)	47.8	22.6	20.1	11.9	2.5	1.3	3.8	0.6	22.6	8.8
80歳以上 (n=104)	43.3	21.2	32.7	17.3	6.7	2.9	1.9	0.0	24.0	5.8

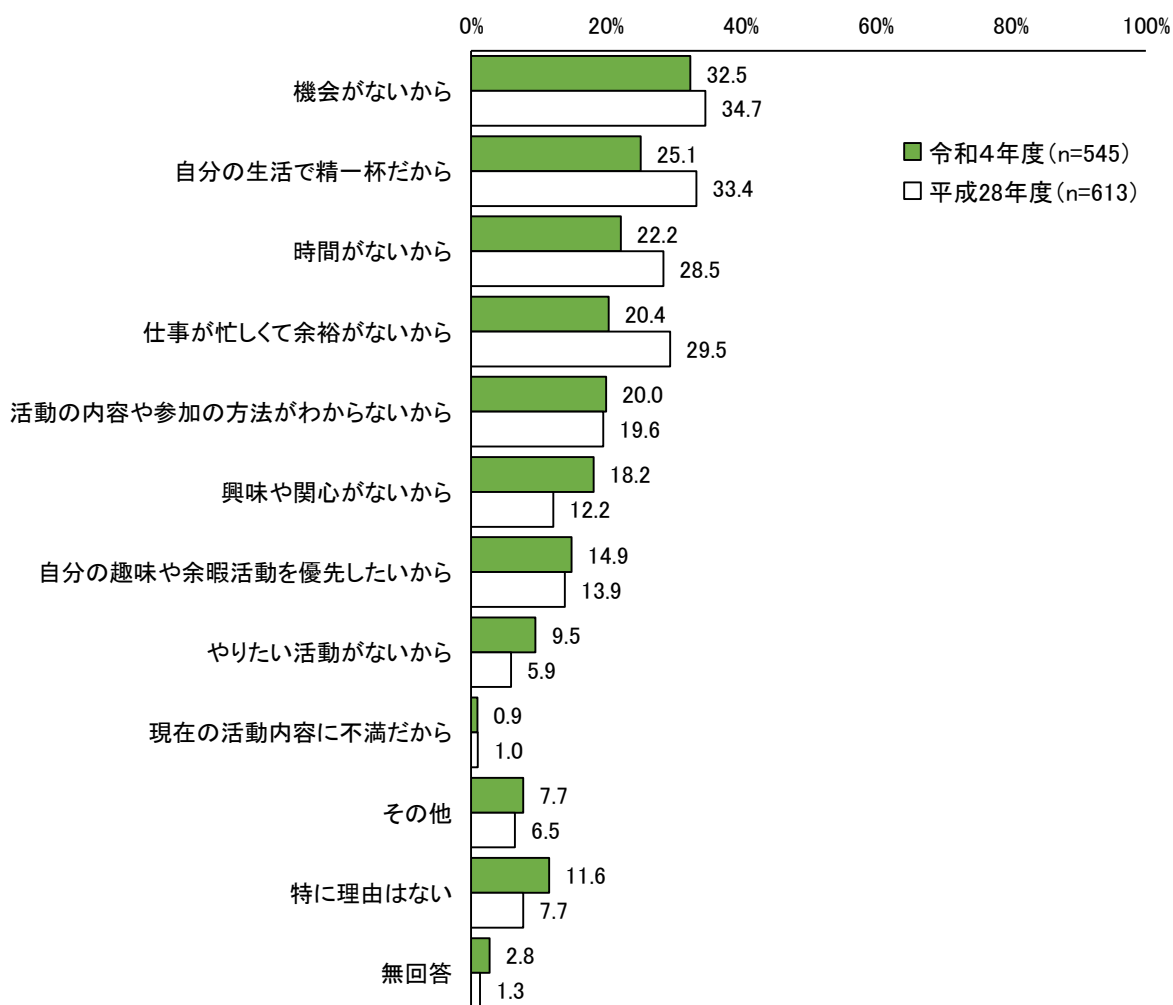
(4)地域活動に参加していない理由

問18で「2. いいえ」に○をつけた方

問18-3 地域での活動に参加していないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動に参加していない理由は、「機会がないから」が32.5%で最も多く、以下「自分の生活で精一杯だから」が25.1%、「時間がないから」が22.2%、「仕事が忙しくて余裕がないから」が20.4%、「活動の内容や参加の方法がわからないから」が20.0%、「興味や関心がないから」が18.2%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「興味や関心がないから」が6.0ポイント増加しています。一方で、「仕事が忙しくて余裕がないから」は9.1ポイント減少、「自分の生活で精一杯だから」は8.3ポイント減少しています。



■年齢別＊経年比較＊地域活動に参加していない理由

年齢別にみると、30歳未満では、「時間がないから」が最も多くなっています。

30歳代と50歳代、60歳代では、「機会がないから」が最も多くなっています。

40歳代では、「仕事が忙しくて余裕がないから」が最も多くなっています。

70歳代と80歳以上では、「自分の生活で精一杯だから」が最も多くなっています。

経年比較をみると、上位4項目は全体的に減少しており、一方で、「興味や関心がないから」は60歳代を除いたすべての年齢で増加しています。

単位：％

		機会がないから	自分の生活で精一杯だから	時間がないから	仕事が忙しくて余裕がないから	活動の内容や参加の方法がわからないから	興味や関心がないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	やりたい活動がないから	現在の活動内容に不満だから	その他	特に理由はない	無回答
全体	令和4年度(n=545)	32.5	25.1	22.2	20.4	20.0	18.2	14.9	9.5	0.9	7.7	11.6	2.8
	平成28年度(n=613)	34.7	33.4	28.5	29.5	19.6	12.2	13.9	5.9	1.0	6.5	7.7	1.3
30歳未満	令和4年度(n=52)	30.8	28.8	32.7	28.8	21.2	28.8	11.5	9.6	0.0	0.0	5.8	0.0
	平成28年度(n=71)	43.7	35.2	36.6	23.9	23.9	18.3	12.7	7.0	0.0	5.6	4.2	0.0
30歳代	令和4年度(n=71)	46.5	28.2	29.6	22.5	25.4	28.2	23.9	16.9	0.0	4.2	4.2	2.8
	平成28年度(n=105)	41.0	33.3	34.3	45.7	19.0	16.2	12.4	2.9	1.0	5.7	3.8	1.0
40歳代	令和4年度(n=95)	31.6	25.3	30.5	35.8	22.1	15.8	17.9	8.4	2.1	6.3	8.4	1.1
	平成28年度(n=102)	34.3	28.4	39.2	43.1	17.6	14.7	16.7	5.9	2.0	5.9	8.8	0.0
50歳代	令和4年度(n=82)	32.9	24.4	30.5	30.5	19.5	22.0	12.2	4.9	1.2	4.9	4.9	1.2
	平成28年度(n=88)	40.9	29.5	30.7	36.4	25.0	12.5	14.8	6.8	0.0	3.4	9.1	1.1
60歳代	令和4年度(n=83)	43.4	25.3	20.5	13.3	21.7	7.2	12.0	6.0	1.2	10.8	6.0	3.6
	平成28年度(n=117)	31.6	38.5	23.1	23.9	18.8	9.4	17.1	8.5	1.7	5.1	7.7	1.7
70歳代	令和4年度(n=90)	24.4	25.6	8.9	7.8	16.7	18.9	12.2	10.0	1.1	15.6	20.0	1.1
	平成28年度(n=80)	26.3	32.5	13.8	12.5	16.3	6.3	13.8	7.5	1.3	8.8	11.3	0.0
80歳以上	令和4年度(n=68)	17.6	19.1	5.9	4.4	13.2	10.3	14.7	13.2	0.0	8.8	29.4	10.3
	平成28年度(n=48)	18.8	37.5	16.7	4.2	16.7	6.3	4.2	0.0	0.0	16.7	10.4	8.3

Ⅲ 調査結果

■居住地域別＊地域活動に参加していない理由

居住地域別にみると、すべての地域で「機会がないから」が最も多くなっています。西部では、「自分の生活で精一杯だから」と「興味や関心がないから」が同率で最も多くなっています。

単位：％

	機会がないから	自分の生活で精一杯だから	時間がないから	仕事が忙しくて余裕がないから	活動の内容や参加の方法がわからないから	興味や関心がないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	やりたい活動がないから	現在の活動内容に不満だから	その他	特に理由はない	無回答
全体（n=545）	32.5	25.1	22.2	20.4	20.0	18.2	14.9	9.5	0.9	7.7	11.6	2.8
中央（n=127）	30.7	23.6	24.4	25.2	16.5	20.5	14.2	10.2	1.6	7.9	10.2	3.1
西部（n=75）	26.7	26.7	20.0	20.0	9.3	26.7	13.3	9.3	1.3	5.3	14.7	2.7
西南部（n=101）	32.7	25.7	24.8	17.8	18.8	22.8	14.9	8.9	1.0	6.9	7.9	4.0
東部（n=97）	40.2	23.7	15.5	14.4	29.9	10.3	20.6	9.3	0.0	4.1	11.3	1.0
東南部（n=62）	32.3	24.2	25.8	27.4	19.4	17.7	16.1	9.7	0.0	14.5	11.3	3.2
北部（n=56）	39.3	32.1	26.8	23.2	26.8	12.5	12.5	8.9	0.0	7.1	7.1	3.6

(5) 地域活動に参加したいと思う条件や内容

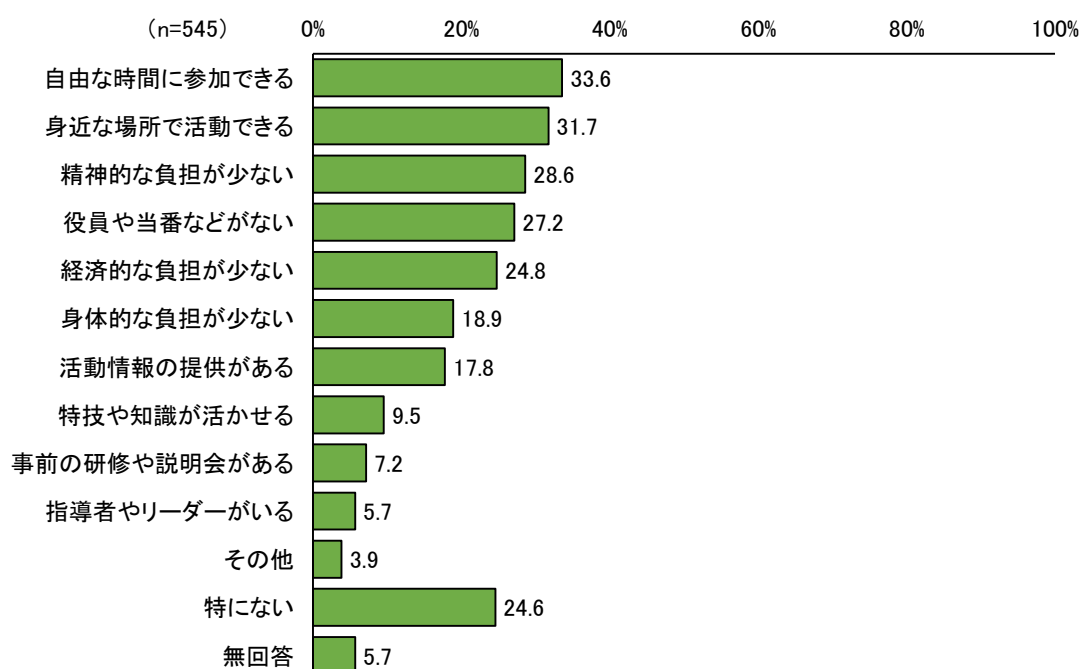
問18で「2. いいえ」に○をつけた方

問18-4 どのような条件や内容であれば、地域活動に参加したいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

地域活動に参加したいと思う条件や内容は、「自由な時間に参加できる」が33.6%で最も多く、以下「身近な場所で活動できる」が31.7%、「精神的な負担が少ない」が28.6%、「役員や当番などがない」が27.2%、「経済的な負担が少ない」が24.8%、「身体的な負担が少ない」が18.9%などとなっています。

なお、「特にない」は24.6%となっています。



Ⅲ 調査結果

■年齢別＊地域活動に参加したいと思う条件や内容

年齢別にみると、年齢が低いほど「自由な時間に参加できる」が多くなる傾向がみられ、30歳未満と40歳代、50歳代では最も多くなっています。

また、30歳代、70歳代、80歳以上では、「身近な場所で活動できる」が最も多くなっています。

「精神的な負担が少ない」、「役員や当番などがない」、「経済的な負担が少ない」は、30歳未満から60歳代で比較的多くなっています。

単位：％

	自由な時間に参加できる	身近な場所で活動できる	精神的な負担が少ない	役員や当番などがない	経済的な負担が少ない	身体的な負担が少ない	活動情報の提供がある	特技や知識が活かせる	事前の研修や説明会がある	指導者やリーダーがいる	その他	特にない	無回答
全体 (n=545)	33.6	31.7	28.6	27.2	24.8	18.9	17.8	9.5	7.2	5.7	3.9	24.6	5.7
30歳未満 (n=52)	42.3	36.5	34.6	25.0	34.6	21.2	23.1	5.8	5.8	7.7	3.8	26.9	0.0
30歳代 (n=71)	36.6	40.8	33.8	32.4	31.0	26.8	15.5	8.5	5.6	2.8	5.6	18.3	2.8
40歳代 (n=95)	38.9	23.2	28.4	37.9	22.1	14.7	17.9	10.5	6.3	4.2	5.3	24.2	3.2
50歳代 (n=82)	35.4	32.9	35.4	30.5	28.0	19.5	25.6	18.3	3.7	9.8	2.4	24.4	4.9
60歳代 (n=83)	38.6	36.1	39.8	43.4	38.6	20.5	15.7	10.8	9.6	7.2	1.2	13.3	4.8
70歳代 (n=90)	25.6	31.1	17.8	10.0	13.3	15.6	16.7	6.7	7.8	5.6	4.4	31.1	6.7
80歳以上 (n=68)	19.1	25.0	10.3	8.8	7.4	16.2	10.3	4.4	10.3	2.9	4.4	35.3	16.2

■居住地域別＊地域活動に参加したいと思う条件や内容

居住地域別にみると、東部、北部では「身近な場所で活動できる」が最も多く、他の地域より10ポイント以上の差があります。

西部、西南部、東南部では、「自由な時間に参加できる」が最も多く、中央では「精神的な負担が少ない」が最も多くなっています。

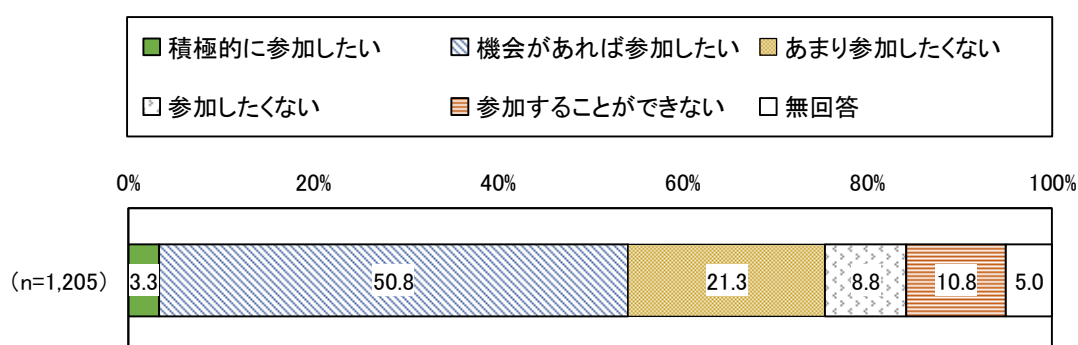
単位：％

	自由な時間に参加できる	身近な場所で活動できる	精神的な負担が少ない	役員や当番などがいない	経済的な負担が少ない	身体的な負担が少ない	活動情報の提供がある	特技や知識が活かせる	事前の研修や説明会がある	指導者やリーダーがいる	その他	特にない	無回答
全体 (n=545)	33.6	31.7	28.6	27.2	24.8	18.9	17.8	9.5	7.2	5.7	3.9	24.6	5.7
中央 (n=127)	29.1	26.8	36.2	29.1	31.5	18.9	15.0	9.4	3.9	4.7	3.9	27.6	1.6
西部 (n=75)	28.0	22.7	24.0	22.7	12.0	21.3	12.0	5.3	4.0	1.3	2.7	28.0	9.3
西南部 (n=101)	38.6	29.7	28.7	25.7	22.8	15.8	23.8	14.9	12.9	11.9	2.0	24.8	5.0
東部 (n=97)	40.2	43.3	26.8	35.1	30.9	16.5	20.6	10.3	5.2	3.1	1.0	19.6	5.2
東南部 (n=62)	32.3	29.0	22.6	22.6	21.0	21.0	16.1	4.8	4.8	3.2	11.3	27.4	6.5
北部 (n=56)	37.5	44.6	30.4	25.0	26.8	25.0	23.2	12.5	10.7	10.7	5.4	16.1	5.4

(6)今後の地域活動への参加

問19 あなたは今後、地域活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

今後の地域活動への参加について、「機会があれば参加したい」が50.8%で最も多く、以下「あまり参加したくない」が21.3%、「参加することができない」が10.8%、「参加したくない」が8.8%、「積極的に参加したい」が3.3%となっています。

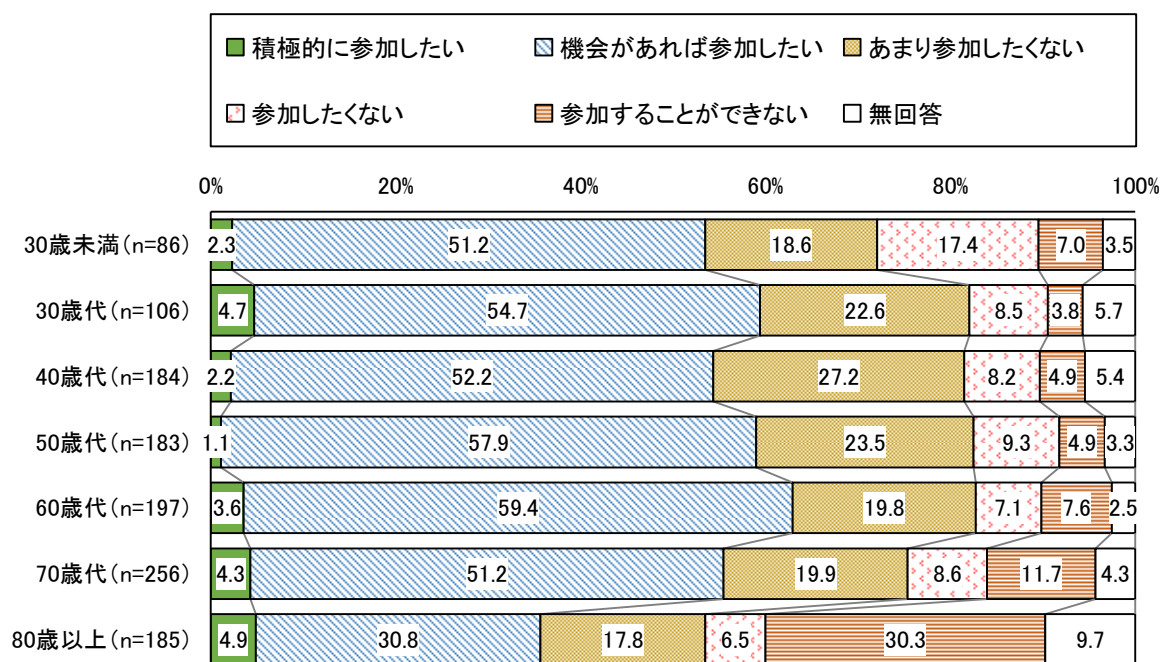


■年齢別＊今後の地域活動への参加

年齢別にみると、30歳未満から70歳代までは過半数が参加意向(積極的に参加したい+機会があれば参加したい)を示しています。

一方で、80歳以上では、30.3%が「参加することができない」と回答しています。

30歳未満では、「参加したくない」が17.4%で他の年齢より多くなっています。



4 地域防災について

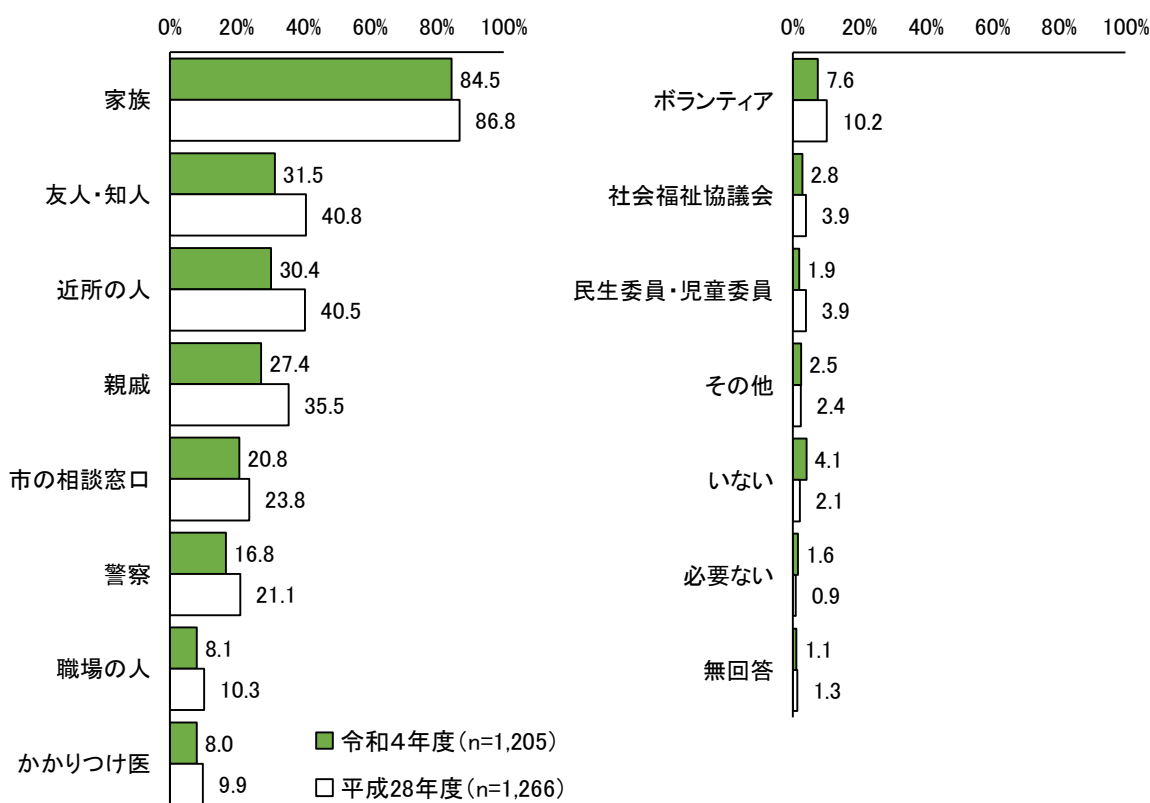
(1)大規模災害等の発生時に頼りにしている人

問20 大規模災害等が発生した時、あなたは誰を頼りにしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

大規模災害等の発生時に頼りにしている人は、「家族」が84.5%で最も多く、以下「友人・知人」が31.5%、「近所の人」が30.4%、「親戚」が27.4%、「市の相談窓口」が20.8%、「警察」が16.8%などとなっています。

前回の調査と比較すると、全体的に割合が低くなっており、「近所の人」が10.1ポイント減少、「友人・知人」が9.3ポイント減少、「親戚」が8.1ポイント減少しています。

なお、「いない」は4.1%となっています。



Ⅲ 調査結果

■年齢別＊経年比較＊大規模災害等の発生時に頼りにしている人

年齢別にみると、すべての年齢で「家族」が大半を占めています。年齢が高いほど「友人・知人」が少なくなる一方で、「近所の人」や「市の相談窓口」、「かかりつけ医」などが多くなる傾向がみられます。

経年比較をみると、全体的に割合が低くなっており、特に「近所の人」や「友人・知人」、「親戚」、「警察」では10ポイント以上増加している年齢がみられます。一方で、「いない」との回答は全体的に少ないものの、すべての年齢で増加しています。

単位：％

		家族	友人・知人	近所の人	親戚	市の相談窓口	警察	職場の人	かかりつけ医	ボランティア	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	その他	いない	必要ない	無回答
全体	令和4年度 (n=1,205)	84.5	31.5	30.4	27.4	20.8	16.8	8.1	8.0	7.6	2.8	1.9	2.5	4.1	1.6	1.1
	平成28年度 (n=1,266)	86.8	40.8	40.5	35.5	23.8	21.1	10.3	9.9	10.2	3.9	3.9	2.4	2.1	0.9	1.3
30歳未満	令和4年度 (n=86)	84.9	43.0	12.8	20.9	8.1	14.0	16.3	1.2	4.7	2.3	0.0	3.5	2.3	2.3	1.2
	平成28年度 (n=103)	89.3	49.5	19.4	29.1	11.7	32.0	14.6	3.9	6.8	0.0	0.0	2.9	1.0	1.0	1.0
30歳代	令和4年度 (n=106)	86.8	35.8	19.8	29.2	13.2	14.2	17.9	6.6	4.7	0.9	0.9	4.7	1.9	1.9	0.9
	平成28年度 (n=140)	90.7	46.4	27.9	32.9	17.9	25.7	25.0	7.1	9.3	0.7	1.4	2.1	0.7	2.1	0.0
40歳代	令和4年度 (n=184)	88.0	34.8	22.8	32.1	15.2	15.8	10.3	4.9	8.7	2.2	0.0	1.6	4.3	2.7	0.0
	平成28年度 (n=215)	89.8	47.4	37.2	42.8	18.1	19.5	17.7	2.3	7.9	1.9	1.9	3.7	1.9	0.5	0.5
50歳代	令和4年度 (n=183)	86.9	37.2	27.9	25.1	20.8	21.3	15.3	3.3	11.5	3.3	1.6	2.7	2.7	1.6	0.0
	平成28年度 (n=184)	89.7	41.3	35.9	33.2	23.9	21.7	11.4	4.9	7.6	1.1	0.5	2.2	2.2	1.1	0.5
60歳代	令和4年度 (n=197)	86.8	34.5	26.9	29.4	23.9	16.8	6.1	6.1	6.6	1.0	0.0	1.5	7.1	1.5	0.0
	平成28年度 (n=279)	85.3	42.7	50.9	35.5	30.8	20.1	6.1	14.7	15.1	6.5	5.0	3.6	2.9	1.1	0.7
70歳代	令和4年度 (n=256)	78.9	26.6	41.4	26.2	26.6	14.8	1.6	10.2	7.0	3.9	2.0	2.7	4.3	1.2	1.6
	平成28年度 (n=227)	84.1	34.4	52.0	39.2	27.3	18.9	1.8	16.7	11.5	6.6	7.0	0.4	2.2	0.4	3.1
80歳以上	令和4年度 (n=185)	82.2	18.4	43.2	25.9	24.9	18.9	0.5	19.5	7.0	4.3	7.6	2.2	3.8	0.0	3.8
	平成28年度 (n=114)	80.7	22.8	42.1	27.2	28.1	14.0	0.0	15.8	8.8	8.8	11.4	1.8	2.6	0.0	2.6

■同居者別＊大規模災害等の発生時に頼りにしている人

同居者別にみると、家族と同居している場合は「家族」が大半を占めていますが、ひとり暮らしでは58.1%にとどまっています。

単位：％

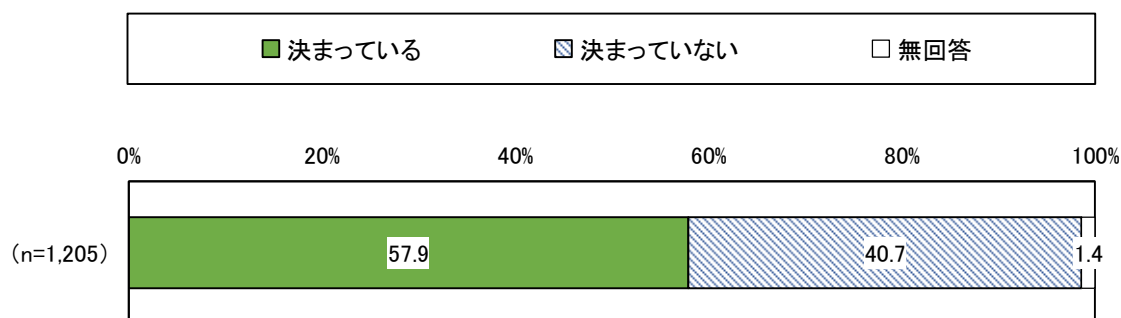
	家族	友人・知人	近所の人	親戚	市の相談窓口	警察	職場の人	かかりつけ医	ボランティア	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	その他	いない	必要ない	無回答
全体（n=1,205）	84.5	31.5	30.4	27.4	20.8	16.8	8.1	8.0	7.6	2.8	1.9	2.5	4.1	1.6	1.1
ひとり暮らし （n=191）	58.1	35.1	26.2	15.7	20.9	15.7	9.9	9.9	8.9	3.7	4.2	1.6	9.9	3.1	2.1
あなたの配偶者 （n=761）	91.9	29.4	32.6	31.1	22.2	16.6	6.2	8.1	7.2	3.0	1.3	1.6	2.6	0.9	0.5
あなたの子ども （n=480）	92.5	30.6	31.9	33.5	20.2	16.0	8.5	6.7	7.7	1.9	1.0	1.7	1.5	1.3	1.0
あなたの親 （n=119）	87.4	33.6	25.2	19.3	20.2	21.8	17.6	6.7	8.4	2.5	2.5	5.9	7.6	0.0	0.8
あなたの祖父・祖母 （n=57）	84.2	36.8	28.1	26.3	3.5	14.0	10.5	3.5	5.3	1.8	0.0	3.5	3.5	1.8	0.0

Ⅲ 調査結果

(2)災害時の避難場所

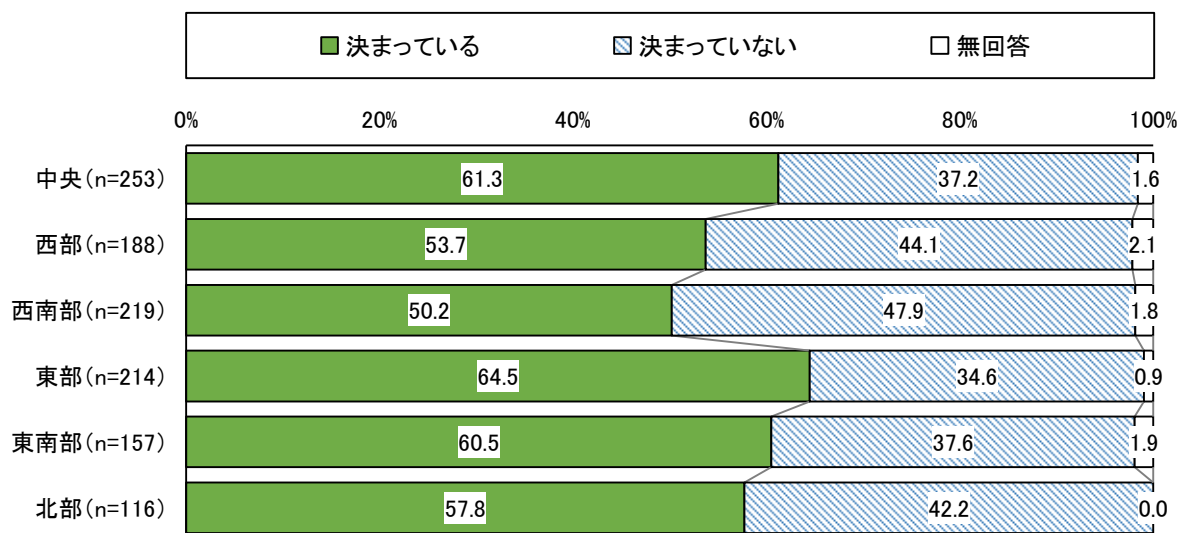
問21 あなたは災害時の避難場所が決まっていますか。(○は1つ)

災害時の避難場所は、「決まっている」が57.9%、「決まっていない」が40.7%となっています。



■居住地域別＊災害時の避難場所

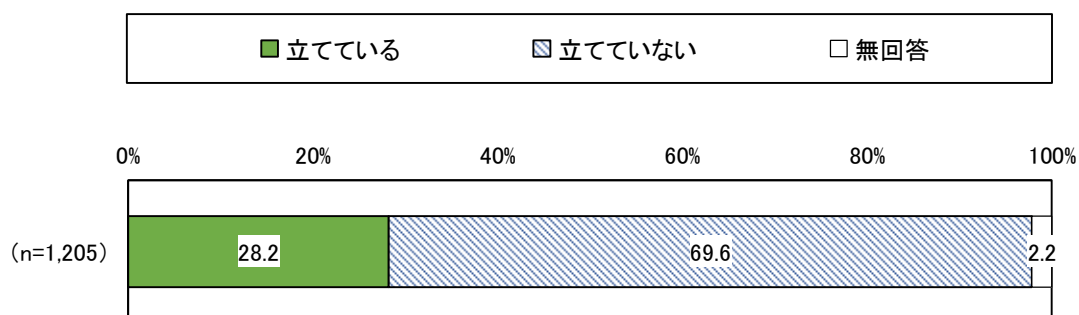
居住地域別にみると、中央、東部、東南部では、「決まっている」が60%を超えています。一方で、西部は53.7%、西南部は50.2%となっており、やや地域差がみられます。



(3)避難時の行動計画

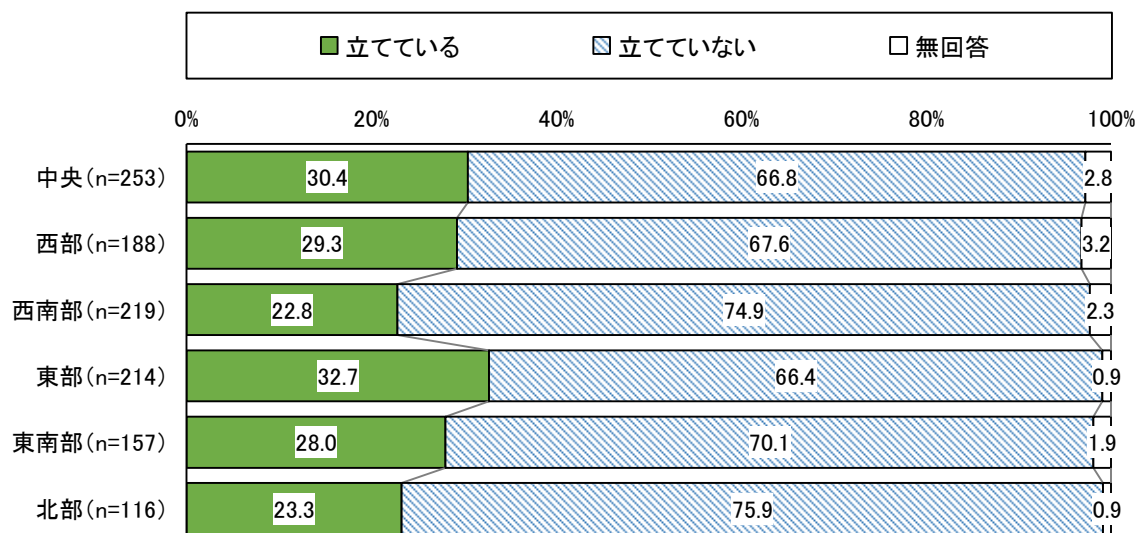
問22 あなたは避難時の行動について計画を立てていますか。(○は1つ)

避難時の行動計画は、「立てていない」が69.6%、「立てている」が28.2%となっています。



■居住地域別＊避難時の行動計画

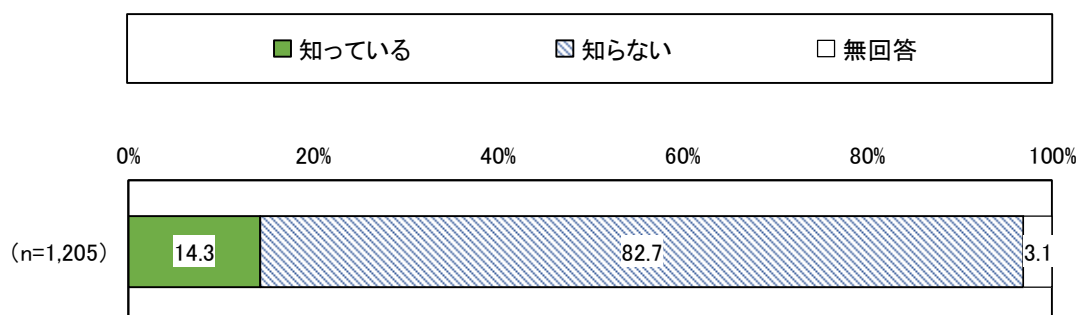
居住地域別にみると、中央と東部では、「立てている」が30%を超えています。一方で、北部は23.3%、西南部は22.8%となっており、やや地域差がみられます。



(4)緊急時に支援が必要な近所の人

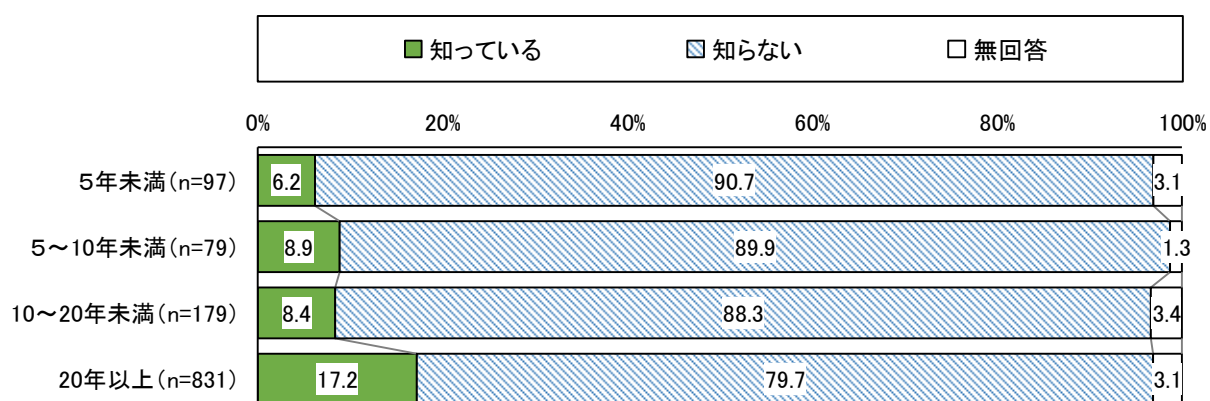
問23 あなたは緊急時に支援が必要な近所の人を知っていますか。(○は1つ)

緊急時に支援が必要な近所の方は、「知らない」が82.7%、「知っている」が14.3%となっています。



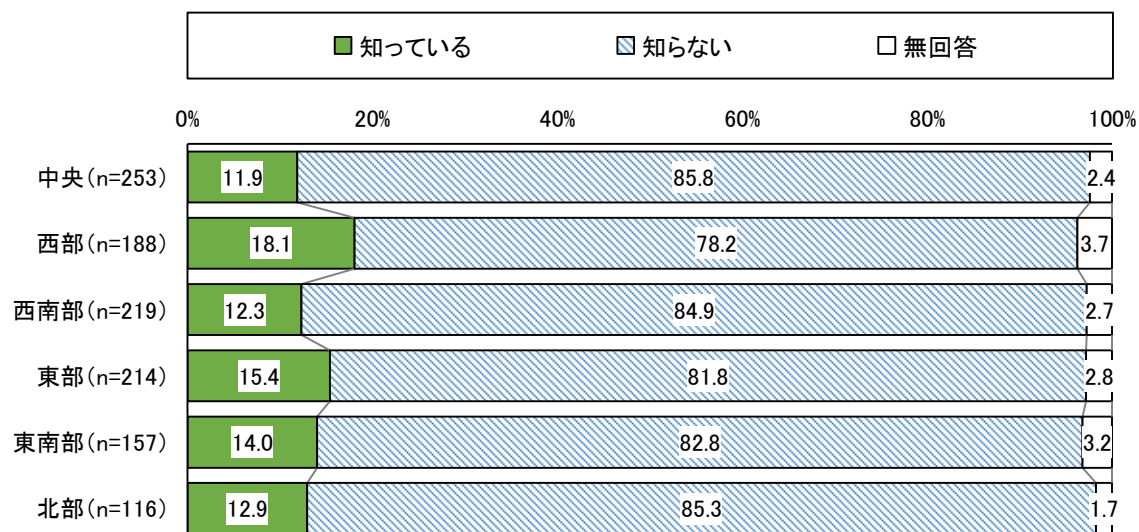
■居住年数別＊緊急時に支援が必要な近所の人

居住年数別にみると、20年以上では17.2%が「知っている」と回答しています。



■居住地域別＊緊急時に支援が必要な近所の人

居住地域別にみると、すべての地域で80％前後が「知らない」と回答しています。



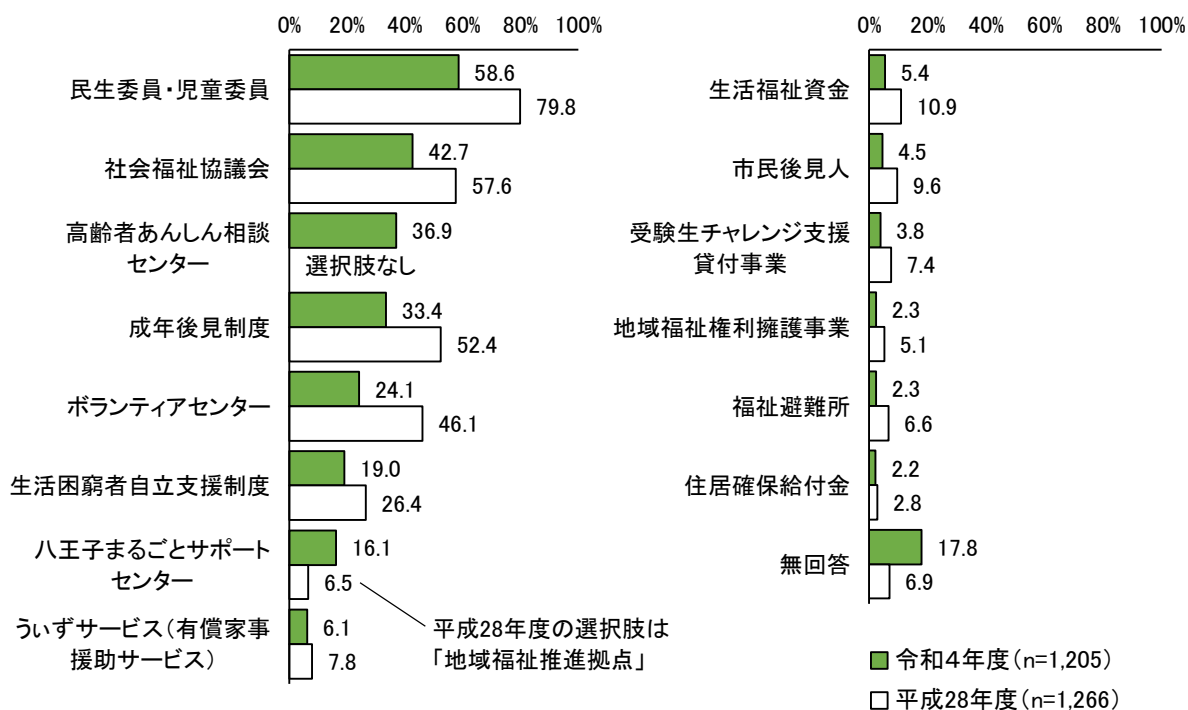
5 市の福祉施策や制度、サービスについて

(1)福祉にかかわる制度や言葉の認知度

問24 あなたは、次に挙げるような福祉にかかわる制度や言葉の中で、どれを知っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

福祉にかかわる制度や言葉の認知度は、「民生委員・児童委員」が58.6%で最も多く、以下「社会福祉協議会」が42.7%、「高齢者あんしん相談センター」が36.9%、「成年後見制度」が33.4%、「ボランティアセンター」が24.1%、「生活困窮者自立支援制度」が19.0%などとなっています。

前回の調査と比較すると、全体的に割合が低くなっており、特に「ボランティアセンター」が22.0ポイント減少、「民生委員・児童委員」が21.2ポイント減少、「成年後見制度」が19.0ポイント減少しています。



■年齢別＊福祉にかかわる制度や言葉の認知度

年齢別にみると、認知度が上位である「民生委員・児童委員」、「社会福祉協議会」、「成年後見制度」、「ボランティアセンター」は年齢が高いほど多くなる傾向がみられ、いずれも60歳代で最も多くなっています。「高齢者あんしん相談センター」も同様の傾向がみられ、80歳以上では54.1%を占めています。

単位：％

	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	成年後見制度	ボランティアセンター	生活困窮者自立支援制度	八王子まるごとサポートセンター	ういずサービス(有償家事援助サービス)	生活福祉資金	市民後見人	受験生チャレンジ支援貸付事業	地域福祉権利擁護事業	福祉避難所	住居確保給付金	無回答
全体 (n=1,205)	58.6	42.7	36.9	33.4	24.1	19.0	16.1	6.1	5.4	4.5	3.8	2.3	2.3	2.2	17.8
30歳未満 (n=86)	25.6	24.4	15.1	19.8	23.3	18.6	14.0	1.2	8.1	7.0	2.3	2.3	3.5	3.5	36.0
30歳代 (n=106)	41.5	32.1	22.6	31.1	19.8	30.2	12.3	2.8	6.6	3.8	0.9	1.9	2.8	3.8	29.2
40歳代 (n=184)	52.2	40.2	27.7	37.5	19.0	24.5	12.5	6.5	3.8	5.4	6.0	3.3	2.2	2.7	21.7
50歳代 (n=183)	63.4	47.5	37.7	39.9	27.9	20.8	19.7	7.7	5.5	6.0	11.5	2.2	3.8	3.8	13.7
60歳代 (n=197)	71.6	50.8	31.5	42.6	32.0	19.8	15.2	7.1	6.6	4.6	1.5	3.0	2.5	2.0	11.2
70歳代 (n=256)	65.6	48.0	48.8	32.8	28.1	16.0	19.5	9.0	6.6	4.7	2.0	2.7	0.4	0.4	13.3
80歳以上 (n=185)	62.7	40.0	54.1	22.2	14.1	9.7	16.2	3.2	2.2	0.5	0.5	0.5	2.7	1.1	16.2

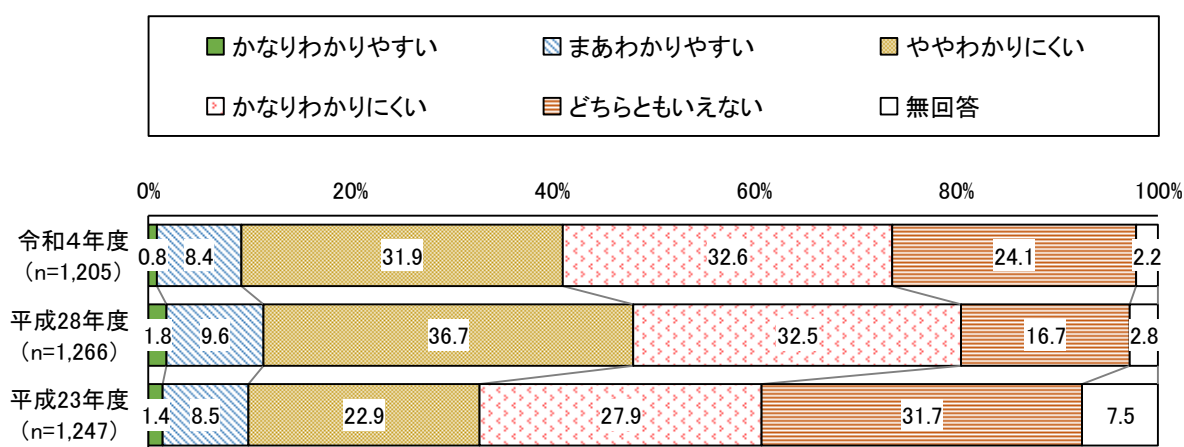
Ⅲ 調査結果

(2)福祉サービスや制度の仕組みのわかりやすさ

問25 あなたにとって、福祉サービスや制度の仕組みはわかりやすいですか。(○は1つ)

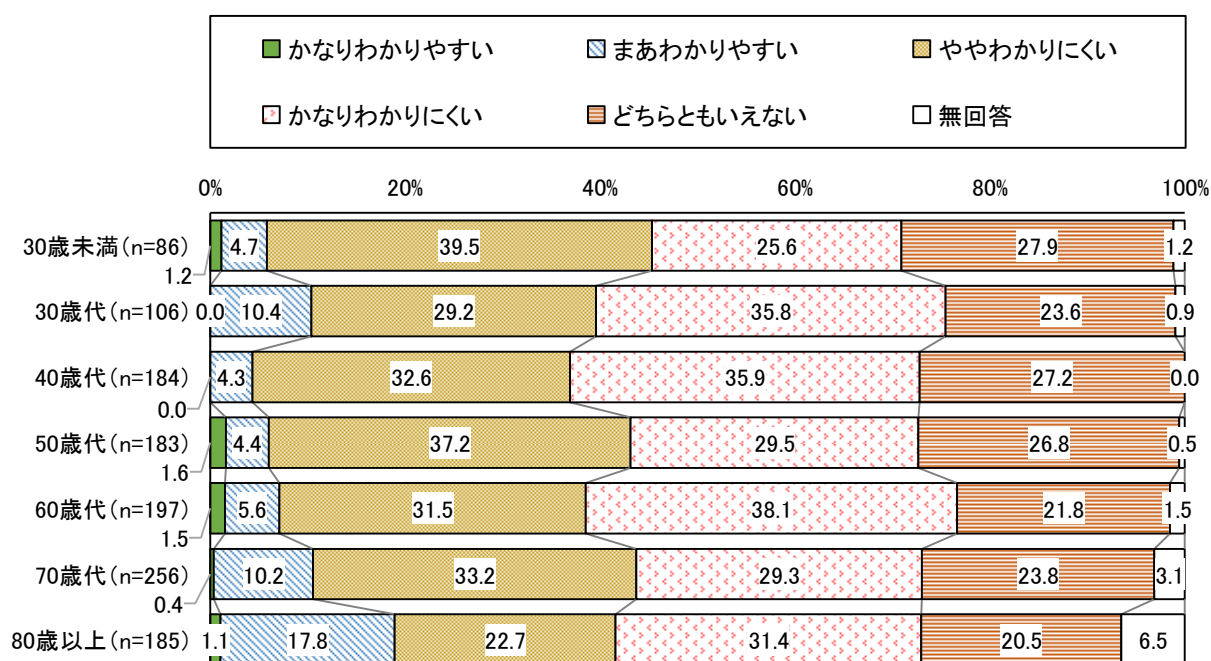
福祉サービスや制度の仕組みは、「かなりわかりにくい」が32.6%で最も多く、以下「ややわかりにくい」が31.9%、「どちらともいえない」が24.1%、「まあわかりやすい」が8.4%、「かなりわかりやすい」が0.8%となっています。

前回の調査と比較すると、「ややわかりにくい」が4.8ポイント減少していますが、依然として半数以上がわかりにくい(かなりわかりにくい+ややわかりにくい)と回答しています。



■年齢別＊福祉サービスや制度の仕組みのわかりやすさ

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「まあわかりやすい」が多くなる傾向がみられますが、すべての年齢で半数以上がわかりにくい(かなりわかりにくい+ややわかりにくい)と回答しています。

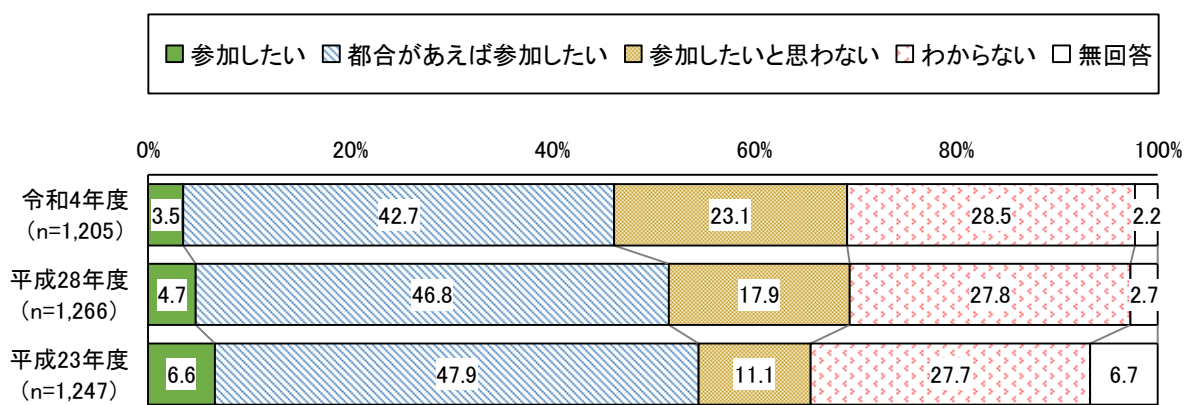


(3)福祉に関する講習や説明会への参加希望

問26 あなたは、今後福祉に関する講習や説明会などに参加したいと思いますか。(○は1つ)

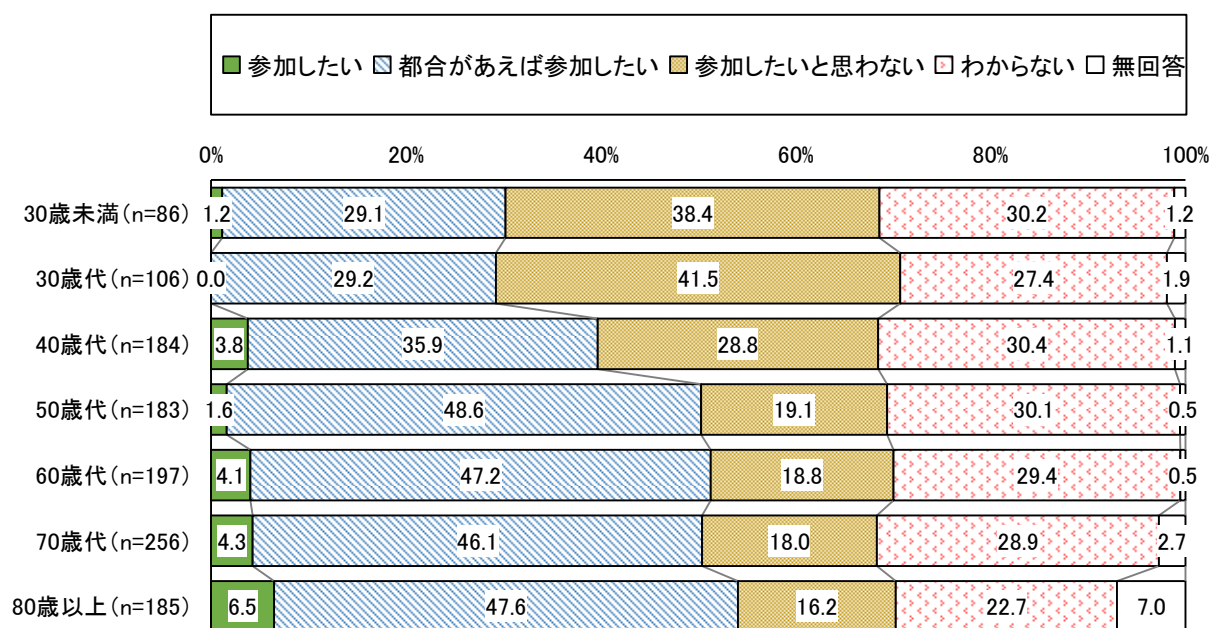
「都合があれば参加したい」が42.7%で最も多く、以下「わからない」が28.5%、「参加したいと思わない」が23.1%、「参加したい」が3.5%となっています。

これまでの調査と比較すると、参加希望は少なくなっており、前回の調査からは、「参加したいと思わない」が5.2ポイント増加、前々回の調査からは12.0ポイント増加しています。



■年齢別＊福祉に関する講習や説明会への参加希望

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「参加したいと思わない」が少なくなり、「参加したい」が多くなる傾向がみられます。

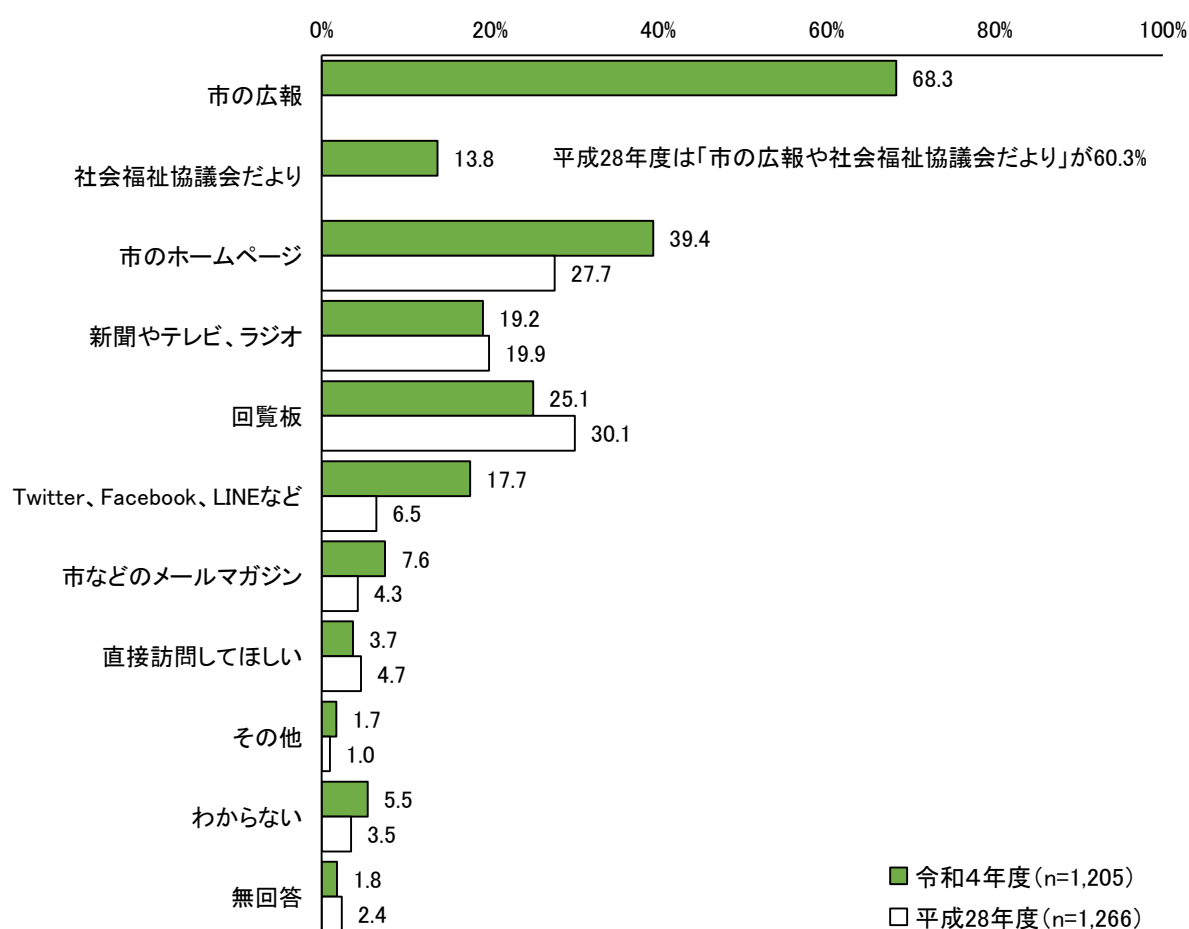


(4)希望する福祉の情報の入手手段

問27 あなたは、福祉の情報をどのように得たいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

希望する福祉の情報の入手手段は、「市の広報」が68.3%で最も多く、以下「市のホームページ」が39.4%、「回覧板」が25.1%、「新聞やテレビ、ラジオ」が19.2%、「Twitter、Facebook、LINEなど」が17.7%、「社会福祉協議会だより」が13.8%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「市のホームページ」が11.7ポイント増加、「Twitter、Facebook、LINEなど」が11.2ポイント増加しています。



■年齢別＊経年比較＊希望する福祉の情報の入手手段

年齢別にみると、40歳以上では、「市の広報」が最も多く、特に70歳代では82.4%を占めています。30歳未満では、「Twitter、Facebook、LINEなど」が46.5%で最も多く、同項目は年齢が低いほど割合が高くなっています。「市のホームページ」も同様の傾向がみられ、30歳代から50歳代にかけては過半数を占めています。一方で、「回覧板」や「新聞やテレビ、ラジオ」、「社会福祉協議会だより」は年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。

経年比較をみると、「市のホームページ」と「Twitter、Facebook、LINEなど」はすべての年齢で増加しています。一方で、「新聞やテレビ、ラジオ」は60歳代より下の年齢で減少しています。

単位：％

		市の広報	社会福祉協議会だより	市のホームページ	回覧板	新聞やテレビ、ラジオ	Twitter、Facebook、LINEなど	市などのメールマガジン	直接訪問してほしい	その他	わからない	無回答
全体	令和4年度 (n=1,205)	68.3	13.8	39.4	25.1	19.2	17.7	7.6	3.7	1.7	5.5	1.8
	平成28年度 (n=1,266)		60.3	27.7	30.1	19.9	6.5	4.3	4.7	1.0	3.5	2.4
30歳未満	令和4年度 (n=86)	27.9	3.5	43.0	15.1	12.8	46.5	2.3	1.2	8.1	11.6	1.2
	平成28年度 (n=103)		31.1	35.0	18.4	29.1	30.1	4.9	2.9	1.9	4.9	0.0
30歳代	令和4年度 (n=106)	50.9	5.7	53.8	14.2	7.5	36.8	5.7	2.8	5.7	3.8	0.0
	平成28年度 (n=140)		50.0	40.7	22.1	25.7	14.3	6.4	3.6	0.7	2.9	0.0
40歳代	令和4年度 (n=184)	63.6	4.3	50.5	15.8	7.1	27.7	11.4	1.1	0.5	6.5	0.5
	平成28年度 (n=215)		63.3	38.1	26.5	16.7	5.6	6.5	2.8	0.9	2.8	1.4
50歳代	令和4年度 (n=183)	63.9	9.3	51.9	16.9	17.5	23.5	8.2	3.3	2.2	7.1	0.5
	平成28年度 (n=184)		62.0	36.4	22.3	24.5	7.1	6.5	2.2	0.5	2.2	0.5
60歳代	令和4年度 (n=197)	77.7	13.7	47.7	23.4	16.2	12.2	14.2	3.6	0.5	4.1	0.0
	平成28年度 (n=279)		68.1	24.7	34.1	19.4	1.8	3.2	6.5	1.4	2.2	1.8
70歳代	令和4年度 (n=256)	82.4	22.3	25.8	35.5	28.1	4.7	4.3	4.7	0.4	2.7	3.5
	平成28年度 (n=227)		64.8	15.4	41.9	11.9	0.4	1.8	7.9	0.9	4.8	4.4
80歳以上	令和4年度 (n=185)	76.8	24.9	16.8	40.5	33.5	2.2	4.3	7.0	0.5	5.4	5.4
	平成28年度 (n=114)		63.2	4.4	36.0	20.2	0.0	1.8	5.3	0.9	7.0	8.8

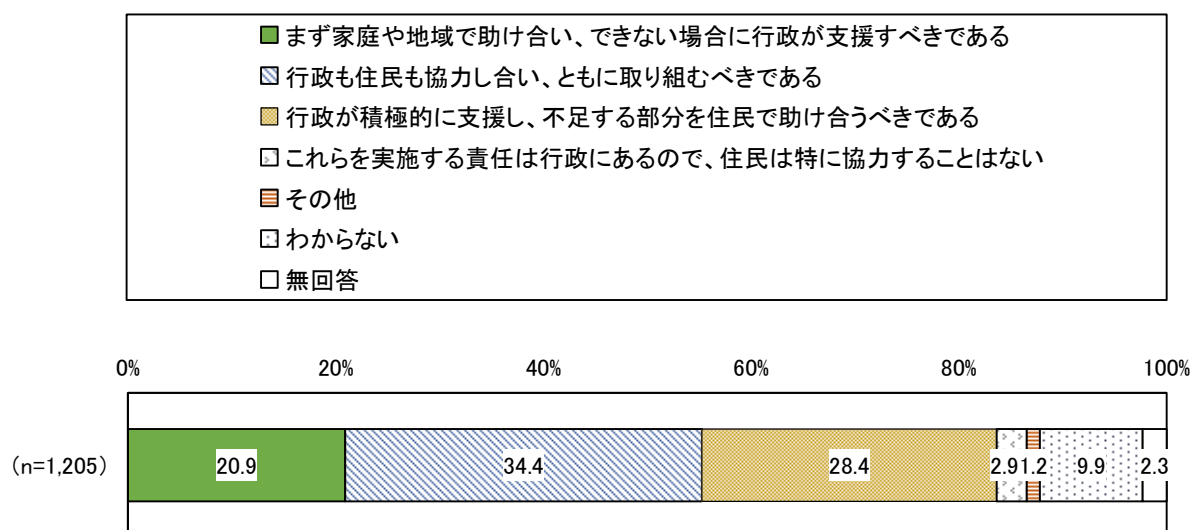
※平成28年度の選択肢は「市の広報や社会福祉協議会だより」

(5)地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係

問28 本市の地域福祉を充実させていくうえで、行政と住民の関係についてあなたの考えに近いものを選んでください。(○は1つ)

地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係は、「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」が34.4%で最も多く、以下「行政が積極的に支援し、不足する部分を住民で助け合うべきである」が28.4%、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである」が20.9%、「これらを実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない」が2.9%となっています。

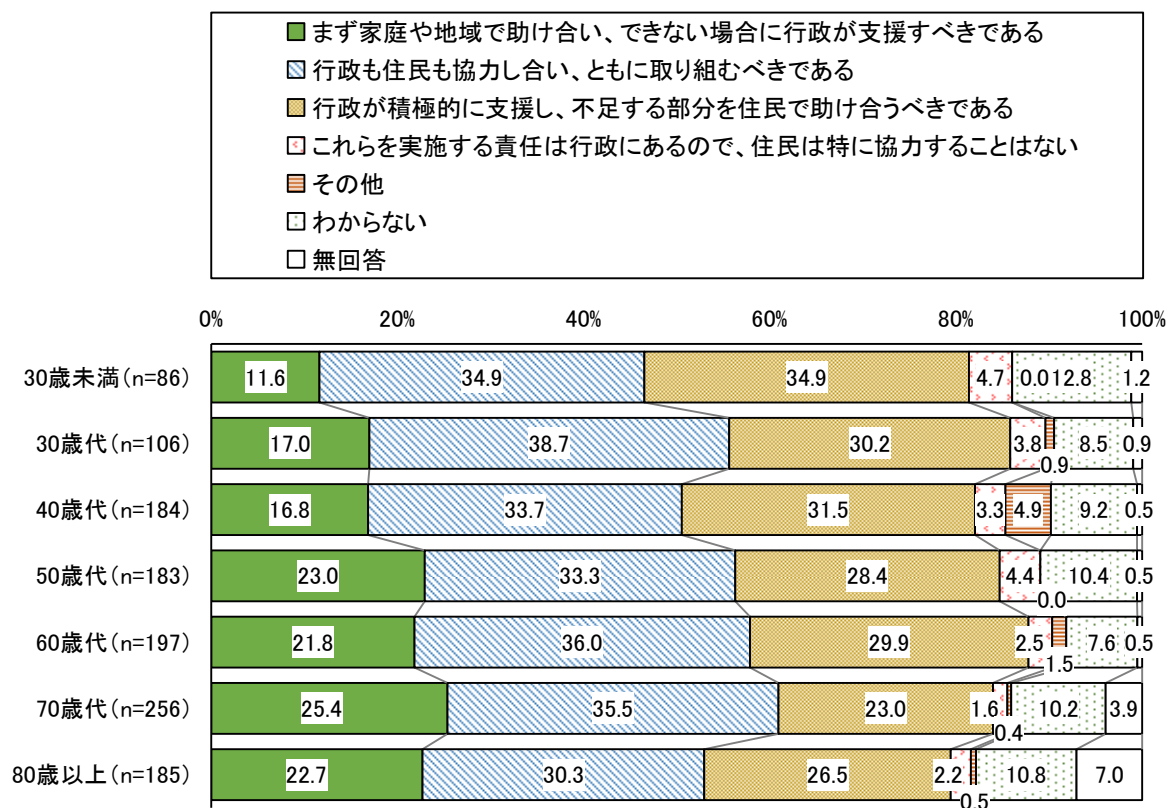
なお、「わからない」は9.9%となっています。



■年齢別*地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係

年齢別にみると、すべての年齢で「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」が最も多くなっています。

30歳未満では、「行政が積極的に支援し、不足する部分を住民で助け合うべきである」が同率で最も多く、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである」は他の年齢より割合が低くなっています。

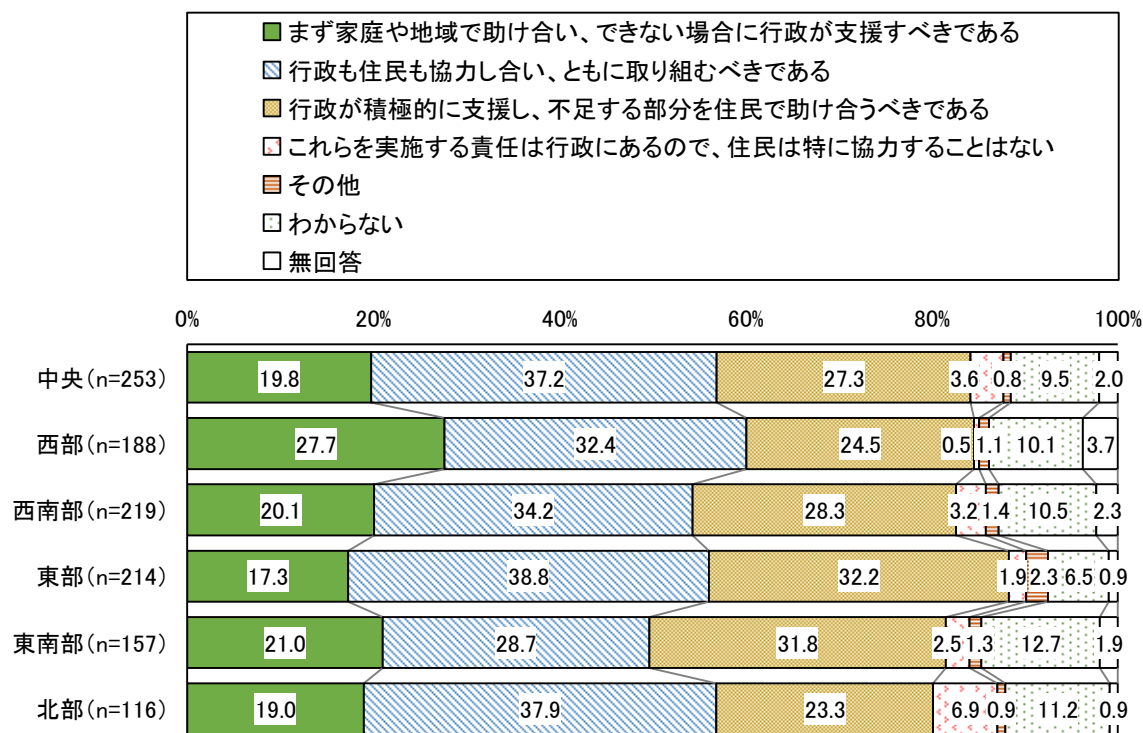


Ⅲ 調査結果

■居住地域別＊地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係

居住地域別にみると、東南部では「行政が積極的に支援し、不足する部分を住民で助け合うべきである」が最も多く、他の地域では「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」が最も多くなっています。

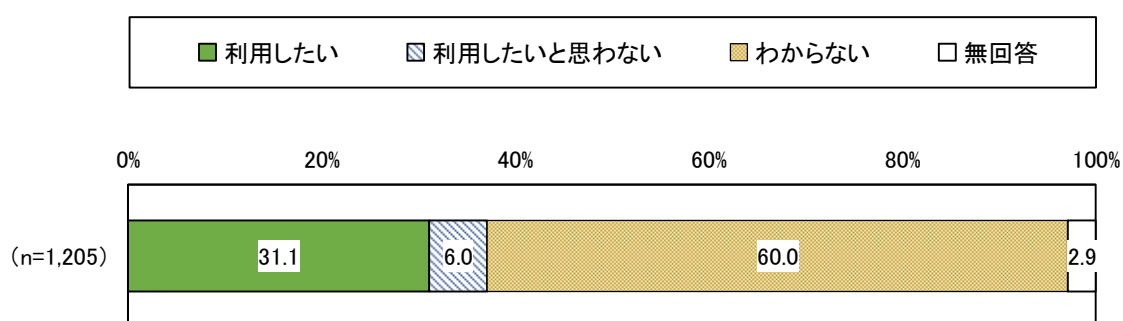
西部では、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである」が他の地域よりやや多くなっています。



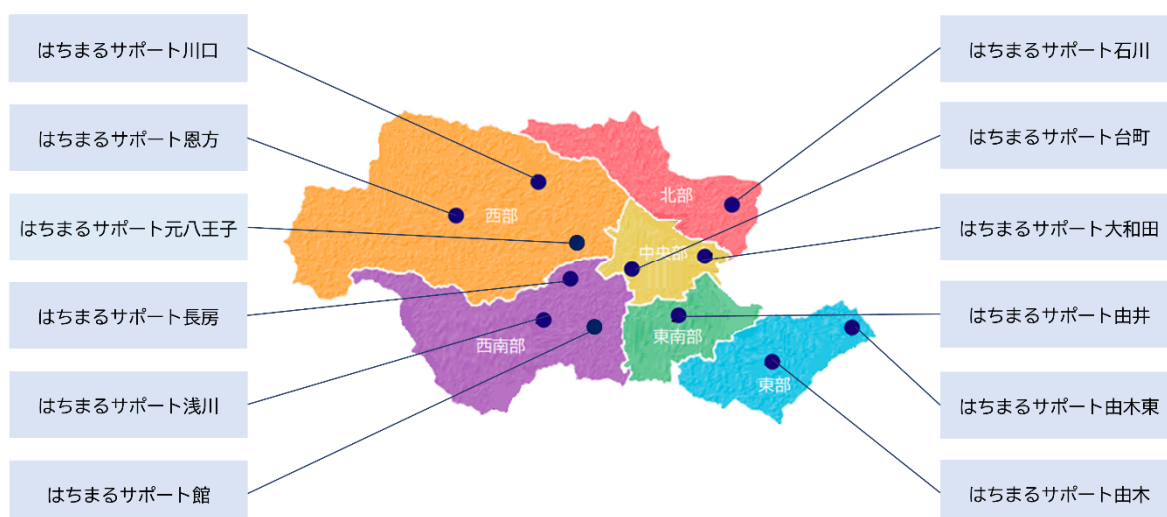
(6)八王子まるとサポートセンターの利用意向

問29 あなたは今後、八王子まるとサポートセンター(5頁参照)を利用したいと思いますか。利用したことがある人も、これからの利用意向を教えてください。(○は1つ)

八王子まるとサポートセンターの利用意向は、「わからない」が60.0%を占めており、「利用したい」は31.1%、「利用したいと思わない」は6.0%となっています。



はちまるサポート 一覧

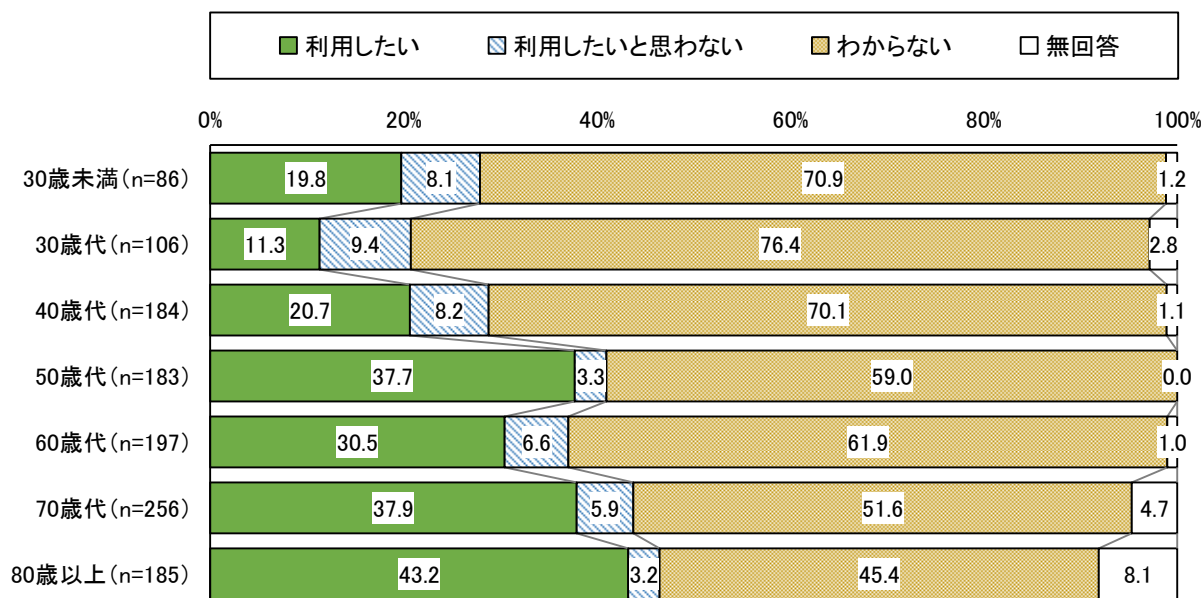


Ⅲ 調査結果

■年齢別＊八王子まるとサポートセンターの利用意向

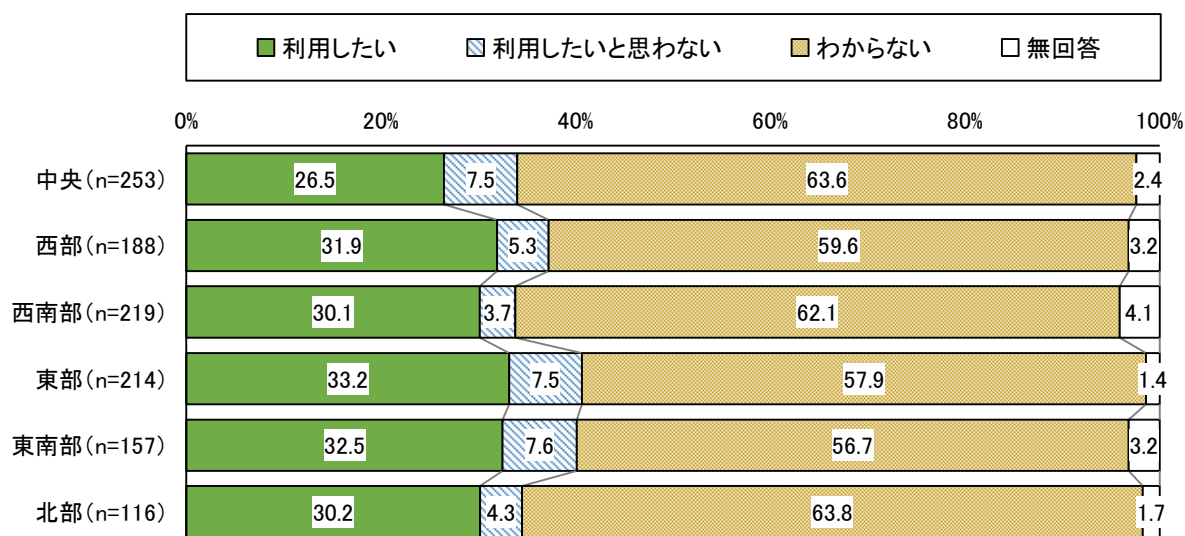
年齢別にみると、すべての年齢で「わからない」が最も多く、年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。

「利用したい」との回答は、80歳以上で最も多く、43.2%となっています。



■居住地域別＊八王子まるとサポートセンターの利用意向

居住地域別にみると、すべての地域で「わからない」が最も多く、いずれも過半数を占めています。地域による大きな差はみられません。

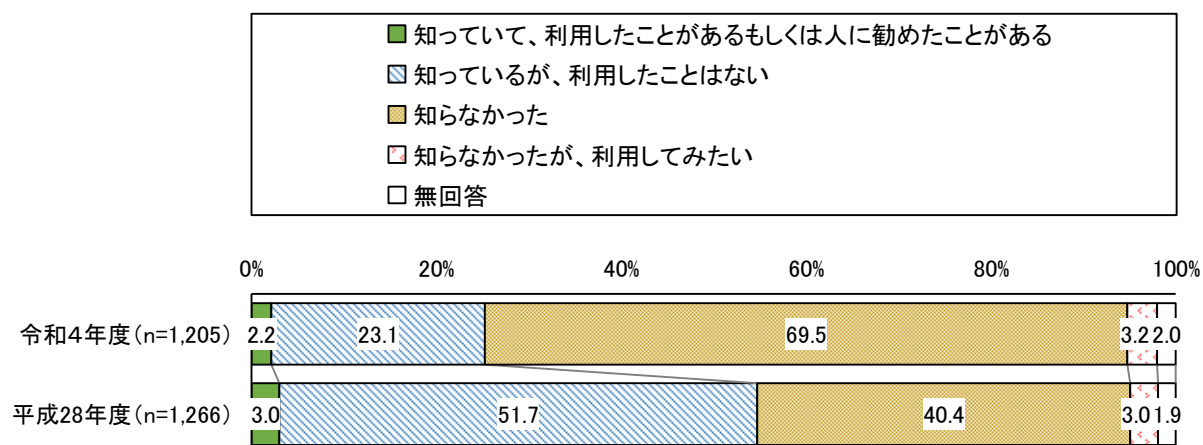


(7)生活自立支援課の相談窓口の認知度

問30 生活にお困りの方への相談窓口を市役所本庁舎の福祉部生活自立支援課に設置していますが、ご存じでしたか。(○は1つ)

生活自立支援課の相談窓口は、「知らなかった」が69.5%を占めており、以下「知っているが、利用したことはない」が23.1%、「知らなかったが、利用してみたい」が3.2%、「知っていて、利用したことがあるもしくは人に勧めたことがある」が2.2%となっています。

前回の調査と比較すると、「知らなかった」が29.1ポイント増加しています。

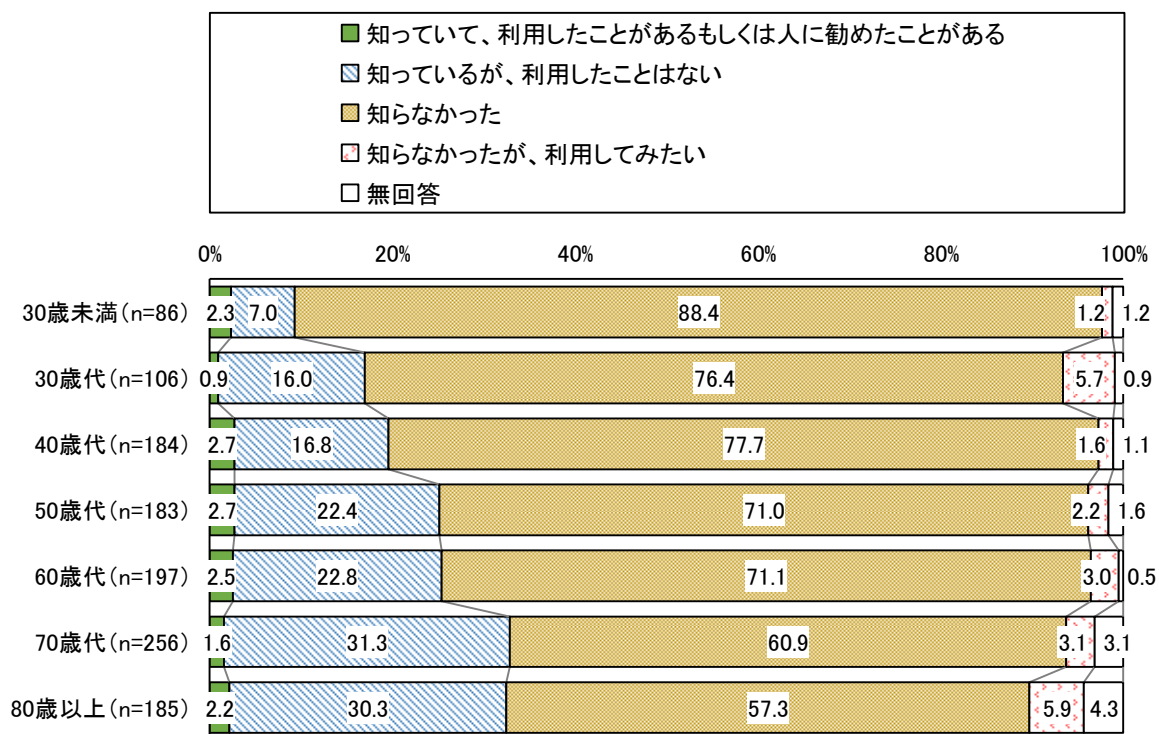


Ⅲ 調査結果

■年齢別＊生活自立支援課の相談窓口の認知度

年齢別にみると、すべての年齢で「知らなかった」が最も多く、いずれも過半数を占めています。

年齢が高くなるほど「知らなかった」が少なくなり、「知っているが、利用したことはない」が多くなる傾向がみられます。

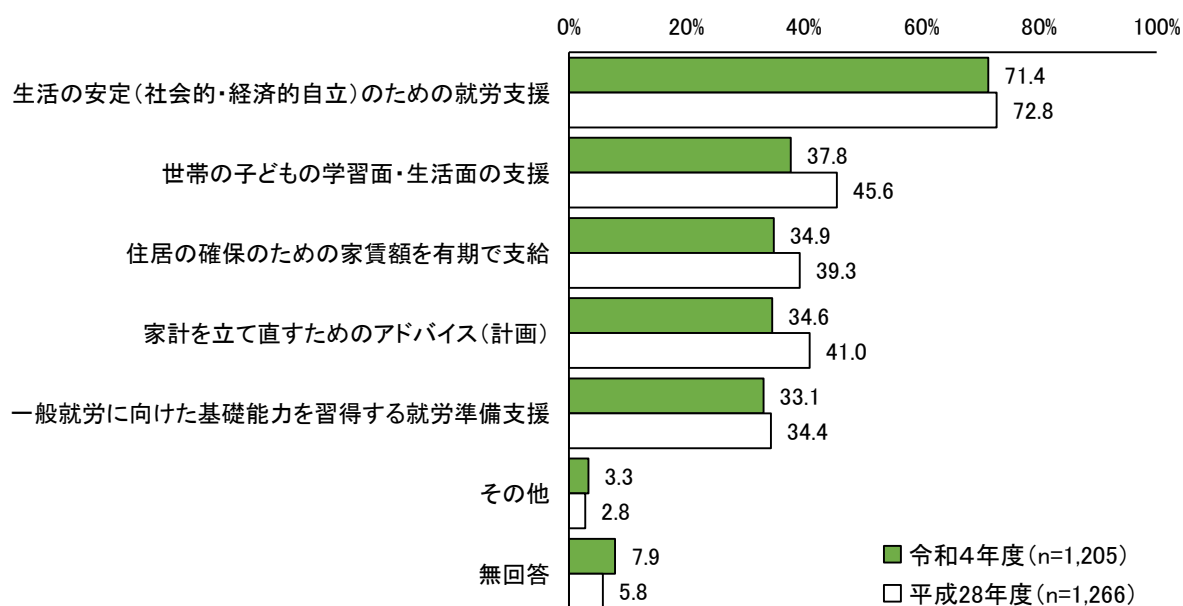


(8)生活困窮者に対して重要な取組

問31 八王子市の生活困窮者自立支援制度では、生活困窮者に対して、次のような取組を実施しています。生活困窮者に対する取組として重要だと思うものはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

生活困窮者に対して重要な取組みは、「生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援」が71.4%を占めており、以下「世帯の子どもの学習面・生活面の支援」が37.8%、「住居の確保のための家賃額を有期で支給」が34.9%、「家計を立て直すためのアドバイス(計画)」が34.6%、「一般就労に向けた基礎能力を習得する就労準備支援」が33.1%となっています。

前回の調査と比較すると、全体的に割合がやや減少していますが、概ね同様の傾向がみられます。



Ⅲ 調査結果

■年齢別＊生活困窮者に対して重要な取組

年齢別にみると、すべての年齢で「生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援」が最も多く、いずれも過半数を占めています。年齢が低いほど多くなる傾向がみられ、30歳代では81.1%を占めています。

「世帯の子どもの学習面・生活面の支援」も同様に、年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。

単位: %

	生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援	世帯の子どもの学習面・生活面の支援	住居の確保のための家賃額を有期で支給	家計を立て直すためのアドバイス(計画)	一般就労に向けた基礎能力を習得する就労準備支援	その他	無回答
全体 (n=1,205)	71.4	37.8	34.9	34.6	33.1	3.3	7.9
30歳未満 (n=86)	68.6	48.8	34.9	24.4	39.5	1.2	4.7
30歳代 (n=106)	81.1	49.1	37.7	34.9	46.2	2.8	0.0
40歳代 (n=184)	77.2	44.0	30.4	33.2	28.3	3.3	1.6
50歳代 (n=183)	76.0	44.8	35.0	42.6	37.7	3.3	4.9
60歳代 (n=197)	77.7	38.1	37.6	36.0	35.5	6.1	1.0
70歳代 (n=256)	69.9	28.9	35.9	29.7	28.1	1.6	12.1
80歳以上 (n=185)	53.0	24.9	33.0	37.3	27.6	4.3	23.8

6 自由記述

問32 地域福祉について、あなたが考えていることを、ご自由にお書きください。

寄せられた主な意見を以下に記載します。

(1)生活環境について(49 件)

- 坂が多いので高齢者や足腰が弱い人からしたら暮らしにくいと思いました。(19歳、東部、由木)
- 高齢の両親の介護をして初めて介護と仕事の両立が困難になった。会社の理解がないので、今後退職せざるを得ない状況になった時、生活していけるのか、再就職できるのか、施設に両親を預けるにも両親の年金が少なく自分も援助できる余裕もないかもしれないと思うと不安で仕方ない。(49歳、北部、石川)
- 高齢者が住みやすい地域づくりだけでなく、子どもが安心して暮らせる環境作りが大切。子ども達が公園で遊んでいる姿を見ることがほとんどなく、公園が暗く防犯面で不安がある。地域に子どもの声があまり聞こえない。子どもが安心して遊べて学べる環境が地域の活性化や治安の安定に繋がると思う。(54歳、東部、由木東)
- 隣近所との付き合いがほとんどなく、何かあってもわからないと思う事に不安を感じる。(63歳、西南部、横山)
- 高齢者だけの世帯が増えて、交通の便も良くなり、バス停までも遠い。店は近くなり、買い物などその他の用事をするにも困るとの話をよく聞く。今後の心配。(64歳、西部、川口)
- 今住んでいるところは高齢者が多くなり、これから様々な支援が必要な人が出てくるのではないかと思います。自治会館のような場所もない、自治活動も活発でないで住民同士の交流も少ないと思います。コロナの影響で余計に孤立が進んでいるような気がします。もっと自由に交流できる場所があるとよいと思っています。(70歳、東部、南大沢)
- コミュニティバスを地域住民の移動手段としてバスの通らないところへ運転してもらいたい。高齢者は車の運転が難しくなるのでなるべく増やしてもらいたい。(77歳、北部、石川)
- 高齢者が多くなっていて地域によっては買い物が大変です。はちバスの運行の見直しなどを考えてほしい。(86歳、東部、由木)

(2)地域活動について(39 件)

- コロナの影響もあり、地域の方との交流も減っている中、私達のような若者が積極的にコミュニケーションを取り、手助けやサポートなど出来ることをしていかないと考えた。市内にもまだまだ課題はあると思う。行政と市民がより良い市にしていけるためにも互いに協力しやっていくことを一若者としてやってほしい。(20歳、中央、本庁)
- 近隣住民との関わりが希薄で中々難しいと思う。日中仕事をしていると地域や行政との関わりが持てない。地域の中で安心して暮らしていくために必要なことだとは思っているので、相談窓口の周知は引き続き積極的にしていただきたいです。(30歳、中央、本庁)
- こちらに引っ越してきて町会に入り班長を経験しました。回覧、集金、祭りの手伝い、地域の催し物の手伝い等、どれもが一般化されておらずデータ管理もされていない状態でした。このような状態で災害等がおこり、自治会単位で避難所、救援物資の分配をされても機能するのか疑問に思うところです。一市民として考えていきたいと思いますので、市としても考えていただきたいです。(42歳、西部、恩方)
- 地域での見守りや助け合いが重要であることもわかっているが、今の自身の生活の中で他者に手を貸せない状況である。災害時などでは協力し合っていこうと思うが、実際に直面しないとわからないことだらけなので、何をどうしていけばいいのかわからない。自分自身も年を重ねる中住みやすい八王子市であるために何かあれば協力していきたい気持ちはある。(49歳、中央、本庁)
- 近隣の住民と普段からコミュニケーションを取りたいが、自分から話しかけるわけにもいかず、きっかけがない。地域活動を促すきっかけとなるような行政による地域交流を促進する事業に期待したい。(51歳、西南部、館)
- 町会の行事などにはなるべく協力して参加するようにしていますが、家庭の中での世代交代もしっかりとしていかなければと最近感じるようになりました。子ども達は仕事や子育てで忙しいと親がやりすぎてしまう。子どもの代への引き継ぎが遅くなって関心がなくなってしまう。上手く巻き込んでいければいいなと思います。(62歳、西部、元八王子)
- 同じ地域に住んでいる人に相談するのは嫌だ。年齢、家庭の事情によって出かけて相談は出来ない。ので訪問をしてほしい。その時が近所の人ではなく他の地域の人でお願いしたい。事前に訪問する人がどの地域の人かわかると相談がスムーズにいけるのでお願いします。(73歳、西部、元八王子)
- コロナの影響で外出する機会が少なくなり、自治会活動等が出来ない状態です。おさまってからの復活もどのような形態でやるのか不安です。2年以上活動をやらないと自治会等はいらないと言う人も出てきます。これらのことについてアドバイスが必要です。(81歳、北部、石川)

(3)地域福祉について(35 件)

- この八王子には沢山の人が暮らしていますが、一人一人が満足できたと言える生活ができているとは思えません。ですが八王子市で行われている福祉活動はきっと一人でも多くの人を幸せにしてくれると思っています。今後も八王子市を応援します。(19歳、西南部、館)
- 地域福祉について義務教育のときにもっと教育すべきだと思う。就労支援、就労準備支援などもっと専門的な教育者を増やして充実させてより良い社会に向けて共に進んでいけたらと思う。(34歳、中央、本庁)
- 一時的な金銭の支援ではなく、また、対処療法的に支援を行うのではなく、未来を考えたものにしていくべきだと思います。もちろん緊急の場合は除きます。一人一人が自立をしっかりと行える社会でなくては、そもそも地域福祉が成り立たないと思うので、教育を重視したものにすることが地域福祉の充実には不可欠だと思っています。(45歳、東南部、北野)
- 日々の生活で余裕がなく地域福祉について考えることがありませんでした。税金に追われて税金を支払うためにお金を工面する毎日で、コロナ禍で希薄となった友人と会う機会もなく、孤独を感じている人が多いのではないのでしょうか。そんな時地域福祉が頼れる存在となればもっと活用したり知ろうと思うのではないのでしょうか。私も含めまず知らないし、知ろうと思っていないのが事実だと思います。(51歳、中央、本庁)
- 福祉についてはあまりというかほとんど関心がなかったが、孫の子育てや介護などでこれから重要になってくるので無関心ではいけないと思う。(63歳、中央、本庁)
- 現在は趣味で忙しくしていますが、年と共に健康面も心配になります。これからは地域福祉について知識を広げていきたいです。(78歳、西部、元八王子)
- 八王子に住んで5年、福祉のことはわからないことがたくさんあると思いました。福祉のことは相談したいが脚が重くて我慢することが多いです。気軽に相談できるよう、自分も気持ちを変えてこれからお世話になろうと思いました。八王子まるごとサポートセンターが近くにあるのは知りませんでした。(82歳、西南部、横山)

(4)福祉サービスについて(34 件)

- 外国人でもわかりやすい福祉の制度があればありがたいです。(22歳、東南部、北野)
- 今年子どもが生まれ、初めての子育てに日々奮闘しています。おむつ、離乳食、おもちゃ、月齢によって必要な様々なアイテム、洋服等、想像以上にお金がかかります。児童手当のような支給があればあるほど助かります。子育て世帯への手厚いサポートをお願いします。(30歳、東南部、由井)
- 各年齢の検診、市で行っているリトミックや子育てイベントなどに色々参加させていただきました。しかし、幼稚園、保育園の訪問や放課後デイサービスの数など、障害児に支援が行き届かなかったり、時間がかかったりするように感じます。八王子は療育センターができたこともあり、そうしたサポートを増やせば子どもを持つ世代が住みやすくなるのではないかと思います。(42歳、西南部、横山)
- 相談できるところがあるのは助かると思いますが、相談できる時間や曜日、相談しても言われることが同じということがなければ、もっと活用されるのではないかと思います。また、相談に行く際の子どもの預け先などの問題がいつもありました。そういうところを少しでも解決できればよいのではないのでしょうか。(42歳、東南部、由井)
- 今は仕事もあり不自由はないが、老後のためにも福祉の充実、多様な取り組みを末永くお願いしたい。(51歳、北部、石川)
- 福祉サービスのシステムを簡略化して、誰でも利用しやすいかたちにしてほしい。組織を増やすだけではますます使い勝手が悪くなると考えます。(68歳、中央、本庁)
- 自立している高齢者は自力で色々な施設の利用ができますが、車椅子、身体障がい者の人々は他力本願になり身内が近くにいれば大丈夫ですが、そうでない人は何もできないので孤立感です。市内にも福祉施設があれば安心です。(71歳、北部、石川)
- 八王子まるごとサポートセンターについて全く知りませんでした。今回のアンケートで福祉について少し関心を持っていこうと思います。高齢化社会となり身近に福祉を考える機会が増すと思います。老夫婦の世帯が多くなり近所との関わりが重要になってくることでしょう。(73歳、中央、本庁)
- 八王子まるごとサポートセンターについて、11エリア毎にどの町が対象範囲なのか説明してほしい。地域福祉とはまずどこへ行って相談するのか知ってからだと思います。(77歳、中央、本庁)
- 高齢者あんしん相談センターの方がとても親切なので安心です。何かあれば相談できると聞きましたので相談したいと思いました。はちまるサポートを利用します。(80歳、西部、元八王子)

(5)行政全般について(32 件)

- 生活困窮者等の制度について窓口相談に行っても少しの差で該当しないため制度が利用できないことが多い。そういう方に向けての制度が何も無い。収入と税が見合っておらず税金を払うために借金をしなければならないことがある実態を把握し対策等を考えてほしいと思う。(34歳、西南部、館)
- 近所付き合いがない現在では、市でのサポートまたはサポートできる団体がより身近な存在になってほしいと思う。市民が探すのではなく日常から近いところにいてもらいたい。そのようなことに市民税を使っていただきたいと思う。(38歳、東南部、由井)
- 市民が積極的に情報収集することも必要だが、市からも本当に困っている人を助けるよう動くことも大切だと思う。支援を申請するのをためらう人もいると思うので市が市民の生活状況に合わせて支援を行って欲しい。(45歳、東部、南大沢)
- 高齢者の親を高齢の子どもが世話をする世の中になってきています。そんな中で自治会参加や他人の事等、関われない人が増えてきています。地域住民での助け合いというきれいな事は言えない状況です。八王子市が責任を持って地域福祉を行う体制や仕組みを作ってください。(63歳、中央、本庁)
- 地域の関係が希薄になりつつある中で、行政が積極的かつ主体的にリードして支援していただけると助かると思います。(66歳、東部、南大沢)
- 福祉を国語辞典で引くと、幸福と出てくる。幸福の定義は難しい。人によって幸福の基準が異なるから。その点で、第3期八王子市地域福祉計画は素晴らしいと思う。一人でも多くの八王子市民がこの計画を知り、理解し協力することが重要だと思う。広報の充実を。そして計画が実行されることを望む。(74歳、東部、南大沢)
- 助け合いが中心のように語られることが多い。私では担えなかつたり負担が大き過ぎることも多い。公としての基本的な責任体制をわかりやすく示してほしい。私の小さな力でも出せるように。(76歳、西南部、横山)
- 八王子市は地域範囲が広いので、行政の行動が市民に細部まで届けられないと思われます。市民センター等に積極的に細部について市民に届くよう民間も含めてより一層のご努力を望みます。(88歳)

(6)情報について(25 件)

- 市内での活動を広報誌で読んでもどうせこっちはないしなと思うってしまうのが現状です。はちまるサポートも今回初めて知りました。調べ不足ですみません。地域にもっと目を向けて生活していきたいと感じました。LINEやTwitterなどのSNSをもっと活用すれば地域福祉についてもっと知りたくなるかもしれません。(28歳、東部、南大沢)
- 八王子には色々サポートをしていただける制度や取組がありそうなのはわかりますが、どんな時にどの制度を使えばいいのかわかりません。まずはホームページなどを工夫してもっと具体的にわかりやすく、いつ誰に相談してどの制度を使えばいいのか市民が情報を取りやすくしてほしいです。(36歳、西南部、横山)
- 住んでいる地域のことに知らないことが多いなと思いました。災害時の避難場所も地域の民生委員さんのことも知りませんでした。今まで困ったことがあればネットで検索すれば市役所や社会福祉協議会に繋がってお世話になったのでSNSの拡散などがより多くの人に地域福祉を知るきっかけになるのかなと思いました。(43歳、中央、本庁)
- 八王子が東京都で一番住みやすい市にしたいです。有益な情報をキャッチできないと思うので、自らも努力すると共に色々な機会で発信、共有していただけるとありがたいです。(48歳、西南部、浅川)
- 自分もいつか行政のお世話になることがあるかもしれませんが、現状はまだピンとこない部分があります。ただ、年齢を重ね、近い将来お世話になることがあるかもしれないので、情報はすぐに得られるような体制を作っていければと思っています。(60歳、中央、本庁)
- 私が住んでいるところは自治会がありません。回覧板もないので地域の活動や行事も全くわかりません。情報が入ってこないのので市からの広報やホームページで確認するしかありません。もっと情報が知りたいです。(62歳、西南部、館)
- 自分自身が八王子市の地域福祉についてほとんど知らないことを認識しました。すべてのことについて言えることですが、何かを改善するために若者の考えや力が必要であるにもかかわらず、今の社会はほとんど若者の力を活用しようと考えていないし、実際に取り入れようとしもないのが現実です。つまり、若者の力を行政がどう取り込めるかを考えてもらいたいです。八王子は祭りが比較的盛んですが、その企画に中学生や高校生、大学生や20代などの計画を採用することからはじめたら将来的に注目される八王子市になると思うのですが。(78歳、中央、本庁)
- 民生委員の活動内容をもっとPRして、相談しやすい環境をつくって広報で知らせてほしい。(90歳、西部、元八王子)

(7)まちづくりについて(24 件)

- 高齢化が進むにあたって、空き家問題や孤独死を防ぐために地域を見守るような体制づくりが重要だと考える。また子育て世代が安心して子育てができるような金銭的サポートや相談窓口などを強化していくことが大切だと思う。(24歳、中央、本庁)
- 大規模商業施設の誘致や交通インフラの拡大は八王子の魅力だが、住民に対する支援の施策は改善の余地があると思われる。都心に近いメリットを活かせていない。(34歳、東南部、北野)
- 学校の授業や行事ごとのように人が学んで楽しめる仕組み作りがあれば色々参加したいと思いました。(41歳、西部、元八王子)
- 私の住む地域に障害者の方が少なからずいるはずだが、あまり見かけたことがなく気になる。自分の仕事が福祉に関わるので。子育てサポートや高齢者サポートは割りと明るいイメージだが、障害者サポートは表に出づらい。もっと色々な方がいることを当たり前の世の中になってほしい。(52歳、西部、恩方)
- 車椅子の方がどんどん気軽にまちに出られるような歩道のつくりになるといい。介助犬が全ての店に入れるようになるといい。障害のある方もない方と平等に同じ場所、同じ空間にいられることが当たり前の世の中がステキだと思います。(53歳、東部、南大沢)
- 困窮して困っていても相談しにくいなどSOSが出せない人もいると思います。地域との繋がりが大切だと思っている。接触がしにくい、できない、拒否などの人達もいると思うので、地域住民が関心を持てるシステムづくりが必要だと思います。(58歳、西部、元八王子)
- 車椅子の人がバスに乗る時、何度か見たことがあるが周りの人が手伝ってあげればいいのに、バスの運転手が一人でお世話をしているのを見た時に悲しくなる。あとバスの運転手がバス停で待っている車椅子の人をスルーしてバスを止めなかった事で周りの人がとても嫌な思いをしたことなど色々聞く。もっと障害のある人に思いやりを。(67歳、北部、加住)
- 大きくは社会で小さくは家庭内でも孤立しない支援ができる仕組みができたらいい。コロナ禍で人が集うことが減り、人の輪が取りにくくなったので、変わっていくことを期待している。(70歳、西部、元八王子)
- 年齢を重ねていくにつれて先々のこと(健康も生活費も)の不安は増えていきます。高齢者に優しいまちづくりができていますように。そして情報がより早くより広く伝わっていきえますように願っています。今回はちまるサポートの存在を知って安心しました。(70歳、東南部、北野)

(8)安全・安心について(17 件)

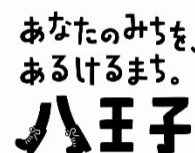
- 住宅地に街灯が少なく防犯面で不安。増設してほしい。(40歳、北部、石川)
- 街灯の少ない暗い道などの改善を希望します。(57歳、東部、南大沢)
- 防災対策として自助、共助、公助が大切だと言われています。特に共助について最近不安を感じています。自身も含めて隣近所の高齢化が進み、中には自宅にこもり歩行すら大変な方もいて希薄な関係になっています。行政や町内会等で年に何回か避難訓練をやってほしいと思います。(67歳、中央、本庁)
- 将来高齢者が多くなるため安心して暮らせるようにしていただきたいです。(74歳、西南部、浅川)
- 安心して暮らせる取組みをお願いします。子ども食堂などを充実してほしいです。(74歳、西南部、横山)
- 本当に困っている人に支援が届くような仕組みづくりが必要だと思います。SOSを受け止めてくれる場所、人が大事だと思います。(80歳、西南部、浅川)

(9)その他(30 件)

- 県外から引っ越してきたばかりで今後この家で生涯過ごしていきたいので色々勉強していきたいです。(57歳、東部、由木東)
- 老化は避けられないことです。まずは自分自身が迷惑をかけずにしっかりと頭、足腰を鍛えたいと思います。計画を立て、無駄な出費を控えたい。その先はどうしようもなくなった折には家族、病院等に相談して助けていただきたいです。そのために予備知識が必要だと思います。(71歳、西部、恩方)
- 健康に恵まれない方、色々な方がいます。行政、市民が知識を絞って助け合いましょう。(81歳、東部、由木東)
- 住み馴れた地域に高齢になるまで住み続けられたことを幸せに思います。今後大きな災害が起こらないことを願うのみです。(89歳、西南部、横山)

IV 調査票

アンケート調査へのご協力をお願い



市民の皆さまにおかれましては、日頃より市政に関してご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本市では「第3期八王子市地域福祉計画（平成30～令和5年度）」を策定し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりに向け、取組を進めています。

本調査は、皆様から「地域福祉」に関するお考えやご意見をお寄せいただくことで、令和6年度からの新たな計画「第4期八王子市地域福祉計画」策定の貴重な資料にさせていただくとともに、本市の地域福祉推進に有効活用させていただくために実施するものです。

今回の調査では、市内在住の18歳以上の方の中から無作為に3,000人を抽出致しました。ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理し、個々の回答内容が他に漏れたり、統計の目的以外に使用することは一切ありません。

大変お忙しい中恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

令和4年10月

八王子市長 石森 孝志

ご記入にあたってのお願い

- あて名のご本人がお答えいただきますようお願い致します。回答が難しい場合は、ご本人に代われる方（家族等）が、ご本人のことをお答えください。
- 回答は「(○は1つ)」、「(あてはまるものすべてに○)」などの説明に従って、該当する番号に○印をつけてください。
- 回答が「その他」の場合は、() 内に内容を具体的にご記入ください。
- 回答者が限定されている質問もあります。質問中の説明に従ってお進みください。
- 答えたくない内容については、無理にお答えいただく必要はありません。

★アンケートはWEB（パソコンやスマホ）でご回答いただくこともできます★

アンケートフォームには、右のQRコード又は下のURLからアクセスできます。WEBでご回答の場合には、本調査票での回答・返送はご遠慮ください。

URL：<https://enquete.cc/q/hachioji-welfare2022>



※記入された調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて

令和4年11月14日（月）までに投函してください。

《調査に関するお問い合わせ先》【月曜日～金曜日 午前8時半～午後5時】

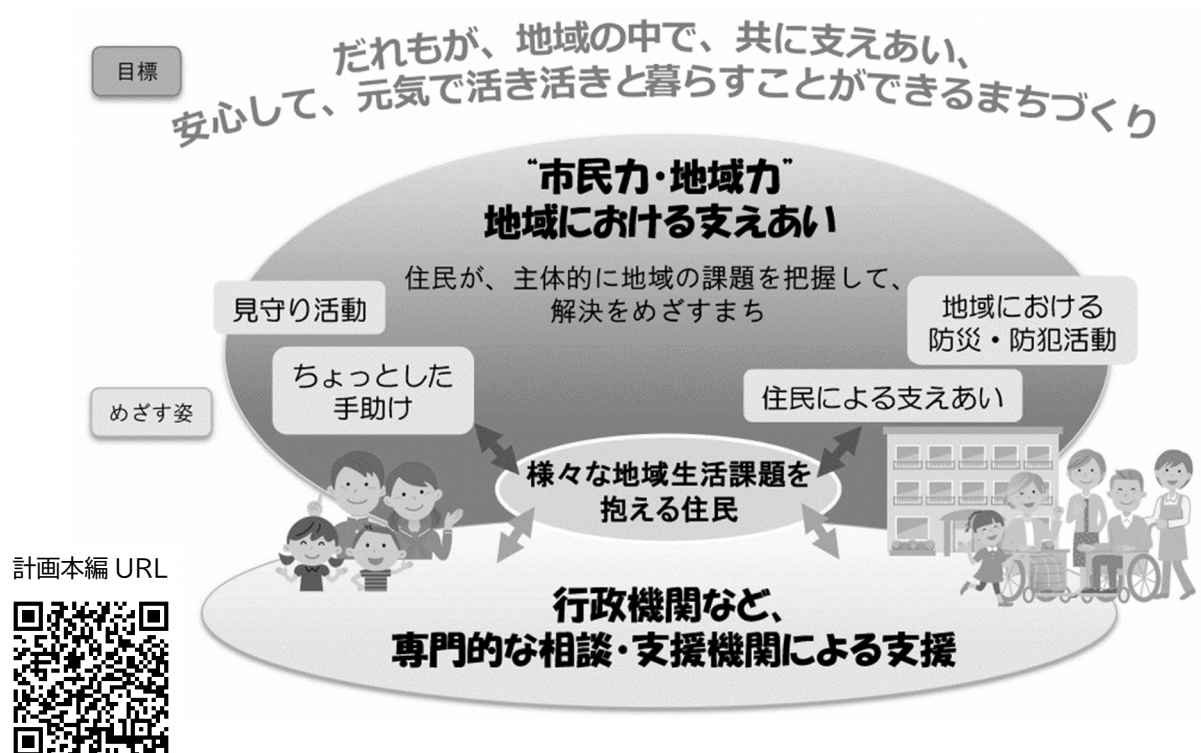
八王子市 福祉部福祉政策課

電話 042-620-7240（直通） FAX 042-628-2477

第3期八王子市地域福祉計画の基本的な考え方

本市では平成30年3月に「第3期八王子市地域福祉計画」を策定し、住み慣れた地域で個人が尊重され、生き生きと暮らせるよう共に助けあえる地域づくりを進めるという基本的な考えのもと、「だれもが、地域の中で、共に支えあい、安心して、元気で生き生きと暮らすことができるまちづくり」を目標に、取組を進めています。

なお、計画では、「地域の課題を住民自ら把握し、主体的に解決を図るという考え方を基本に、市民力・地域力、行政による支援、民間事業者による支援の活用をあわせた重層的な協働の取組」を地域福祉と定めており、地域福祉の実現には、「支援を必要とする人が、必要な支援を受けることのできる体制を充実することが重要」としています。



資料：第3期八王子市地域福祉計画

地域福祉を推進していくためには、地域のことやふだんの生活課題などをよくご存じの皆さまのご参加とご協力が必要です。

地域福祉の取組の一環として、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いします。

はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます

問1 あなたの年齢はおいくつですか。(記入)

() 歲

問2 あなたは八王子市に住まわれて何年ですか。(記入)

() 年

問3 あなたのお住まいの町（住所で「八王子市」の次に来るもの）はどちらですか。（記入）

() 町

問4 あなたと一緒に住んでいるのはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

1. ひとり暮らし	2. あなたの配偶者	3. あなたの子ども（ 人）
4. あなたの親	5. あなたの祖父・祖母	6. その他（ ）

問5 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(○は1つ)

1. 持ち家（一戸建て・マンションなど）
2. 住まいを借りている（一戸建て・マンション・アパート・公営住宅など）
3. その他（ ）

問6 あなたの職業は次のうちどれですか。(○は1つ)

1. 正社員・正職員	2. 派遣・契約社員
3. パート・アルバイト（学生を除く）	4. 自営業
5. 学生	6. 家事専従
7. 年金生活で就業していない	8. 就業していない（7以外）
9. その他（ ）	

問7 あなたの世帯の収入について、生活するのに十分な収入を得られていますか。
(○は1つ)

1. 十分に得られている	2. まあ得られている
3. あまり得られていない	4. まったく得られていない
5. わからない	

地域での暮らしについてうかがいます

問8 現在の暮らしやすさについて、どの程度満足していますか。（項目ごとに○は1つ）

	かなり 満足して いる	まあ 満足して いる	どちらと も いえない	やや 不満で ある	かなり 不満で ある
■地域での暮らしについて					
① 隣近所 となりきんじょ などのおつきあい	1	2	3	4	5
② 町会・自治会やボランティアなどの地域活動	1	2	3	4	5
③ 地域の防犯体制	1	2	3	4	5
④ 地域の防災体制	1	2	3	4	5
■公的なサービス等について					
⑤ 高齢者が安心して暮らせる環境	1	2	3	4	5
⑥ 障害者（児）が安心して暮らせる環境	1	2	3	4	5
⑦ 子どもが安心して暮らせる環境	1	2	3	4	5
⑧ 健康に関する相談体制	1	2	3	4	5
⑨ 病院など医療機関の対応	1	2	3	4	5
⑩ 総合的な暮らしやすさ	1	2	3	4	5

問9 あなたの生活において、次の中であてはまるものはありますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 仕事に就いておらず、生活の見通しが立たない 2. 6か月以上、買い物以外で外に出かけていない 3. 家族の介護と育児を両方担っている 4. 高齢である自分が、高齢の家族を介護している 5. 仕事に就かない子どもがいる 6. 経済的に困窮している 7. 移動手段が限られていて、外出が難しい 8. 介護や育児で勉学に集中できない 9. その他（ ） 10. あてはまるものはない

問10 あなたは、日頃、隣近所となりきんじょとどのようなつきあい方をしていますか。(〇は1つ)

1. 困った時には相談したり、助け合ったりする
2. 一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりする
3. たまに立ち話をする
4. 会えばあいさつをかわす
5. つきあいはほとんどない

問11 あなたは今後、隣近所となりきんじょとはどのようなつきあい方を望みますか。(〇は1つ)

1. 困った時には相談したり、助け合ったりしたい
2. 一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりしたい
3. たまには立ち話をしたい
4. 会えばあいさつをかわしたい
5. つきあいはしたくない

問12 新型コロナウイルスによりあなたがもっとも強く感じる影響はどれですか。
(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 失業等による生活困窮 | 2. 他人との関係の希薄化 |
| 3. 自粛要請等による心身への影響 | 4. その他 () |
| 5. 現在は特になし | |

問13 あなたは、毎日の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。
(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 自分や家族の健康に関する事 | 2. 自分や家族の老後のこと |
| 3. 育児・子育てに関する事 | 4. 子どもの教育や将来のこと |
| 5. 家族の介護のこと | 6. 収入や生活費に関する事 |
| 7. 家族間の人間関係のこと | 8. 近所付き合いに関する事 |
| 9. 地域の治安に関する事 | 10. 災害に関する事 |
| 11. 外出や移動に関する事 | 12. その他 () |
| 13. 特になし | |

IV 調査票

問14 あなたに悩みや不安、困り事があるときには、誰に相談していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家族	2. 親戚	3. 友人・知人
4. 近所の人	5. 職場の人	6. 市役所
7. 民生委員・児童委員	8. 社会福祉協議会	
9. 八王子まるとサポートセンター※	10. 町会・自治会の人	
11. 高齢者あんしん相談センター	12. 民間の電話相談	
13. NPO 等の市民活動団体	14. 警察	
15. その他 ()	16. 誰に相談すればよいかわからない	
17. 特に相談しようとは思わない		

問15 近所で悩みや不安、困り事がある世帯があった場合、あなたは誰に相談していますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家族	2. 親戚	3. 友人・知人
4. 近所の人	5. 職場の人	6. 市役所
7. 民生委員・児童委員	8. 社会福祉協議会	
9. 八王子まるとサポートセンター※	10. 町会・自治会の人	
11. 高齢者あんしん相談センター	12. 民間の電話相談	
13. NPO 等の市民活動団体	14. 警察	
15. その他 ()	16. 誰に相談すればよいかわからない	
17. 特に相談しようとは思わない		

※八王子まるとサポートセンター（愛称：はちまるサポート）

エリア	所在地	電話
石川	石川町481 石川事務所内	649-3390
川口	川口町908-1 川口事務所内	652-9116
元八王子	大楽寺町4 19番地1	686-2280
恩方	下恩方町3395 恩方事務所内	659-1107
浅川	高尾町1652-1 浅川市民センター内	629-9444
長房	長房町588 長房ふれあい館内	629-9511
大和田	大和田町5-9-1 大和田市民センター内	649-3228
台町	台町3-20-1 台町市民センター内	649-6955
由井	片倉町702-1 由井市民センター内	683-2111
由木	下柚木2-10-6 由木中央市民センター内	670-9885
由木東	鹿島111-1 由木東事務所内	682-4885

本市では、包括的な相談窓口として、「はちまるサポート」を市内各地に設置しています。地域福祉の専門職であるCSW（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）が、地域で生活していくうえで、どこに相談すればよいかわからない「困りごと」を受け付け、各支援機関と連携をしながら本人や地域の方々と共に問題解決に向けて一緒に考えていきます。

問16 あなたは、地域でおきる生活上の問題に対して、住民相互の協力関係が必要だと思いますか。(〇は1つ)

1. かなり必要だと思う	}	問 16-1 へ
2. まあ必要だと思う		
3. あまり必要だと思わない	}	問 16-2 へ
4. ほとんど必要だと思わない		
5. どちらともいえない		問 17 へ

問 16 で「1. かなり必要だと思う」「2. まあ必要だと思う」に〇をつけた方

問16-1 地域の人たちが協力して、取り組んでいくことが特に必要なことは、どのようなことだと思いますか。(〇は2つまで)

1. 自治会・町内会やボランティアなどの地域活動	
2. 地域の防犯体制づくり	
3. 地域の防災体制づくり	
4. 高齢になっても安心して暮らせる環境づくり	
5. 障害があっても安心して暮らせる環境づくり	
6. 子どもが安心して暮らせる環境づくり	
7. 気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり	
8. 多様な問題を抱える家庭を支援する協力体制づくり	
9. その他 ()	
10. わからない	

問 16 で「3. あまり必要だと思わない」「4. ほとんど必要だと思わない」に〇をつけた方

問16-2 必要ないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 他人とのかかわりをできるだけ持たない暮らしを求めているから	
2. 個々の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから	
3. 住民相互の協力関係にあまり期待していないから	
4. 友人、知人との結びつきがあれば十分であるから	
5. 地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから	
6. その他 ()	
7. わからない	

問17 あなたの地域で誰もが安心して暮らしていくために、必要なことは何だと思われますか。
(○は3つまで)

1. 地域での見守りや助け合い
2. ボランティア・NPO活動の充実や人材の育成
3. 見守りや助け合いなど、小さい頃からの福祉教育の充実
4. 福祉サービスの情報提供の充実
5. 子育て支援の充実
6. 高齢者支援の充実
7. 障害者（児）への支援の充実
8. 地域医療体制の充実
9. 健康づくりや介護予防の充実
10. 生涯学習・生涯スポーツ、生きがいづくり・社会参加の促進
11. 防犯・防災体制の充実
12. 道路や施設のバリアフリー化の推進
13. 福祉サービスの質を評価するための仕組みづくり
14. 福祉施設の整備
15. その他（ ）
16. わからない

地域活動への参加についてうかがいます

問18 あなたは、これまでに地域での活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|-----------|--------|-----------|
| 1. はい | 問 18-1・2へ | 2. いいえ | 問 18-3・4へ |
|-------|-----------|--------|-----------|

問 18で「1. はい」に○をつけた方

問18-1 どういった団体で活動されましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. 町会・自治会 | 2. 学校、PTA、子供会等 |
| 3. シニアクラブ | 4. NPO（民間非営利団体）での活動 |
| 5. その他任意団体（ ） | 6. 個人での活動 |

問 18で「1. はい」に○をつけた方

問18-2 それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 福祉 | 2. 保健・医療 |
| 3. 学術、文化、芸術またはスポーツ | 4. 防災・防犯 |
| 5. 人権擁護・平和推進 | 6. 男女共同参画の促進 |
| 7. 子どもの健全育成 | 8. 消費者の保護 |
| 9. その他（ ） | |

問 18で「2. いいえ」に○をつけた方

問18-3 地域での活動に参加していないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 興味や関心がないから | 2. 機会がないから |
| 3. 時間がないから | 4. 自分の生活で精一杯だから |
| 5. 仕事が忙しくて余裕がないから | 6. やりたい活動がないから |
| 7. 自分の趣味や余暇活動を優先したいから | |
| 8. 現在の活動内容に不満だから | |
| 9. 活動の内容や参加の方法がわからないから | |
| 10. その他（ ） | |
| 11. 特に理由はない | |

問 18で「2. いいえ」に○をつけた方

問18-4 どのような条件や内容であれば、地域活動に参加したいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. 活動情報の提供がある | 2. 身近な場所で活動できる |
| 3. 自由な時間に参加できる | 4. 事前の研修や説明会がある |
| 5. 指導者やリーダーがいる | 6. 特技や知識が活かせる |
| 7. 役員や当番などがない | 8. 身体的な負担が少ない |
| 9. 精神的な負担が少ない | 10. 経済的な負担が少ない |
| 11. その他（ ） | 12. 特にない |

問19 あなたは今後、地域活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 積極的に参加したい | 2. 機会があれば参加したい |
| 3. あまり参加したくない | 4. 参加したくない |
| 5. 参加することができない | |

地域防災についてうかがいます

問20 大規模災害等が発生した時、あなたは誰を頼りにしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家族	2. 親戚	3. 友人・知人
4. 近所の人	5. 職場の人	6. 市の相談窓口
7. 民生委員・児童委員	8. 社会福祉協議会	9. ボランティア
10. かかりつけ医	12. 警察	13. その他
14. いない	15. 必要ない	()

問21 あなたは災害時の避難場所が決まっていますか。(○は1つ)

1. 決まっている	2. 決まっていない
-----------	------------

問22 あなたは避難時の行動について計画を立てていますか。(○は1つ)

1. 立てている	2. 立てていない
----------	-----------

問23 あなたは緊急時に支援が必要な近所の人を知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

市の福祉施策や制度、サービスについてうかがいます

問24 あなたは、次に挙げるような福祉にかかわる制度や言葉の中で、どれを知っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 八王子まるごとサポートセンター	2. 社会福祉協議会
3. ボランティアセンター	4. 高齢者あんしん相談センター
5. 民生委員・児童委員	6. 成年後見制度
7. 地域福祉権利擁護事業	8. 市民後見人
9. ういずサービス(有償家事援助サービス)	10. 福祉避難所
11. 受験生チャレンジ支援貸付事業	12. 住居確保給付金
13. 生活福祉資金	14. 生活困窮者自立支援制度

問25 あなたにとって、福祉サービスや制度の仕組みはわかりやすいですか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. かなりわかりやすい | 2. まあわかりやすい |
| 3. ややわかりにくい | 4. かなりわかりにくい |
| 5. どちらともいえない | |

問26 あなたは、今後福祉に関する講習や説明会などに参加したいと思いますか。
(〇は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 参加したい | 2. 都合があれば参加したい |
| 3. 参加したいと思わない | 4. わからない |

問27 あなたは、福祉の情報をどのように得たいと思いますか。
(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 1. 市の広報 | 2. 市のホームページ |
| 3. 社会福祉協議会だより | 4. 新聞やテレビ、ラジオ |
| 5. 回覧板 | 6. Twitter、Facebook、LINE など |
| 7. 市などのメールマガジン | 8. 直接訪問してほしい |
| 9. その他 () | 10. わからない |

問28 本市の地域福祉を充実させていくうえで、行政と住民の関係についてあなたの考えに近いものを選んでください。(〇は1つ)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである |
| 2. 行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである |
| 3. 行政が積極的に支援し、不足する部分を住民で助け合うべきである |
| 4. これらを実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない |
| 5. その他 () |
| 6. わからない |

問29 あなたは今後、八王子まるごとサポートセンター(5頁参照)を利用したいと思いますか。
利用したことがある人も、これからの利用意向を教えてください。(〇は1つ)

- | | | |
|----------|---------------|----------|
| 1. 利用したい | 2. 利用したいと思わない | 3. わからない |
|----------|---------------|----------|

IV 調査票

問30 生活にお困りの方への相談窓口を市役所本庁舎の福祉部生活自立支援課に設置していますが、ご存じでしたか。(○は1つ)

1. 知っていて、利用したことがあるもしくは人に勧めたことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らなかった
4. 知らなかったが、利用してみたい

問31 八王子市の生活困窮者自立支援制度では、生活困窮者に対して、次のような取組を実施しています。生活困窮者に対する取組として重要だと思うものはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 住居の確保のための家賃額を有期で支給
2. 生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援
3. 一般就労に向けた基礎能力を習得する就労準備支援
4. 家計を立て直すためのアドバイス(計画)
5. 世帯の子どもの学習面・生活面の支援
6. その他()

問32 地域福祉について、あなたが考えていることを、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

※記入された調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて

令和4年11月14日(月)までに投函してください。

新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査
調査報告書

発行 令和5年3月

編集 八王子市 福祉部 福祉政策課

〒192-8501

東京都八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号

Tel 042-620-7240／ Fax 042-628-2477

URL <https://www.city.hachioji.tokyo.jp/>

